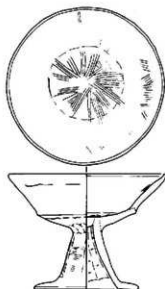


立命館大学  
文学部学芸員課程研究報告

第 3 冊

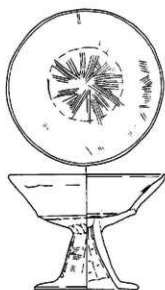
有熊遺跡第1・2次発掘調査概報



1991年

立命館大学文学部

立命館大学  
文学部学芸員課程研究報告  
第 3 冊  
有熊遺跡第 1・2 次発掘調査概報



1991年

立命館大学文学部

## 序

立命館大学文学部では、1989年7月26日から9月18日にわたって第1次、1990年8月7日から16日にわたって第2次の発掘調査を京都府与謝郡加悦町にある有熊遺跡において行った。本学文学部が1986年、87年の夏に行った同町鳴谷東1号墳の調査結果は、本誌の第1、2冊としてすでに発表し、関係機関に配布してご批判を仰いだが、今回は、その後をうけて有熊遺跡に対する最初の本格的な発掘調査として実施したものである。

調査の結果、つぎに挙げるような諸点が明かとなり、かなりの注目すべき成果が得られたと考えている。すなわち、①当初の目的は縄文時代の遺跡の調査であったが、古墳時代の遺存状態の良好な住居址を2棟発掘できた。②この2棟の住居址から、丹後地方では稀な、一括性の高い良好な土器群が得られた。③規模と立地、短い継続期間から判断して、製鉄に従事する集団の営んだ集落であった可能性がある。この点については、断定できる証拠は今回は得るまでには至らず、将来の調査に託すことになった。

今回の調査も、本学の学芸員課程および日本史学専攻の考古学実習としての性格をもつものであり、文学部の家根助教授の指導の下に、多数の大学院生、学部学生の参加を得て行われた。本報告書の編集は同助教授が担当したが、執筆はこれまでの概報と同様に、発掘調査の参加者が分担して行った。引き続き、関係各位の忌憚のないご叱正とご教示を頂ければ幸いである。

おわりに、今回の発掘に際しても、従来に優るとも劣らない多大のご協力と格別のご配慮を頂いた、京都府教育庁文化財保護課、京都府埋蔵文化財調査研究センター、加悦町文化財保護委員会、加悦町教育委員会、さらに、地元の様々な方々に心からお礼申しあげるとともに、今後の調査にも是非ご理解をお願いしたい。

1991年3月31日

立命館大学文学部長

中原章雄

## 例 言

- 1 本書は、1989（平成元）および1990（平成2）年度において、立命館大学が学芸員課程の一環として実施した、有熊遺跡<sup>ありくま</sup>の第1・2次調査概報であり、立命館大学文学部学芸員課程研究報告の第3冊にあたる。
- 2 有熊遺跡は京都府与謝郡加悦町加悦奥小字六蔵尾848・852に所在する。
- 3 調査の体制は本文4・5頁のとおりである。
- 4 地形測量と、調査区を設定する基準となる杭の主軸は、台地の傾斜と畑の耕作の邪魔にならぬ点を考慮して、南北に走る畦道に沿って設定した。従って、この便宜上の主軸は磁北に対して約28°東に傾くことになった。なお、図版中の北はいずれも、磁北である。
- 5 原則として、現代の遺構、時期不明の遺構には遺構番号をふらなかつた。人為的な遺構である可能性の低いものについてはもちろんであるが、その判断は、場合によっては必ずしも容易ではなかつた。
- 6 遺物の整理、実測及び製図は、主として中島和彦、赤木 剛、及川智恵、片岡弘至、角 建一、櫛部正典、鈴木康二、武谷和彦、武村英治、田中 牧、鶴田晴徳、中島明美、中島瑞穂、中野 充、橋本幸久、福田仁史、牧野 博が行い、稲葉隆宣、新開義夫、中村 豊がこれを助けたが、考古学実習受講生も一部の作業に参加した。
- 7 遺構写真および遺物写真の撮影は家根が行った。
- 8 本書の作成にあたって泉 拓良、佐藤晃一、立石堅志、次山 淳、長谷川達、平島崇男、森 健、矢野健一、山本雅和、和田晴吾の各氏の他、多くの方々から有益な助言を賜った。特に多くの助言を賜った方については結びにおいてその芳名を記した。
- 9 本書には今回の調査以前の有熊遺跡採集資料を付編として掲載した。その一部は長谷川達氏によって、すでに紹介済みのものである（長谷川 1981）。資料掲載のために加悦町教育委員会から同町立農村文化伝習センター所蔵の資料、小巻一美氏、長谷川達氏からは両氏の採集になる資料を借用させて頂いた。
- 10 本文の執筆は中島和彦、赤木 剛、片岡弘至、角 建一、櫛部正典、鈴木康二、武谷和彦、武村英治、鶴田晴徳、中島明美、中野 充、福田仁史、家根祥多が担当し、目次と文末にその名を記した。但し、共同執筆になる遺物項目の須恵器については、角 建一の執筆によっている。編集は全員の協力のもとに家根が行った。

# 目 次

|    |           |               |              |            |       |    |
|----|-----------|---------------|--------------|------------|-------|----|
| 一  | 調査の経過     | (家根)          | 1            |            |       |    |
| 1  | 遺跡の立地と環境  |               | 1            |            |       |    |
| 2  | 調査の体制     |               | 4            |            |       |    |
| 3  | 調査の経過     |               | 7            |            |       |    |
| 二  | 遺構        |               | 8            |            |       |    |
| 1  | 第1トレンチ    | (中島和)         | 9            |            |       |    |
| 2  | 第2トレンチ    | (中島和)         | 10           |            |       |    |
| 3  | 第3トレンチ    | (中島和・家根)      | 10           |            |       |    |
| a  | 住居址SB1    | 12            | b 土塋SK13     | 16         |       |    |
| c  | 配石遺構SX1   | 16            |              |            |       |    |
| 4  | 第4トレンチ    | (赤木)          | 17           |            |       |    |
| a  | 住居址SB2    | 18            | b 焼土塋SX3・SX4 | 20         |       |    |
| c  | 土塋SK13    | 20            |              |            |       |    |
| 5  | 第5トレンチ    | (赤木)          | 21           |            |       |    |
| 6  | 第6トレンチ    | (髙部)          | 21           |            |       |    |
| 三  | 遺物        |               | 22           |            |       |    |
| 1  | 縄文時代      |               | 22           |            |       |    |
| a  | 縄文土器      | (福田)          | 22           | b 石器       | (鈴木)  | 24 |
| 2  | 古墳時代      |               | 24           |            |       |    |
| a  | 土師器の分類    | (家根)          | 24           | b 各地区出土の土器 | (武村他) | 28 |
| c  | 鉄製品       | (片岡)          | 36           | d 土錘・石製品   | (鈴木)  | 37 |
| e  | 砥石        | (鈴木)          | 37           |            |       |    |
| 四  | 若干の考察と結び  | (赤木・武村・鶴田・家根) | 38           |            |       |    |
| 付編 | 有熊遺跡の採集資料 | (角・中野・武谷他)    | 49           |            |       |    |
|    | 遺物観察表     | (角・中野・福田・鶴田他) | 56           |            |       |    |

## 図版目次

|      |                    |      |                       |
|------|--------------------|------|-----------------------|
| 図版 1 | 遺跡遠景               | 図版 8 | 石器・土師器 (1)・須恵器 (1)    |
| 1    | 遺跡遠景               | 1    | 石鐮・尖頭器・石匙             |
| 2    | 調査前の状況             | 2    | 石錘                    |
| 図版 2 | 各トレンチの完掘状況 (1)     | 3    | 第1トレンチ出土土師器・須恵器       |
| 1    | 第1トレンチ             | 4    | 第3トレンチ包含層出土土師器        |
| 2    | 第2トレンチ             | 5    | 住居址SB1出土須恵器           |
| 3    | 第3トレンチ             | 図版 9 | 土師器 (2)               |
| 4    | 第6トレンチ             | 1    | 住居址SB1出土土師器 (1)       |
| 図版 3 | 各トレンチの完掘状況 (2)     | 図版10 | 土師器 (3)               |
| 1    | 第4トレンチ             | 1    | 住居址SB1出土土師器 (2)       |
| 2    | 第3トレンチ配石S X 1      | 図版11 | 土師器 (4)・須恵器 (2)       |
| 図版 4 | 住居址 (SB1)          | 1    | 住居址SB1内土壇SK5出土土師器・須恵器 |
| 1    | 住居址SB1遺物出土状況       | 2    | 住居址SB2出土土師器 (1)       |
| 2    | 住居址SB1完掘状況         | 図版12 | 土師器 (5)               |
| 図版 5 | 遺物出土状況             | 1    | 住居址SB2出土土師器 (2)       |
| 1    | SB1, B区遺物出土状況      | 図版13 | 土師器 (6)・鉄製品・石製品ほか     |
| 2    | SB1, D区遺物出土状況      | 1    | 第4・6・7トレンチ出土土師器       |
| 3    | SB1, 焼土域中の遺物出土状況   | 2    | 第4トレンチSK14出土土師器       |
| 4    | SB1, 土壇SK5遺物出土状況   | 3    | 第7トレンチ出土土師器           |
| 5    | SB1下部の土壇SK13       | 4    | ミニチュア土器               |
| 6    | 土壇SK14遺物出土状況       | 5    | 土錘                    |
| 7    | 焼土壇S X 3           | 6    | 管玉                    |
| 8    | 焼土壇S X 4           | 7    | 構造物の壁体                |
| 図版 6 | 住居址 (SB2)          | 8    | 鉄滓                    |
| 1    | 住居址SB2遺物出土状況       | 9    | 砥石                    |
| 2    | 住居址SB2完掘状況         | 10   | 鉄製品                   |
| 図版 7 | 縄文土器               | 図版14 | 土器の製作技法               |
| 1    | 早期押型文土器 (第1・3トレンチ) | 1    | 船元I式の施文順序             |
| 2    | 同左内面               | 2    | 高杯B手法坏部               |
| 3    | 中期の土器 (第3・4トレンチ)   | 3    | 高杯B手法坏部               |
| 4    | 同左内面               | 4    | 高杯B手法坏部               |
| 5    | 早期押型文土器 (第6・7トレンチ) | 5    | 高杯C手法脚部               |
| 6    | 同左内面               | 6    | 高杯C手法脚部               |
| 7    | 中期の土器 (第6・7トレンチ)   | 7    | 埴A手法                  |
| 8    | 同左内面               | 8    | 埴B手法                  |
|      |                    | 9    | 埴C手法                  |

## 挿 図 目 次

- |                      |                                  |
|----------------------|----------------------------------|
| 図 1 有熊遺跡周辺の地形        | 図23 第1トレンチ出土土器                   |
| 図 2 加悦町の主要遺跡         | 図24 第3トレンチ包含層出土土器                |
| 図 3 トレンチ配置図          | 図25 第3トレンチ住居址SB1出土須恵器            |
| 図 4 第1トレンチ           | 図26 第3トレンチ住居址SB1出土土師器1           |
| 図 5 第2トレンチ           | 図27 第3トレンチ住居址SB1出土土師器2           |
| 図 6 第3トレンチ           | 図28 SB1内SK5, SK2, 第3トレンチSP10出土土器 |
| 図 7 第3トレンチ住居址SB1     | 図29 第4トレンチ住居址SB2出土土器             |
| 図 8 住居址SB1遺物出土状況     | 図30 第4・6・7トレンチ出土土器               |
| 図 9 土壌SK5遺物出土状況      | 図31 鉄器                           |
| 図10 住居址SB1下部の土壌SK13  | 図32 土鍬・管玉                        |
| 図11 配石SX1            | 図33 砥石                           |
| 図12 第4トレンチ           | 図34 甕口縁の分類                       |
| 図13 第4トレンチ住居址SB2     | 図35 高坏口縁・脚裾部の分類                  |
| 図14 住居址SB2遺物出土状況     | 図36 鳴谷東1・3号墳供献土師器                |
| 図15 第4トレンチ焼土壌SX3・SX4 | 図37 埴口縁の分類                       |
| 図16 第4トレンチ土壌SK14     | 図38 縄文土器                         |
| 図17 第5トレンチ           | 図39 石鍬・石匙・石錐                     |
| 図18 第6トレンチ           | 図40 石錐・小型磨製石斧・垂飾品                |
| 図19 縄文土器             | 図41 須恵器・土師器                      |
| 図20 石鍬・尖頭器・石匙        | 図42 勾玉・有孔円盤・垂飾品                  |
| 図21 切目石鍬             |                                  |
| 図22 土師器の器種分類         |                                  |

## 表 目 次

- |                   |                   |
|-------------------|-------------------|
| 表 1 加悦町の主要遺跡地名表   | 表 6 住居址出土甕の残存個体数  |
| 表 2 作業日程表(1989年度) | 表 7 住居址出土高坏の残存個体数 |
| 表 3 作業日程表(1990年度) | 表 8 高坏統計表         |
| 表 4 土師器各器種の平均直径   | 表 9 住居址出土埴の残存個体数  |
| 表 5 土師器各器種の残存個体数  |                   |

## 一 調査の経過

### 1 遺跡の立地と環境

有熊遺跡は京都府与謝郡加悦町加悦奥小字六蔵尾848・852に所在する。丹後半島の南側に開けた小盆地である加悦谷には、野田川が日本海に向かって北東に流れているが、その野田川に、西へは但馬に通じる細い谷沿いに加悦奥川が東流して注いでいる。遺跡はこの加悦奥川南岸に存在するやや広い沖積地に向かって南から延びる、現在は畑地となっている台地上に立地する。遺跡の標高は51～49m、北を流れる加悦奥川との比高差は約30mである。遺跡は1973年夏に同志社大学考古学研究会によって発見され、以後地元の人々による表面採集活動を通じて、縄文時代早期、中期、古墳時代、平安時代などの時代にあたる遺跡として認知されるに至った。そのうち縄文時代の資料については、早期の押型文土器、



図1 有熊遺跡周辺の地形 (1/4000)

表1 加悦町の主要遺跡地名表

| No | 遺跡名       | 所在地      | 性         | 期        | 主要遺構等             | 規模・出土遺物等                             |
|----|-----------|----------|-----------|----------|-------------------|--------------------------------------|
| 1  | 有熊遺跡      | 加悦奥有熊    | 集落        | 縄文～古墳    | 竪穴住居跡2棟           | 石器、縄文土器、土師器、須恵器                      |
| 2  | 有熊横穴群     | ＊ 横辺     | 横穴        | 古墳後      | 横穴3基              |                                      |
| 3  | 有熊北遺跡     | ＊ 有熊     | 散布地       | 古墳中～平安   |                   | 弥生土器、土師器、須恵器                         |
| 4  | 法光寺古墳群    | ＊ 法光寺    | 方墳        | 古墳中～後    | 8基                |                                      |
| 5  | 経吉古墳群     | ＊ 経吉     | 方墳        | 古墳中～後    | 5基                |                                      |
| 6  | 七谷古墳群     | ＊ 法光寺    | 方墳        | 古墳中～後    | 9基                |                                      |
| 7  | 西外古墳群     | ＊ 西外     | 円墳・方墳     | 古墳中～後    | 6基                |                                      |
| 8  | 城ヶ谷古墳群    | ＊ 城ヶ谷    | 方墳・円墳     | 古墳中～後    | 9基                |                                      |
| 9  | 丸山東古墳群    | ＊ 丸山谷    | 方墳        | 古墳中～後    | 5基                |                                      |
| 10 | 加悦大坪山古墳群  | ＊ 城ヶ谷    | 方墳・円墳     | 古墳中～後    | 11基               |                                      |
| 11 | 加悦大坪山東古墳群 | ＊ 福井     | 円墳・方墳     | 古墳中～後    | 23基               | 1号墳径21m、2号墳径8m、3号墳一辺9m               |
|    | 1号墳       | ＊ ＊      | 円墳        | 古墳中～後    |                   | 金環、管・勾玉、刀、刀子、人骨                      |
|    | 2号墳       | ＊ ＊      | 円墳        | 古墳中～後    |                   | 人骨                                   |
|    | 3号墳       | ＊ ＊      | 方墳        | 古墳中～後    |                   | 銅、人骨                                 |
| 12 | 駒田遺跡      | ＊ 駒田     | 散布地       | 古墳中      |                   | 弥生土器、土師器、石斧、勾玉                       |
| 13 | 須代遺跡      | ＊ 明石 池田  | 集落        | 縄文、弥中～平安 | 竪穴住居跡2棟           | 弥生土器、土師器、須恵器、石冠、石鏃                   |
| 14 | 桑飼小学校遺跡   | ＊ 桑ノ谷    | 散布地       | 弥生～平安    |                   | 弥生土器、銅製土製品                           |
| 15 | 蔵ヶ崎遺跡     | ＊ 神賀     | 集落        | 弥生前～     |                   |                                      |
| 16 | 経平山古墳群    | ＊ 藤野     | 前方後円・方墳   | 古墳前～中    | 8基                | 1号墳全長145m、2号墳一辺47m                   |
|    | 1号墳       | ＊ ＊      | 前方後円墳     | 古墳前      | 舟型石棺直葬、段築、舟形石、埴輪列 | 長官子孫内行花文鏡、鉄剣、鉄鎧、鉄斧、円鏡・形象埴輪           |
| 17 | 作山古墳群     | 加悦 作山    | 前方後円・方・円墳 | 古墳中      | 4基                | 1号墳全長35m、4号墳全長29m                    |
|    | 1号墳       | ＊ ＊      | 円墳        | 古墳中      | 組合式石棺直葬、舟形石、埴輪列   | 四獣鏡、石鏡、碧玉製勾玉、管土・鉄剣、鉄鎧、鉄刀子、鉄斧、円鏡・形象埴輪 |
| 18 | 明石愛宕山古墳群  | ＊ 明石 桑ノ谷 | 円墳・方墳     | 古墳中      | 26基               | 3号墳径27m、9号墳25×21m                    |
| 19 | 温江遺跡      | 加悦 作山    | 散布地       | 弥生       |                   | 弥生土器、石斧、礫石                           |
| 20 | 温江丸山古墳    | ＊ 温江 谷原  | 円墳        | 古墳前      | 組合式石棺 竪穴式石棺       | 径65m、四獣鏡、三角縁神獸鏡、鉄刀                   |
| 21 | 温江小塚古墳    | ＊ 小塚     | 円墳        | 古墳中      | 竪穴式石棺             |                                      |
| 22 | 温江大塚古墳    | ＊ ＊      | 円墳        | 古墳中      | 葺石、埴輪             | 径45m、管                               |
| 23 | 中上司遺跡     | ＊ 中上司    | 古墳、集落     | 古墳～平安    | 竪穴住居跡9棟           | 土師器、須恵器、黒色土器                         |
| 24 | 七面山古墳     | ＊ 後野 鳴岡  | 円墳        | 古墳中      | 葺石                | 径40m                                 |
| 25 | 後野四山古墳群   | ＊ ＊      | 帆立貝形・方墳   | 古墳中      | 2基、段築、葺石、埴輪列      | 1号墳径31m、2号墳一辺18m                     |
| 26 | 鳴岡遺跡      | ＊ ＊      | 散布地       | 高山寺式     |                   | 縄文土器、弥生土器、土師器                        |
| 27 | 井前遺跡      | ＊ 井前     | 散布地       | 弥生～平安    |                   | 弥生土器、土師器                             |
| 28 | 鳴谷遺跡      | ＊ 温江 尾上  | 散布地       | 古墳後      |                   |                                      |
| 29 | 鳴谷東1号墳    | ＊ ＊      | 円墳        | 古墳中      | 段築、葺石、埴輪列         | 径48m、円鏡・形象埴輪、土師器、須恵器                 |
| 30 | 白米山古墳群    | ＊ 後野 白米山 | 前方後円・円墳   | 古墳前      | 5基                | 2号墳径20m                              |
|    | 1号墳（白米山）  | ＊ ＊      | 前方後円墳     | 古墳前      | 段築、葺石             | 全長118m                               |
| 31 | 後野愛宕神社古墳  | ＊ 後野 愛宕山 | 円墳        | 古墳       | 箱式石棺              | 龍角形、人骨                               |
| 32 | 金屋遺跡      | ＊ 金屋     | 散布地       | 弥生       |                   |                                      |
| 33 | 金屋上司古墳    | ＊ 金屋 上司  | 円墳        | 古墳後      | 無輪横穴式室            | 径13m、玄室長4.1×幅2m                      |

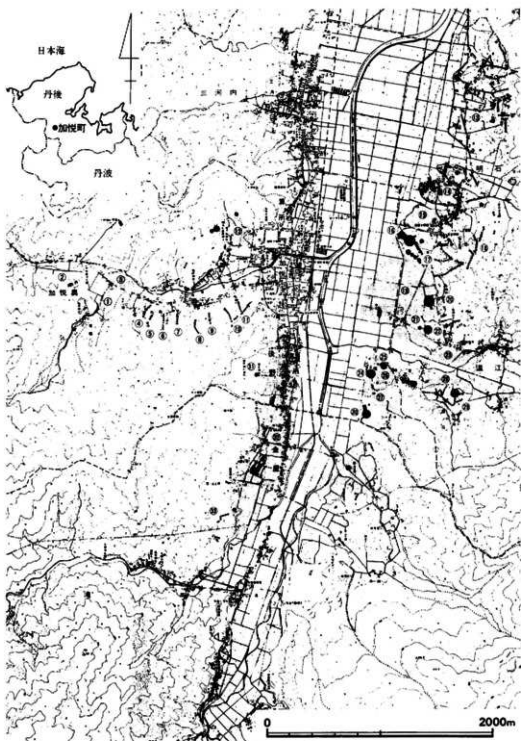


図2 加悦町の主要遺跡

中期の船元式土器のほか、石鎌、石錘、土面が、京都府埋蔵文化財調査研究センターの長谷川達氏によって紹介されており(長谷川 1981)、この地域に数少ない縄文遺跡の一つとして知られていた。今回の調査は、立命館大学文学部の学芸員課程実習の一環として発掘調査すべき縄文遺跡を考慮中のところを、加悦町教育委員会の佐藤晃一氏の薦めによって調査を決定した次第であるが、発掘の結果、予想に反して古墳時代中期の住居址を確認するに至った。そこで、この地域全体の歴史的環境については、本報告の第1冊において本学文学部の和田晴吾氏が詳しく述べておられるためこれに譲ることとして(和田晴吾ほか1987)、古墳時代の加悦奥についてごく簡単にふれておきたい。加悦奥川の南岸には、加悦大師山古墳群、加悦大師山東古墳群、七谷古墳群、城ヶ谷古墳群など、横穴式石室を持つ小規模の古墳群が尾根の末端に数多く存在するが、古墳時代中期を遡る古墳は、現在までのところ皆無に等しい。集落についても有熊遺跡とその北側の低地に立地する有熊北遺跡、北岸の加悦谷への出口付近に位置する駒田遺跡はすべて古墳時代中期後半以後に属し、この時期以後に何らかの理由でこの地域への人口の集中が起こったと考えられる。それは、こうした沖積地に乏しい所には不向きな農耕以外の特殊な生業、たとえば鉄生産の開始などによると推定できるが、その可能性については、結びにおいて、本報告の総括として若干の考察を加えることにする。

## 2 調査の体制

調査は立命館大学文学部(中原章雄学部長)が主体となり、史学科日本史学専攻教員の家根祥多が担当した。参加学生は下記の40名で、5班に分かれ各自実質5日間の実習を行った。但し、調査の準備と撤収、及び調査を円滑に進めるために、有志の学生は調査補助員として長期間にわたり参加した。

調査の際には、加悦町教育委員会、加悦町文化財保護委員会をはじめ、京都府教育庁文化財保護課、京都府埋蔵文化財調査研究センターのご協力を得た。また、関係方面の方々に、「有熊遺跡発掘調査懇談会」にご参加をいただき、様々な面でのご教示、ご支援をいただいた。特に、加悦町教育委員会の細井欣俱教育長と佐藤晃一氏にはひとかたならぬご援助を賜った。さらに、遺跡の土地所有者である小巻一美氏、村上元宣氏には調査の快諾のみならず、畑の休耕をしてまで調査に協力していただき、加えて物心両面の支援をうけた。本書を上梓することができたのも、ひとえにこれらの方々のご厚情によるものであることをここに記し、厚くお礼を申し上げる次第です。

有熊遺跡発掘調査懇談会（いずれも当時）

- （会長） 中原章雄 立命館大学文学部長  
 家根祥多 立命館大学文学部助教授  
 細井欣俱 加悦町教育委員会教育長  
 杉本利一 加悦町文化財保護委員会会長  
 宮野勝治 加悦町文化財保護委員会副会長  
 小野泰昭 加悦町文化財保護委員  
 細井 哲 加悦町加悦奥区长  
 小巻一美 土地所有者  
 村上元宣 土地所有者  
 安藤信策 京都府立丹後郷土資料館資料課長  
 杉原和雄 京都府埋蔵文化財調査研究センター調査第二課長  
 中谷雅治 京都府埋蔵文化財調査研究センター次長兼調査第一課長  
 浪江庸二 京都府文化財保護指導委員  
 佐藤晃一 加悦町教育委員会社会教育主事

参加学生（いずれも当時）

立命館大学文学部

（大学院博士課程前期2回生） 武田和哉

（卒業生） 安部 慎一

- （4回生） 池本ひろみ 伊豫田孝幸 鹿原 剛志 吉川 俊治 釣井 幸  
 中島 和彦 松原 久 渡辺 豊  
 （3回生） 赤木 剛 及川 智恵 片岡 弘至 角 建一 櫛部 正典  
 鈴木 康二 田崎 晶子 武谷 和彦 武村 英治 田中 一正  
 田中 牧 辻 昌子 鶴田 晴徳 中島 明美 中島 瑞穂  
 中野 充 長松 純子 橋本 幸久 樋口 宏志 福田 仁史  
 牧野 博 村上 元洋 森田 恵子  
 （2回生） 今江 正子 佐藤 歩 荘野 忠之 中川 寧 蓮尾 愛  
 山田 聖子  
 （1回生） 早川 陽子

表2 作業日程表 (1989年度)

| 作業<br>期日 | 作             | 業 内 容 |     |     |     |     |     |     | 班    |
|----------|---------------|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
|          |               | T 1   | T 2 | T 3 | T 4 | T 5 | T 6 | T 7 |      |
| 7・26     | ・加悦町入り        |       |     |     |     |     |     |     | T 1  |
| 27       | ・挨拶まわり・宿舎整備   |       |     |     |     |     |     |     |      |
| 28       | ・現地作業開始・草刈り   |       |     |     |     |     |     |     |      |
| 29       |               |       |     |     |     |     |     |     |      |
| 30       | 〔レベル移動〕       |       |     |     |     |     |     |     |      |
| 31       | ・休日・通塾見学      |       |     |     |     |     |     |     | T 2  |
| 8・1      |               |       |     |     |     |     |     |     |      |
| 2        | ・午前雨作業中止      |       |     |     |     |     |     |     |      |
| 3        | 〔トラバース調査〕     |       |     |     |     |     |     |     |      |
| 4        |               |       |     |     |     |     |     |     |      |
| 5        |               |       |     |     |     |     |     |     | T 3  |
| 6        | ・休日           |       |     |     |     |     |     |     |      |
| 7        | ・午前雨作業中止      |       |     |     |     |     |     |     |      |
| 8        |               |       |     |     |     |     |     |     |      |
| 9        |               |       |     |     |     |     |     |     |      |
| 10       |               |       |     |     |     |     |     |     | T 4  |
| 11       | 〔地形測量〕        |       |     |     |     |     |     |     |      |
| 12       | ・休日           |       |     |     |     |     |     |     |      |
| 13       |               |       |     |     |     |     |     |     |      |
| 14       | ・雨で終日作業中止     |       |     |     |     |     |     |     |      |
| 15       | ・雨で作業は1時間のみ   |       |     |     |     |     |     |     | T 5  |
| 16       |               |       |     |     |     |     |     |     |      |
| 17       |               |       |     |     |     |     |     |     |      |
| 18       |               |       |     |     |     |     |     |     |      |
| 19       |               |       |     |     |     |     |     |     |      |
| 20       |               |       |     |     |     |     |     |     | T 6  |
| 21       |               |       |     |     |     |     |     |     |      |
| 22       |               |       |     |     |     |     |     |     |      |
| 23       |               |       |     |     |     |     |     |     |      |
| 24       |               |       |     |     |     |     |     |     |      |
| 25       |               |       |     |     |     |     |     |     | T 7  |
| 26       | ・現地説明会        |       |     |     |     |     |     |     |      |
| 27       | ・休日           |       |     |     |     |     |     |     |      |
| 28       |               |       |     |     |     |     |     |     |      |
| 29       | ・実習生帰る・有志残る   |       |     |     |     |     |     |     |      |
| 30       | ・午前雨作業中止      |       |     |     |     |     |     |     | T 8  |
| 31       |               |       |     |     |     |     |     |     |      |
| 9・1      | ・雨で作業は11時まで   |       |     |     |     |     |     |     |      |
| 2        | ・雨で終日作業中止     |       |     |     |     |     |     |     |      |
| 3        | ・雨で終日作業中止     |       |     |     |     |     |     |     |      |
| 4        |               |       |     |     |     |     |     |     |      |
| 5        | ・午前雨作業中止      |       |     |     |     |     |     |     | T 9  |
| 6        | ・雨で終日作業中止     |       |     |     |     |     |     |     |      |
| 7        | ・雨で終日作業中止     |       |     |     |     |     |     |     |      |
| 8        |               |       |     |     |     |     |     |     |      |
| 9        |               |       |     |     |     |     |     |     |      |
| 10       | ・雨で作業は3時まで    |       |     |     |     |     |     |     | T 10 |
| 11       |               |       |     |     |     |     |     |     |      |
| 12       |               |       |     |     |     |     |     |     |      |
| 13       |               |       |     |     |     |     |     |     |      |
| 14       |               |       |     |     |     |     |     |     |      |
| 15       |               |       |     |     |     |     |     |     | T 11 |
| 16       |               |       |     |     |     |     |     |     |      |
| 17       |               |       |     |     |     |     |     |     |      |
| 18       | ・撤収準備・夜、加悦を去る |       |     |     |     |     |     |     |      |
|          |               |       |     |     |     |     |     |     |      |

### 3 調査の経過

調査の経過の概略は表2、表3の通りである。第1次調査は1989年7月26日に加悦町に到着し、7月28日から作業に入った。未調査の遺跡のため、全体の状況を把握すべくできるだけ広い範囲にわたってトレンチを配し、あわせて地形測量を行った。また、周囲に併合トラバースのための杭を16設定し、トラバース測量を行って基準点として利用した。使用した標高の基準は、遺跡北方の加悦奥川に架かる谷田橋のたもとのベンチ・マーク22.570mである。平板測量は10cmコンターで実施した。

発掘は2×5mを基本としたトレンチを6カ所に設定し、状況の変化に従って適宜これを拡大する方法をとった。その結果、縄文時代の包含層及び古墳時代の包含層、遺構から出土することが明かとなった。第1及び第2トレンチでは現代のものとみられる遺構がほとんどであったが、第3、第4トレンチにおいて住居址とみられる遺構の一部をそれぞれ1カ所検出し、拡張したところ、古墳時代中期の住居址と判明した。地形測量によって、古墳時代の遺構は台地の南半部の最も高い平坦部を中心にみられることが判り、第4トレンチの南西に第7トレンチを設定し、住居址とおぼしき遺構を確認した。第4トレンチでは、炭焼き窯の可能性のある焼土塊を検出し、第3トレンチの住居址SB1では、焼けた床面上に火を用いた構造物の壁体片と炭が散乱し、加えて床面下に炭を混えた黒色の土を充填する遺構を確認した。製鉄に関わる集落であった可能性が考えられるに至ったが、8月末以降は連日の雨に妨げられて調査は進まず、第7トレンチの遺構の発掘を放棄し、住居址SB1床面下の遺構の調査のみを次年度に行うことを決定して、9月18日夜加悦町を後にした。

第2次調査は1990年8月7日に開始し、住居址SB1を完掘後写真撮影を行った。続いてその下部の土壌SK13の調査を行った結果、土壌は住居址に伴うものではなくこれに先行し、何らかの目的のために掘られ、使用の後一気に埋め戻されてその上に住居址が作られたことが判明した。また、念のためかつての畦に沿ってサブトレンチを掘って貼床の有無を調べ、柱穴を断ち割って掘り形の確認を行った。8月16日には埋め戻しを行い、大学への帰途についた。

表3 作業日程表(1990年度)

| 作業<br>期日 | 作 業 内 容      |
|----------|--------------|
|          | T 3          |
| 8・7      | ・昨年の住居址検出    |
| 8        | ・住居址完掘       |
| 9        |              |
| 10       |              |
| 11       | ・写真撮影・土壌断面実測 |
| 12       | ・休日          |
| 13       | ・住居断面実測      |
| 14       | ・写真撮影        |
| 15       | ・写真撮影        |
| 16       | ・埋め戻し・撤収     |

(家根)

## 二 遺 構

遺跡の立地する台地は南西部が最も高く、そこから南東部にかけてが徐々に傾斜する平坦部をなしており、南西から北東に向かって緩やかな傾斜をもって下ってゆき、その先は埋没する谷へと続いている（図3）。遺跡はこの谷の南側にも広がりを持つようであるが、時間の関係もあって今回の調査の対象からは除外した。地区の割付を行う軸線は、調査の許可を頂いた部分以外は現在も耕作中のため、この点を勘案して南北の畦道に沿ってその西端に設定した。従ってこの南北の軸線は磁北に対して東に約28°傾くことになった。

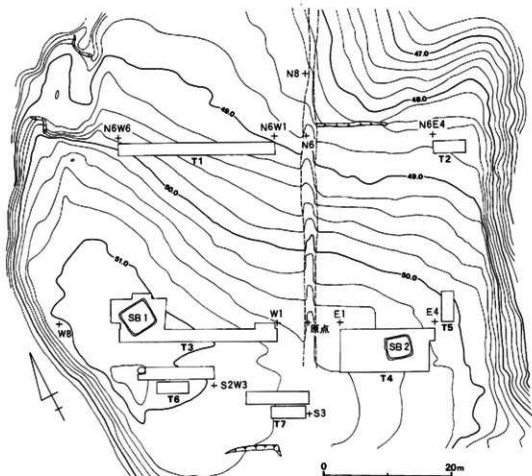


図3 トレンチ配置図 (1/600)

原点はこの南北軸の南寄りに設定した。他の基準点はこの原点を中心に東西南北の軸に従って5 m おきに適宜設定し、方位のローマ字を冠し座標軸に従って命名した。すでに述べたように、未調査の遺跡のため、全体の状況を把握すべくトレンチはできるだけ広い範囲にわたって設定し、遺構の検出状況に従って適宜これを広げて行く方法をとった。煩雑を避けるため、現代の遺構、時期不明の遺構には番号を振っていない。(家根)

# 1 第1トレンチ (図4)

台地が北東に向かって下ってゆく緩斜面上に、N6W1の1 m 南の地点を北東の隅として、東西に長い25×2 m で設定した。等高線に対し斜交するために、トレンチ両端の地山の比高差は約0.9 m ある。暗褐色粘質土より上の層は、現代の耕作のためにトレンチ西南の台地高所から搬入された土と考えられる。従って、遺構はほとんどが暗褐色粘質土の上面から掘り込まれているが、現代の遺構ないしは擾乱がかなり含まれ、古墳時代以前や時期不明のものについても、明確に人為的な遺構と判断できる

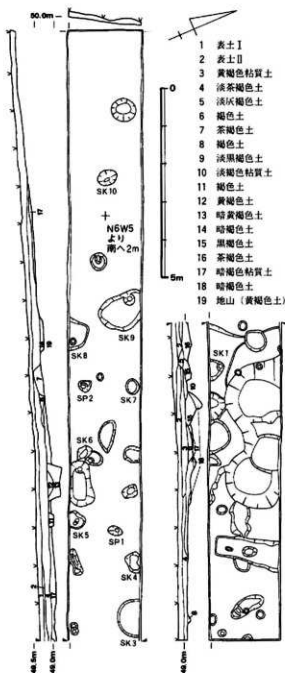


図4 第1トレンチ (1/100)

ものは存在しない。暗褐色粘質土層そのものも西南部の地山の流出によって形成されたものであり、従ってトレンチ西部ではこれが無くなり、地山が直接表土に続いている。この暗褐色粘質土層から、少量ながら縄文時代早期の押型文土器、古墳時代中期の須恵器、土師器が出土した。また、トレンチ西部の地山直上から管玉1点が出土している。さらに、暗褐色粘質土の最下層で、押型文土器に伴う無文土器が15点集中して出土した地点があり、分層はできなかったものの、この時期の包含層が部分的に残存している可能性は残った。

また、表土から鉄滓の薄片が出土している。(中島和)

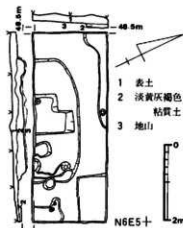


図5 第2トレンチ (1/100)

## 2 第2トレンチ (図5)

台地の北東部、第1トレンチとは埋没谷を挟んだ東側に、N6E4の1m南の地点を西北の隅として東西に長い5×2mで設定した。表土直下が地山となっており、トタン板等を投げ込んだ現代の遺構のみを検出した。遺物も最近のもの以外は一切出土せず、包含層、遺構共に元より存在しなかったか、削平をうけてすでに消滅したものと考えられる。(中島和)

## 3 第3トレンチ (図6)

台地の最高所のほぼ平坦な面に、W1より1m南の地点を東北の隅として、東西に長い25×2mで設定した。その後西端部付近で古墳時代の住居址SB1、東端部で配石遺構SX1を検出したためそれぞれ北側に拡張を行った。東端部を除いては表土直下が地山となっている。配石遺構SX1は、実測の後下部の調査を行ったが、周囲のビット群を除いては何の遺構も確認できず、また付近からはごく少量の縄文土器と土師器が出土したのみで、性格、時期共に不明である。土壌SK11から船元I式、ビットSP8からチャート製の剥片のみを出土した以外はすべて土師器を出土し、しかも時期の同定可能な破片はほとんどが古墳時代中期に属するため、番号を振った遺構の多くはこの時期に属するものと考えられる。ただし、第1トレンチと同様に、番号を振っていないものも含めて不定形の土壌やビットには、木の根跡など自然の営為によるものが相当数含まれている模様で、SX2もそうしたものの可能性がある。トレンチの西端を南北に走る溝は、地元の人々の証言によると、第二次大戦末期に開墾のために樹木を伐採し、これを引きずった跡であるという。

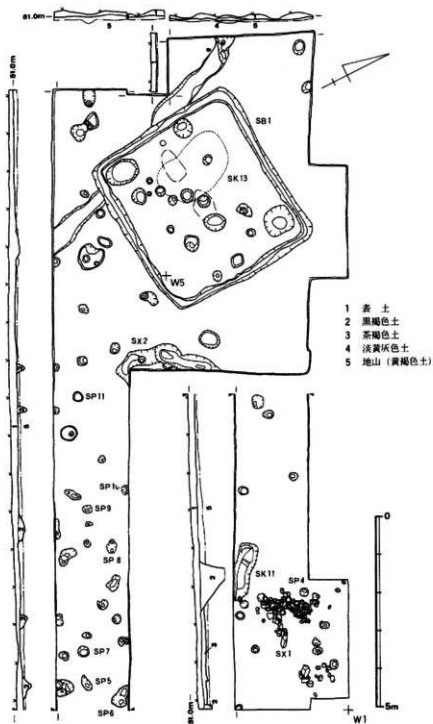


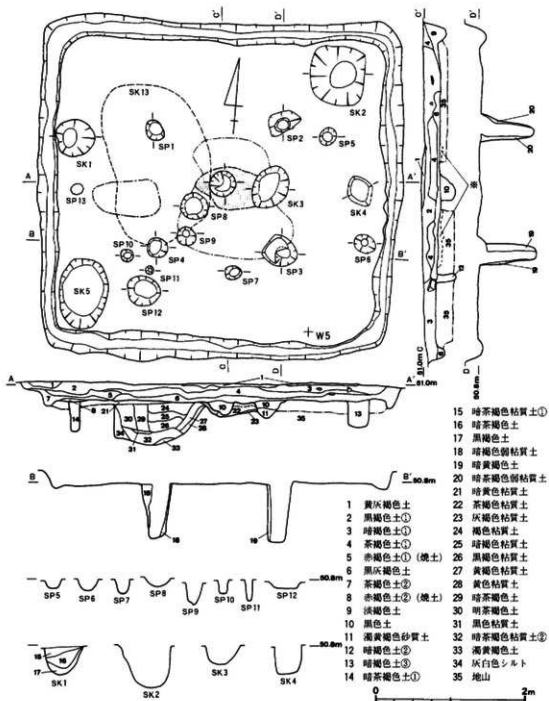
図6 第3トレンチ (1/100)

#### a 住居址SB1 (図7)

長方形を呈し、検出面で長辺4.85m、短辺4.40m、床面で長辺4.60m、短辺4.30m、深さは現存で20~30cmを測る。主軸方向はN-94.5°-Wである。床面中央部に楕円形の炉址があり、その周辺と東側の土壌SK3にかけての床面が火を強く受けて赤変していた。さらに炉址の西側の中央部も強い火を受けて赤変しており、その上部の黄色の粘質土には、焼土や炭、土器とともに強く火を受けた構造物の壁体が多数含まれていた。炭と火を受けた構造物の壁体は住居址内の他の地点でも散見された。また、床面に近い黒色土層には多くの小さな炭が含まれており、むしろこの炭のために黒色を呈するものである。壁沿いの周溝は途切れることなく全周する。炉址から住居址の四隅を結ぶ線上のやや炉址寄りに直径25cm前後、深さ70~80cmの4個の柱穴SP1~4が穿たれているが、その深さが大人の腕の届く程度であるのは興味深い。また、第2次調査において断ち割りを行ったところ、掘り形と柱痕とを確認した。

住居址の東北と西南の隅近くに貯蔵穴の可能性のある土壌SK2とSK5が存在し、共に土器を出土したが、特にSK5からは完形品を多く含む良好な一括品の出土をみた。他の土壌SK1・3・4からは遺物の出土はみられなかった。また支柱穴以外のビットSP5~13のうち、第2次調査によって焼土の下から確認したSP13は、その位置からみて補助的な柱であった可能性があるが、他は大きさも深さも統一性がなく、それらのあるものは補助的な柱であった可能性は否定できないが、後世の木の根跡や床面の傷みも含まれていると思われ、判断は難しい。但し、さきに述べた火を受けた構造物の壁体の存在から推察して何か特殊な遺構があり、これを支えるためにSP13はいくつかの補助的な柱を必要としたとも推定できる。柱穴SP1~3とビットSP7、SP9から少量の土師器が出土している。第2次調査において、貼床の有無を確かめるために、第1次調査時の畦に沿ってサブトレンチを設定したが、後に述べる土壌SK13の上面と西壁にかけての一番、及び柱穴の掘り形上面の一部以外は確認できなかった。土壌とビットの配置等からみて住居址の入口は東側にあったと考えている。

住居址SB1からは須恵器、土師器、鉄器、砥石などの非常に良好な一括資料の出土をみた(図8)。土壌SK5以外にも土師器短頸壺68が鉢102の上に重なり、また甕79は単独で周溝の底面近くに完形で遺存しており、土師器高坏80・83、埴107もほぼ完形でまっとうて出土している。須恵器坏身60、坏蓋59はやや散らばっているが、接合によっては完形となった。土師器甕69・74・78も完形にはならなかったが、床面直上に遺存していた。



一点鎖線は火を受けて赤変している部分を示す。網かけの部分は特に強く火を受けている部分。

図7 第3トレンチ住居址SB1 (1/50)

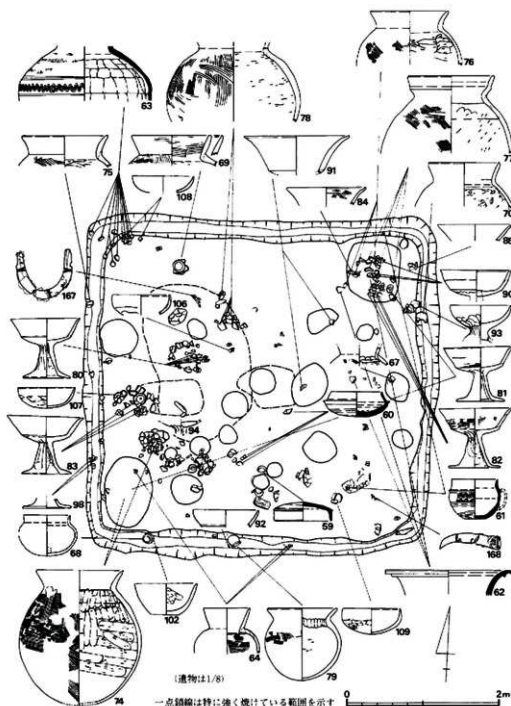


図8 住居址SB1 遺物出土状況 (1/50)

このうち74は、口縁部の接合する小片がSK5から出土した。住居址北東部の遺物群はこれらとやや異なっており、少し浮いた状態で中央に近いほど床面に近くみられ、周辺からの投棄によることが明かだが、このうち土師器甕76は、接合はしないものの直下の土壌SK2の最下層出土の破片と同一個体と判断でき、須恵器甕62も床面近くと最下層の黒灰褐色土出土の破片がSK2最下層出土の破片と接合している。また、土師器高坏81・82がほぼ完形で出土しており、このうち81は口縁部の1片がSK5から出土している。高坏93も脚根部を欠く以外はほぼ完形で、90も坏部のみであるが、かなりの部分が遺存する。また、住居址の西北寄りに鉄製の銀の刃先、南東寄りに鉄製の鎌が遺存していた。

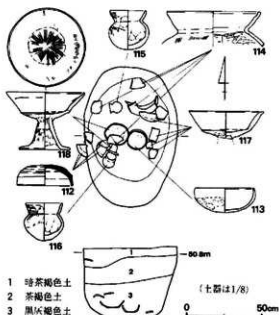


図9 土壌SK5 遺物出土状況 (1/25)

つぎに土壌SK5（図9）であるが、すべてが最下層の黒灰褐色土中に底面よりやや浮いた状態で出土している。須恵器坏蓋112は土壌上面の破片と接合してほぼ完形となり、土壌外資料との接合関係はすでに述べたようである。他に土師器丸底壺115、116、高坏118、坏113が完形品で、高坏117は坏部のみがほぼ完存し、甕114は口縁部のみが完存する。

以上を要するに、ほとんどの遺物は、土壌が住居址に当初から付属するものであったとすれば、住居址内の土壌が開口している段階で、短期間のうちに投棄が行われ、完了したと考えられる。つまり、SK2・SK5と住居址床面及び埋土出土の土器との接合関係を通して、土壌への遺物の廃棄と住居址内の他の部分への遺物の廃棄とがほぼ同時に行われたことが推察できるわけである。但しSK5については、完形品を多く含む点からも、その投棄に何か特殊な意味が込められていた可能性もある。また遺物の量からみて、その廃棄には、この住居址の住人だけではなく集落の他の住居の住人たちも加わっていた可能性も考慮すべきであろう。



図10 住居址SB1下部の土壌SK13 (1/50)

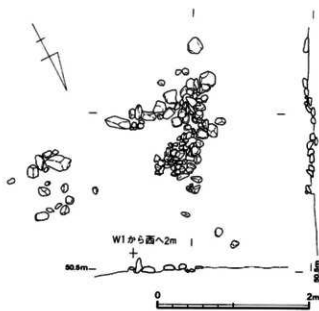


図11 配石SX1 (1/50)

## b 土壌SK13 (図10)

第1次調査において住居址の床面下に確認した遺構で、第2次調査の結果、柱穴SP1・SP4に切られていることが判り、その位置と形態からも住居址と同時期に存在したものではなく、直接の関係の無い遺構と判明した。楕円形を呈し、長径2.2m、短径1.3m、深さ0.55mを測る。埋土は黄色の粘質土と炭混じりの黒色土層が互層になっており、人為的に一気に埋め戻されたと考えられる。少量の船元I式土器と土師器が出土している。

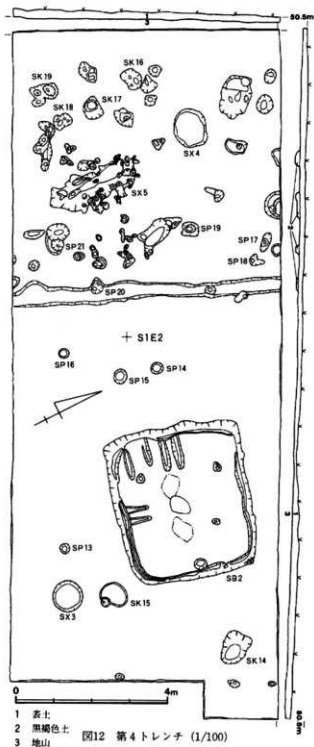
## c 配石遺構SX1 (図11)

トレンチ東端部において検出した。30数cm～5cmほどの礫を120個前後用いて作

られており、一部に立っていたり重なった状態のものもあるが、おおむね不揃いながら平らに敷かれた状態になっている。意図的な遺構であるとしても、かなりの部分が破壊されていることになる。配石の下部からは土壌等の遺構は何も検出できなかった。すでに述べたように、少量の縄文土器と土師器を出土したのみで、時期も不明である。南北両側のビットが配石を囲み、これと対をなすようにも解せるが、明確な判断を下すことはできなかった。(中島和・家根)

#### 4 第4トレンチ (図12)

台地南西部の東に向かって緩やかに傾斜する区域に第4トレンチを設定した。当初は0. Eラインから南に1m、東に5m離し、これを西北の隅として東西に延びる2×10mの規模で設定したが、東南部において住居址SB2の北西隅を検出したため東と南への拡張をおこない、その結果最終的な面積は120㎡となった。土層は単純で、削平のために表土直下が遺構面となっており、遺構の検出は容易であった。主要な遺構には住居址SB2の他に、その東側に、土器の廃棄がみられる土壌SK14、南側とトレンチ西部に炭焼き窯の可能性のある焼土壌SX3、SX4がある。他の土壌SK15~19、ピットSP13~SP21は土師器の出土から古墳時代のもつと判断したが、その性格は明確ではない。また、トレンチ西南部に性格不明の溝状の落込みSX5を検出した。東西の土壌とピットが両側から弧状にこれを囲むようにもみえるが、遺構であるかの是非は判断できなかった。



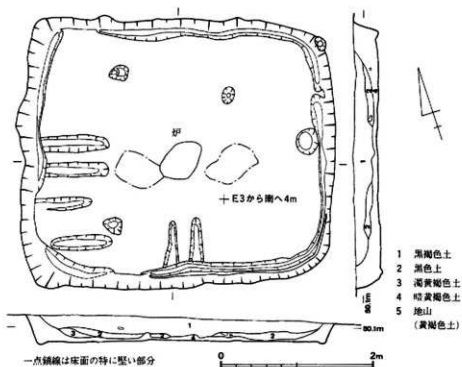


図13 第4トレンチ住居址SB2 (1/50)

a 住居址SB2 (図13)

長方形を呈し、検出面で長辺4.08m、短辺3.54m、床面で長辺3.78m、短辺3.26m、深さは現存で西側が35cm、東側が25cmを測る。主軸方向はN-73.5°-Wである。床面中央部に僅かに窪む炉址が存在する。また床面には炉の周辺を中心に非常に硬質な部分がみられ、貼床を施していた可能性が考えられる。壁沿いの周溝は一部途切れながらもほぼ全周する。度重なる精査にもかかわらず、住居址内外に柱穴を発見できなかったことから、住居址外縁の周溝部、またはその付近に柱穴を設けていたものが、後世の削平によって消滅したと判断した。また、西側壁から4本、南側壁から2本、幅15~20cm、長さ60~80cmの溝状遺構が内に向かって垂直に延びている。それらのみられる床面がやや柔らかい部分であることや、その形状と並び方から推察して、排水のための溝ではなく、細い丸太または角材の痕跡であり、その上に板材を敷いて、床の一部を板敷にしていたものと解釈した。なお、床面上のピットはいずれも浅いもので、柱穴とは考えにくい。ただ、屋根を支えるために屋内に立てた補助的な柱の痕跡である可能性はある。

住居址SB2からは土師器壺、甕、高坏、埴、ミニチュア土器のほか、少量の須恵器片

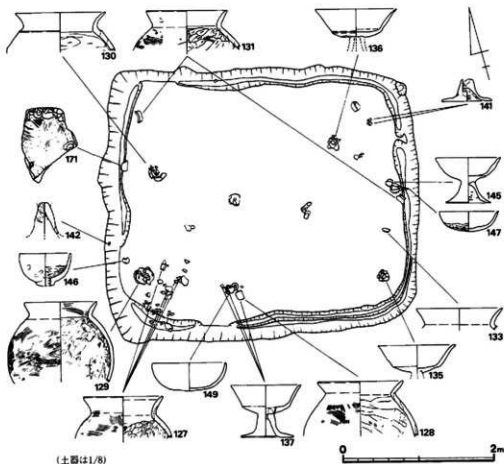


図14 住居址SB2 遺物出土状況 (1/50)

及び礫石が出土した。図13の断面図から、埋土の最下層である暗黄褐色土が住居址の廃絶直後に周辺部から堆積したこと、その後住居址上面が削平を受けていることが理解できるが、遺物はこの暗黄褐色土の上面に接するように遺存しており、周辺から住居址に向かって投げ込まれたものと考えられる。従って中央部のものほど床面近くに存在している。土器の総量はSB1と比較して、その約3分の1と少ない。このうち完形品は埴147のみであり、他はすべて欠損品あるいは破片であった。甕131が2片に分かれ住居址の東西から離れて出土し、甕127がややばらついた状態でみられたほかは、各個体の破片がそれぞれまとまった状態で出土しており、欠損品や破片が投棄されてのちに土圧によって砕けたものと考えられる。須恵器は焼成不良の細片122が出土しているのみで、他はすべて土師器であり、ミニチュア土器は6点が出土している。また、西壁の中央やや北寄りに礫石片が遺存して

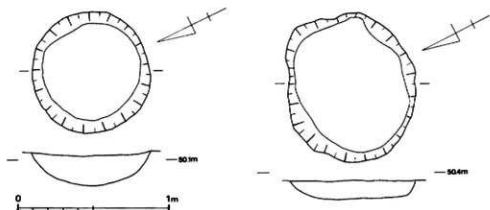


図15 第4トレンチ焼土壇SX3 (左)・SX4 (右) (1/25)

いた。上述の出土状況から理解できるように、SB1とは異なって、遺物は住居址の廃絶後にしばらく時間をおいて廃棄されており、しかも完形品が小型で単純な器形の埴147のみであり、他は比較的大きめの破片に過ぎない。従ってこうした事実からは、これらの遺物が住居址SB2という廃屋に不要となったゴミとして捨てられたことが理解できるだけで、当の住居址の住人に帰属するものであるか否かは判断ができない。

#### b 焼土壇SX3・SX4 (図15)

SX3はSB2の南側約2mにあり、ほぼ正円形で直径80cm、碗形に窪み、深さ23cmを測る。SX4はSB2の西約8mに位置し、やや楕円形で長軸98cm、短軸85cm、底面の平らな皿形を呈し、深さ12cmを測る。いずれも上面を削平されており、原形はもっと深いものであったと考えられる。ともに壁面、底面が火を受けて赤く変色しており、炭混じりの埋土が充填されていた。遺物の出土が無く時期は不明であるが、炭焼き窯の可能性が高く、住居址と概ね同時期の所産と考えている。

#### c 土壇SK13 (図16)

SB2の東約2mにあり、長軸85cm、短軸65cm、深さ23cmを測る。土師器片が投棄されているが、多くは甕の胸部であり、図4化し得たのは高埴158のみであった。出土した土師器から、SB2とはほぼ同時期の遺構と考えている。(赤木)

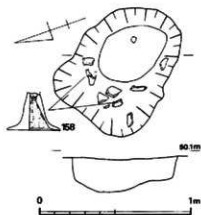


図16 第4トレンチ土壇SK14 (1/25)

## 5 第5トレンチ (図17)

第4トレンチの北東に、原点から東に20mの点を南西の隅とし、南北に長い5×2mで設定した。表土直下が遺構面となっていたが、木の根跡と思われる時期不明の落込みを検出したのみである。(赤木)

## 6 第6トレンチ (図18)

当初は台地南西部の最も高い部分の、S2W3より北に1mの点を南東の隅とし、東西に長い10×2mで設定した。表土層下面に住居址と思われる遺構SX6

と土壌SK20を検出したため、南側と東側に部分的に拡張を行った。SX6は一辺が約3mの隅丸方形に近い形を呈するものの、浅く鉢鉢状に落ち込んでおり、遺物も少量で、住居址ではないようで、その性格は不明である。SK20も人為的な遺構ではなく風倒木等の自然の落込みの可能性が高い。SX6からは押型文土器1点、船元I式土器4点、石鉄1点、切目石鏃1点と少量の剥片、土師器片、SK20からは押型文土器1点、船元I式土器7点と少量の土師器片が出土している。第6トレンチにおいても包含層、遺構共に古墳時代以後に属する。縄文時代の遺物は少量ではあるがトレンチの西部に多く、東部ではほとんど出土していない。

(横部)

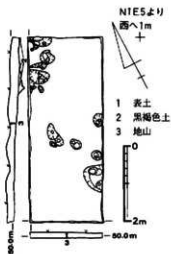


図17 第5トレンチ (1/100)

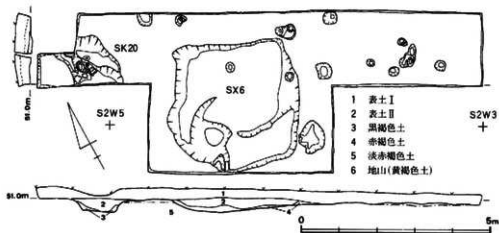


図18 第6トレンチ (1/100)

## 三 遺 物

出土遺物を縄文時代と古墳時代に分けて説明を加えて行くが、ここではそれぞれの遺物に対して行った分類を軸として説明し、個々の遺物についての細かな記述は遺物観察表に譲ることにする。

### 1 縄文時代

#### a 縄文土器

出土した縄文土器は早期77点、中期前葉137点の計214点である。

第1トレンチでは早期の土器のみが土壌から13点、包含層から26点の計39点が出土している。先に述べた一括出土のものと同様、押型文に伴う無文土器が比較的多く、有文のものはすべて23点であった。1は高山寺式の胴部上半で、外面には格子目押型文を施し、内面には左上から右下に向かう条線を持つ。2・3は穂谷式で、共に角閃石を多量に含む。

第3トレンチからは早期19点、中期56点の計75点が出土した。早期は遺構から5点、包含層から14点、中期は遺構（ほとんどが住居址埋土）から20点、包含層から36点の出土である。4・5は山形文横位施文の黄島式、6は角閃石を多量に混入する胎土で、口縁部の隆帯上に軽い押しきないしは刻み目を施す。穂谷式であろう。

7～20は中期前葉の土器である。7～13・19は口縁部、20が底部で他は胴部である。8・12は口縁端部を刻み、7・8・10は口縁部内面にRLの縄文を横位に施す。その他、隆帯上の半截竹管状工具による押しき（7）、突帯上の刻み目（9・19）、素隆帯（13・14・17・18）、円形刺突文（8・13・17・19）、I字形竈描文（8）、半截竹管状工具の背面による連続押しき文（16・18）、半截竹管状工具の腹面による沈線文（12）、二枚貝の殻頂部による圧痕列（10・11）高い突帯上の粗い刻み目（19）などがある。また、13は櫛歯状工具による沈線文を二段に施した後に突帯を張り付け、円形刺突文を施す（図版14-1）。胴部上端にRLの縄文を逆U字状に押捺する土器も存在する（15）。これらは概ね船元I式後半から船元II式の前半に属し、11は船元I式C類と考えられる。

第4トレンチでは早期3点、中期17点の計20点が出土し、その内訳は早期では住居址2点、表土1点、中期では遺構（ほとんどが住居址）7点、表土10点である。21は棒状工具による押しき文とI字形竈描文を持ち、船元I式である。



図19 縄文土器 (1/3)

第6トレンチでは早期7点、中期62点の計69点が出土し、その内訳は早期ではSX6から2点、表土5点、中期は遺構21点（このうち18点がSK20）、表土41点である。早期では22の黄島式、23の高山寺式が出土しており、中期は鷹島式（24）、船元Ⅰ式後半の土器（25～32）がみられる。

第7トレンチでは早期9点、中期2点の計11点が出土した。すべて試掘によるものである。33は高山寺式、34・35は高山寺式に伴う無文土器、36は穂谷式であり、37は船元Ⅰ式である。

（福田）

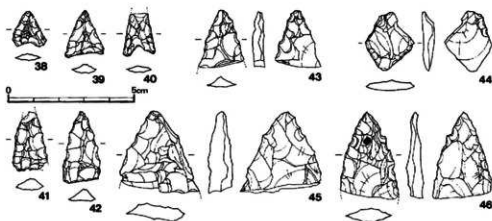


図20 石鏃・尖頭器・石匙 (2/3)

## b 石 器 (図20)

今回の調査によって出土した石器類は石鏃、尖頭器、石匙、石錘等の石器が12点、二次加工のある剥片が21点、フレーク・チップ類が103点である。この他、調査時の表面採集によって石鏃7点、二次加工のある剥片3点、フレーク・チップ類を38点得ることができた。

このうち、調査によって出土した石器について説明を加えてみたい。

石鏃 (38~42) はすべて5点である。38・39は完形品であり、40は先端部、41は先端部および片脚部を欠損している。38~41は凹基無茎式である。42は裏面にほとんど調整がみられず未製品の可能性が高い。尖頭器は3点出土したが、いずれも欠損品である。43は他の2点に比べ小型であり、裏面の調整も周辺部に少し認められる程度である。石匙 (44) は1点のみが出土した。かなり小型で調整も粗く、未製品の可能性もある。切目石錘 (47~49) は3点である。いずれも欠損品で、本来の重量は判らない。

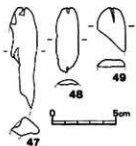


図21 切目石錘 (1/3)

## 2 古墳時代

### a 土師器の分類

土師器は、各器種ごとに器形に従って分類を行った (図22)。出土量は破片数ではなく実際の残存個体数を算出したが、これについては後述する。また、出土量の多い特定の器種については、結びにおいて口縁端部など特徴的な部位を取り上げ分類し、型式学上の検討を加えた。分類の基準は以下のようである。

- 壺A 直口壺。外傾しつつまっすぐに延びるやや長い口縁部と球形に近い胴部を持つ。  
 B 広口壺。強く外反するやや短い口縁部を持つ。胴部は復元できる個体が無く不明である。  
 C 短頸壺。短く立ち上がる口縁部に寸詰りの胴部が付く。  
 D 小型丸底壺。  
 甕A く字口縁甕。  
 B 複合口縁甕。  
 高坏A 坏部に屈曲を持つもの。  
 B 坏部に屈曲が無く壺型を呈するもの。B類は4点の出土しかなく(92・93・145)、しかもそれぞれが異なる特徴を持っている。特に145は作りが粗雑で脚底面が強く開くなど他の高坏と異っており、別に類を設けるべきであろうが、数の少ない点と煩雑さを避けるため、今回はすべてB類として一括した。  
 鉢A 内湾気味に外傾する口縁部を持つ、逆台形型のもの。  
 B 深手の壺型を呈し、低い台状の底部が付くもの。  
 碗 一種類のみである。浅く単純なボール形を呈する。  
 ミニチュア土器は完形品が少なく分類は困難であったが、便宜上以下の4類を設定した。  
 A 平底のもの。壺形と鉢形とがあるようだが、器形の推定は不可能であった。  
 B 丸底ないしは平底気味の丸底で壺形のもの。  
 C 丸底で碗形のもの。  
 D 碗に近い器形だが、不整形で調整も粗放なもの。

| 壺                                                                                   |                                                                                     |                                                                                     |                                                                                     | 甕                                                                                   |                                                                                     |
|-------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| A                                                                                   | B                                                                                   | C                                                                                   | D                                                                                   | A                                                                                   | B                                                                                   |
|   |   |   |   |   |   |
| 高 坏                                                                                 |                                                                                     | 鉢                                                                                   |                                                                                     | 碗                                                                                   |                                                                                     |
| A                                                                                   | B                                                                                   | A                                                                                   | B                                                                                   | ミニチュア土器                                                                             |                                                                                     |
|  |  |  |  |  |  |
|                                                                                     |                                                                                     |                                                                                     |                                                                                     |  |  |

図22 土師器の器種分類

つぎに、以上の分類に従って遺構及びトレンチ毎に残存個体数を算出した（表5）。その方法は、直径の判るものについては、口縁端部の残存長を個々の口縁端部の総延長で割って、その残存率を小数点以下第3位まで算出するというものである。直径の判らないものについては、住居址SB1及びSB2出土の土器のうち、直径のわかるすべてのものを用いて各器種の平均直径を算出し（表4）、そこから口縁端部の総延長を求め、これで割ってそれぞれの残存個体数をやはり小数点以下第3位まで算出する方法をとり、表に掲載するに当たっては、それらを加算した後に四捨五入によって小数点以下第2位で表示した。なお、ミニチュア土器は口縁部の残存例がまれであるため、底部によって割り出す方法を取り、全体の統計表から除いて後に個別にふれることとした。

その結果、有熊遺跡出土の古墳時代中期の土師器はすべて31.81個体が残存していたことになる。これを器種毎にみると壺が4.16個体で13.0%、甕11.93個体で37.4%、高坏9.49個体で29.9%、鉢1.09個体で3.4%、埴5.13個体で16.1%の出土となっており甕の出土が最も多いが、これはよく言われるように煮沸形態の土器である甕の使用頻度が最も高かったことによると考えられる。ただ後述するように、セットではなく片側ずつで埴として使用された可能性が強い、住居址SB1から出土した須恵器の坏蓋2点と坏身1点を埴に加えると、埴の統計が8.13個体となり、これに用途の似ていた可能性のある鉢を加えると9.22個体となって、高坏と伯仲する量になる。

つぎにこれを住居址SB1に限ってみると、まず土器SK5では甕1.00個体、小型丸底壺2.00個体、高坏1.90個体、埴1.00個体、須恵器坏蓋1.00個体となって、煮沸用具である甕が1つに対して食器である小型丸底壺、高坏、埴がそれぞれ2つみられ、二人分の生活用具の存在が浮かび上がって来て興味深い。SB1全体でみると、壺3.06個体、甕6.93個体、高坏7.19個体、鉢0.93個体、埴と須恵器坏蓋、坏身と併せて6.54個体となり、甕と高坏、埴類あるいは埴類と鉢の比がほぼ同数であったことが窺える。壺はおよそその半分の数であったことになる。したがってSB1の量比によってのみ結論を出せば、甕の消耗率は他の土器のおよそ2倍であったことになる。さらに上下に重なって出土した短頸壺68と鉢102はやや特殊な用途、あるいは人物によって使用されたと考え、上述の仮定とは別に、完形品に近く復元できるもののみをこの住居址の居住者に本来帰属すると考えるならば、SK5出土遺物を除いた高坏は80～83の4点、埴類は埴107・109の2点と須恵器坏蓋59、坏身60の計4点となり、これによっても高坏と埴が1点ずつセットで食器を構成していたことが推察できる。これらについて残存状態の良い高坏B類の93を壺68、鉢102とセットに

表4 土師器各器種の平均直径

|     | 壺   |      |      |     | 甕    |      | 高坏(口縁部) |      | 高坏   | 鉢    |      | 埴    |
|-----|-----|------|------|-----|------|------|---------|------|------|------|------|------|
|     | A   | B    | C    | D   | A    | B    | A       | B    | 脚掘部  | A    | B    |      |
| 計測数 | 1   | 3    | 1    | 3   | 20   | 1    | 19      | 4    | 14   | 1    | 1    | 11   |
| 平均径 | 9.8 | 12.8 | 10.0 | 8.0 | 16.7 | 18.6 | 16.2    | 14.3 | 10.8 | 13.3 | 10.9 | 13.2 |

表5 土師器各器種の残存個体数

|    |            | 壺    |      |      |      | 甕     |      | 高坏(口縁部) |      | 高坏   | 埴    | 鉢    |      | 合計    |
|----|------------|------|------|------|------|-------|------|---------|------|------|------|------|------|-------|
|    |            | A    | B    | C    | D    | A     | B    | A       | B    | 脚掘部  |      | A    | B    |       |
| T1 | 包含層        |      |      |      | 0.13 | 0.43  |      |         | 0.12 |      |      |      |      | 0.68  |
|    |            |      |      |      | 19.1 | 63.2  |      |         | 17.6 |      |      |      |      | 99.9  |
|    | SK9        |      |      |      |      |       |      |         |      | 0.07 |      |      |      | 0.00  |
|    | 合計         |      |      |      | 0.13 | 0.43  |      |         | 0.12 | 0.07 |      |      |      | 0.68  |
|    |            |      |      |      | 19.1 | 63.2  |      |         | 17.6 | —    |      |      |      | 99.9  |
| T3 | 包含層        |      |      |      |      | 0.16  |      | 0.18    |      | 0.07 | 0.07 |      |      | 0.41  |
|    |            |      |      |      |      | 43.2  |      | 48.7    |      | —    | 8.1  |      |      | 100.0 |
|    | SB1        | 0.11 | 0.09 | 0.74 | 0.12 | 5.34  | 0.59 | 4.69    | 0.60 | 5.48 | 2.66 | 0.93 |      | 15.87 |
|    |            | 0.7  | 0.6  | 4.7  | 0.8  | 33.6  | 3.7  | 29.6    | 3.8  | —    | 16.8 | 5.9  |      | 100.2 |
|    | SK2        |      |      |      |      |       |      |         | 0.07 |      | 0.04 |      |      | 0.11  |
|    | SK5        |      |      |      | 2.00 | 1.00  |      | 1.90    |      | 1.00 | 0.84 |      |      | 5.74  |
|    |            |      |      |      | 34.8 | 17.4  |      | 33.1    |      | —    | 14.6 |      |      | 99.9  |
|    | SB1<br>内合計 | 0.11 | 0.09 | 0.74 | 2.12 | 6.34  | 0.59 | 6.59    | 0.60 | 6.48 | 3.54 | 0.93 |      | 21.72 |
|    |            | 0.5  | 0.4  | 3.4  | 9.8  | 29.2  | 2.7  | 30.3    | 2.8  | —    | 16.3 | 4.3  |      | 99.7  |
|    | 合計         | 0.11 | 0.09 | 0.74 | 2.12 | 6.50  | 0.59 | 6.85    | 0.67 | 6.55 | 3.61 | 0.93 |      | 22.21 |
|    |            | 0.5  | 0.4  | 3.3  | 9.6  | 29.3  | 2.7  | 30.8    | 3.0  | —    | 16.3 | 4.2  |      | 100.1 |
| T4 | 包含層        |      |      |      |      | 0.18  |      |         |      |      |      |      |      | 0.18  |
|    | SB2        |      | 0.58 |      | 0.39 | 4.00  |      | 1.47    | 0.32 | 2.10 | 1.52 |      | 0.16 | 8.44  |
|    |            |      | 6.9  |      | 4.6  | 47.4  |      | 17.4    | 3.8  | —    | 18.0 |      | 1.9  | 100.0 |
|    | SK14       |      |      |      |      |       |      |         |      | 0.63 |      |      |      | 0.00  |
|    | 合計         |      | 0.58 |      | 0.39 | 4.18  |      | 1.47    | 0.32 | 2.73 | 1.52 |      | 0.16 | 8.62  |
| T6 | 包含層        |      |      |      |      | 0.13  |      |         |      | 0.17 |      |      |      | 0.13  |
|    |            |      |      |      |      |       |      |         |      |      |      |      |      |       |
| T7 | 包含層        |      |      |      |      | 0.10  |      | 0.07    |      |      |      |      |      | 0.17  |
|    |            |      |      |      |      |       |      |         |      |      |      |      |      |       |
| 合計 |            | 0.11 | 0.67 | 0.74 | 2.64 | 11.34 | 0.59 | 8.39    | 1.11 | 9.52 | 5.13 | 0.93 | 0.16 | 31.81 |
|    |            | 0.3  | 2.1  | 2.3  | 8.3  | 35.6  | 1.9  | 26.4    | 3.5  | —    | 16.1 | 2.9  | 0.5  | 99.9  |

なると考えた場合も同様である。甕は度重なる使用によって胴部の損傷が激しく完形品は少ないが、完形の79のほかに残存状況の良いものとして69、73、74、77があり、これも高坏、埴類と同数になる。これらを高坏と埴類のみによって判断すれば、6～7人分の食器が遺存していたことになるが、出土状況において差異のみられない残存率の良い他の破片との関係に関して明快な説明を現時点では加えることができない。

住居址SB2では、壺、高坏、埴類の量比はSB1とほぼ似ているものの、甕の多い点がSB1と異なっている。出土量が少ないため不確定要素が多く判断が困難であるが、土器捨て場としてSB1よりも継続的に使われたため、総体として土器の量比が示されることになったと仮定すると、この場合は甕の消耗率が他の土器の4倍であったことになる。以上、2棟の住居址から出土した土器を用いて、器種構成その他について若干の考察を行ったが、こうした問題は資料の量的蓄積なしには容易に解決できない類のものである。結論は、今後の研究に委ねたい。(家根)

#### b 各地区出土の土器

第1トレンチ 須恵器は1点出土している(50)。皿と思われるが小片のため詳細は不明である。陶器編年のTK216ないしはTK208に相当すると判断した(田辺1966、1981)。土師器も少量が出土したのみで、図化できるものはそのほとんどを示した。51は小型の壺Bである。52～54は甕Aで、いずれも口縁部を外反させるが、52と54は口縁端部を内側におさえるように処理している。53・54は胴部外面をハケメの後一部ナデ消し、胴部内面はケズリによるが、ケズリの方向は54が上からみて左下から右上への右廻りであるのに対して、53は横方向の左廻りである。55は高坏の口縁部と考えた。内外面にハケメの顕著なこと、口縁部がまっすぐに延びることなどは他の高坏には認められない点であるが、高坏Bには口縁部が内湾するものがあるので(92～93)、一定B類と判断しておいた。(角・家根)

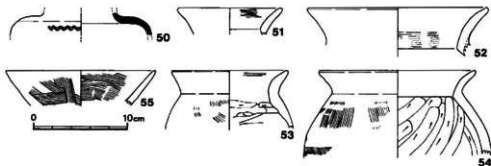


図23 第1トレンチ出土土器 (1/4)

第3トレンチ 包含層からは、すでに記した縄文時代の遺物と共に少量の土師器が出土したにすぎない。56は高坏Aの坏部上半で、坏部底面との接合痕が明瞭である。57は高坏の坏部底面で、上側から充填した粘土粒が明瞭に見て取れる。

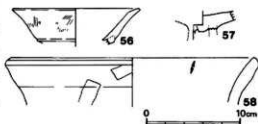


図24 第3トレンチ包含層出土土器 (1/4)

58は甕の口縁部であろうが、直径の非常に大きな点や口縁部形態、焼成、調整のどの点からも他の甕と特徴を異にしており、縄属時期を決定できなかった。

住居址SB1からは須恵器を伴う大量の土師器の出土をみた。そこでまず須恵器について述べることにする(図28)。須恵器はすべて6点出土しているが、住居址内の土壌SK5出土の坏蓋については後にふれることとして、他の内訳は坏蓋(59)、坏身(60)、把手付埴(61)、甕の口縁部(62)及び胴上半部(63)がそれぞれ1点である。坏蓋と坏身は一部を欠くもののほぼ完形で、他は大きめの破片で出土した。62と63は共に甕であるが、互いに接合はしない。また坏蓋と坏身は、SK5出土のものも含めて互いにセットになるものはなかった。以上の須恵器は、SK5出土の坏蓋も含めほぼ同時期の所産と考えられ、第1トレンチ出土の須恵器と同様陶器編年のTK216ないしはTK208に相当すると判断した。

つぎに、土師器はすでに述べたように、壺、甕、高坏、鉢、埴、ミニチュア土器と、ほとんどの器種が出土している。まずSK5以外の住居址出土資料についてみると、壺にはA(64・67)、B(65)、C(68)、D(66)のすべての器種がそろっている。64の直口壺は

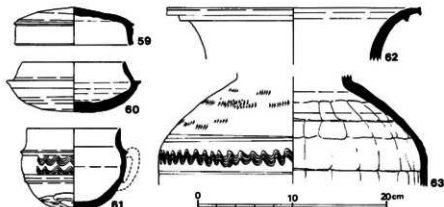


図25 第3トレンチ住居址SB1出土須恵器 (1/4)

接合しない同一個体片を図上復元したが、器壁が薄手で、胴部は球形ないし偏球形になる。68の短頸壺はこの時期の土師器には珍しいもので、むしろ須恵器には一般にみられることから、須恵器を模倣して作られたものであろう。

甕(69~79)は、一般に外面は口縁部がナデ、胴部がハケメ調整の後一部これをナデ消し、内面は口縁部がナデ、胴部がケズリによっている。ケズリの方向は右周り、左周りの両方がみられ、A類では69・70・72が右周りであり、73~76が左周りである。また、甕Bの唯一の例である77は右周りである。

高坏A(80~91)は、規格の点で大型のもの(91)とそれより小型で通常の大きさのもの(80~90)2種に分かれる。調整は一般に坏部は内面と外面の屈曲部以上はハケメの後一部をナデ消しており、脚部は、軸部外面はヨコハケメの後縦方向のユビナデ、内面は下からみて右周りのケズリ、底部は外面はナデ、内面は粗いナデによる。軸部内面には坏部側からの粘土粒の挿入がみられるもの(80~82・90・94・96・97)と軸部の絞り込みによってこれがみられないもの(83)がある。83は、坏部との装着部がはずれ、詳細な観察が可能であった(図版14-2・3)。観察によれば器壁の厚くなる脚軸部上端を絞り込んで穴を塞ぎ、上面を平坦に整形した後、上端の側面を工具によって截頭多角錐状に一部かるく面取りし、横方向にハケメを施している。上面を整形する際に粘土粒を加えている可能性があるが、絞り込みによって穴が塞がれているために、確認ができない。脚軸部に接する坏部側には水分の多い柔らかい粘土が使われている。脚軸部上面は、坏部内面から柔らかい粘土を2mm程度の厚さで塗り込み、ナデとハケメ調整を施している。また、坏部は内面からみると底面と口縁部の粘土の色がやや異なっており、坏部底面の製作の後少し時間をおいて口縁部が作られた可能性がある。82でも坏部底面と口縁部との接合面がはがれ、坏部側にハケメが明瞭にみられることから、坏部底面の調整の後に口縁部が作られたことが判る。また96は下端が外傾接合の擬口縁となっているが、これは脚軸部を倒立させた状態で製作したためと考えられる。高坏Bには坏部に段を持つ92と、作りが粗く脚部が短く開く93がある。

鉢はA類の102のみである。内面の一部に左周りのケズリ調整を行い、底面に木の葉の圧痕を持つ。埴(105~110)は、基本的に内面と外面の上半はナデ、外面の下半はナデないしはユビオサエであるが、105は内面の一部にハケメがみられ、外面の下半をケズリ調整する。107の外面下半はケズリ風のミガキ調整である。

ミニチュア土器は111のみが出土した。不整形で口縁端部に焼成の際に割れている部分が

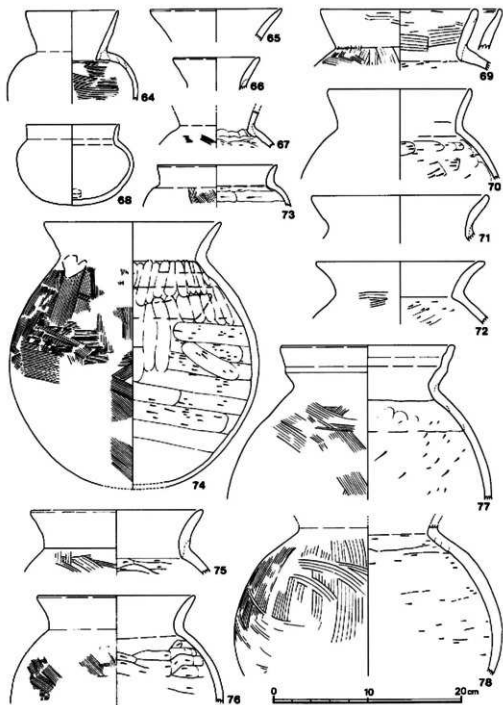


図26 第3トレンチ住居址SB1出土土師器1 (1/4)

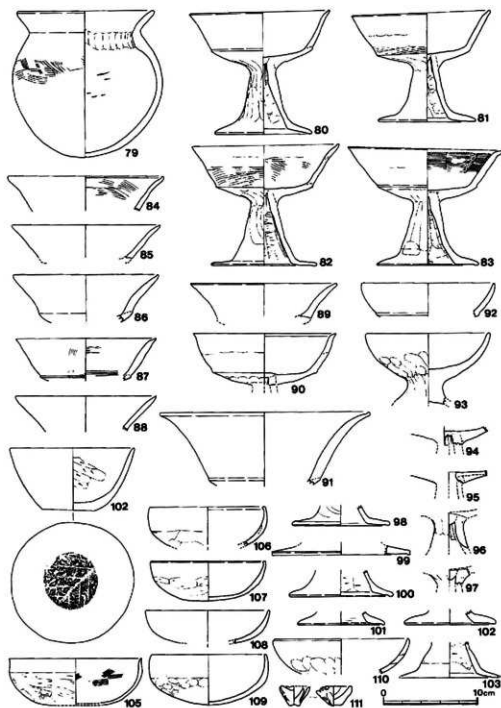


図27 第3トレンチ住居址SB1出土土師器2 (1/4)

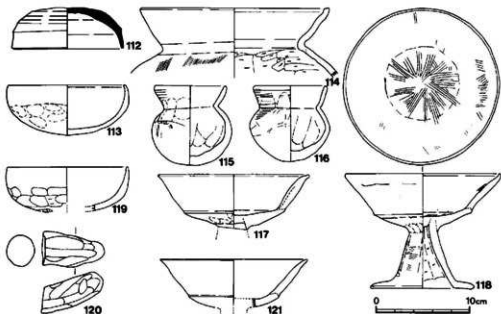


図28 SB1内SK5 (112～118)、SK2 (119・120)、第3トレンチSP10 (121) 出土土器 (1/4)

あり、作りが粗い手捏ね土器である。

住居址内の土壌SK5からは須恵器環蓋、土師器埴、甕、小型丸底壺、高坏が出土している(図28 112～118)。須恵器環蓋(112)は住居址SB1の他の須恵器と同様TK216ないし208に相当すると判断した。土師器埴(113)の外面下半の調整はユビオサエ、甕(114)の内面のケズリは右周りである。小型丸底壺(115・116)は欠損の全くない完存品である。高坏117は脚軸部が坏側の孔の内部で折れており、周囲から柔らかい粘土を巻きつけた状況がよく判る(図版14-4)。脚軸部内面に粘土粒がみられず、83と同じ特徴を持つ。また坏部内底面には、上側から粘土を補填した痕が直径3cmほどのかすかな膨らみとして看取できる。また83と同様に、他の高坏と比較して器壁の厚いのも特徴である。高坏118は脚部の上端付近で割れてはいたが、接合によって完形品となった。保存状態も良好で、小型丸底壺115と色調および調整が似ており、坏部内底面にハケメを放射状に施す。

住居址内の土壌SK2からは、埴119と甕の把手120が出土しており、住居址外の土壌SP10からは高坏121が出土した。

(角・武村・家根)

第4トレンチ まず住居址SB2の出土土器について述べる(図29)。須恵器は坏身の小片が1点出土したのみである(122)。立ち上がりの部分を欠くため、詳細な時期は判らない。土師器は壺、甕、高坏、鉢、埴、ミニチュア土器とほとんどの器種が出土している。

壺は、B類(123・124)のほかには図示はしなかったがD類が出土している。いずれも口縁部のみの小片である。甕はA類のみで(125~133)、多くは口縁部がやや強く外反するが、132のように外反の弱い直立気味の口縁を持つものもみられる。口縁部外面をナデ、内面をナデないしはハケメの後ナデ、胴部外面をハケメの後ナデ、内面をケズリによって調整するが、125は外面を口縁部も含めて縦方向のハケメの後ナデ調整し、内面は横方向のハケメの後ナデによっている。その他のものについては、内面のケズリの方向は左下から右上の右回りが多いが、130だけは左回りである。

高坏は、摩滅のため調整の判らないものが多いが、基本的には住居址S B 1と同様と考えられる。脚軸部内面のケズリは、確認できた137・141・142・145はすべて下からみて右回りであったが、141以外はナデに近い軽いものである。このうち136~141は上側からの粘土粒の挿入が認められるもので、これに対して142は住居址S B 1の高坏83と同様器壁の厚い脚軸部上端を絞り込んで穴を塞ぎ、上面を丁寧に整形して平坦に仕上げている。軸部を工具を用いて軽く面取りし、截頭多角錐状にする点も83と同様である。残存する軸部の下端付近の粘土紐は内傾接合になっている。143は外傾接合であるが、これは高坏96と同様脚軸部を倒立させて作っているためであろう。高坏B類の145は坏部と脚部が接合面で剥がれて出土した。接合部が完存するのは坏部側のみであるが、観察によれば脚部側の接合面に細い棒状の工具で放射状に溝を掘り、やわらかい粘土を押しつけて、坏部を作り足していたことが窺える(図版14-5・6)。こうした特徴を持つ脚部はこれ以外には出土しておらず、この手法が高坏B類に特徴的なものかどうかは判断ができない。また、137・141は通常の作りでありながら低い脚部を持つ。

146は突き出した底部を持つ鉢Bであるが、底面が摩滅しており、さらに下に延びる可能性もある。147~149は境で、147・148は外面の下半をケズリによって調整している。

150~155はミニチュア土器で、出土した6点すべてを図示した。153~155はA類、151・152はB類、150はC類であるが、底部しか判らないA類及びB類の151は、壺、鉢の、どの器形になるか判断できなかった。

第4トレンチの表土層からは甕A類の口縁部が出土した(156)。また落ち込みS X 5からミニチュア土器B類(157)が出土している。これは丸底だが、壺ではなく口縁部が軽く外反する鉢になる可能性がある。158は土壌S K14出土の高坏脚部である。軸部内面のケズリは右回りで非常に強いものである。

(角・中島明・家根)

第6トレンチ 159は甕A類で、胴部内面のケズリは上からみて左回りである。この他、

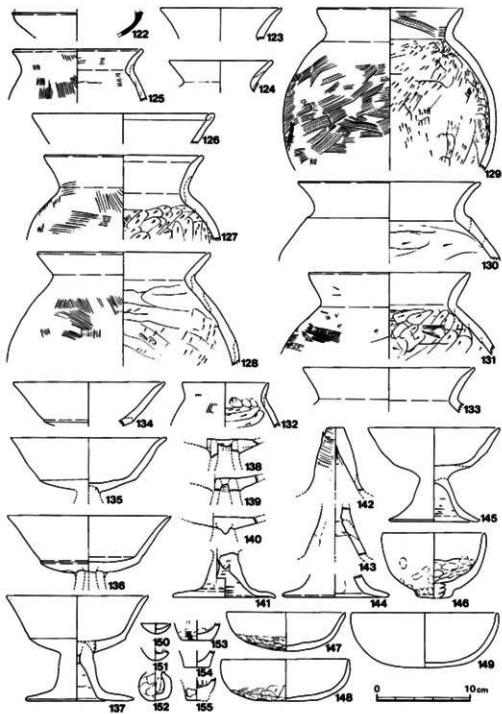


図29 第4トレンチ住居址SB2出土土器 (1/4)

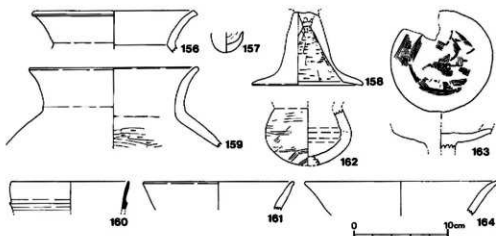


図30 第4・6・7トレンチ出土土器 (1/4)

図示しなかったが器種の判るものとして高坏の脚底部が出土している。 (中島明)

第7トレンチ 160は須恵器の口縁部である。高坏の可能性が高いが、正確な時期も含めて判別は困難である。土師器には竈D類の胴部 (162)、埴A類の口縁部 (161)、高坏A類の坏底部 (163)、高坏口縁部 (164) がみられる。162は器壁の厚い胴部外面にハケメが認められる。163は口縁部との接合面にもハケメが及んでおり、ハケメ調整の後に口縁部を作り足していることが理解できる。

(角・中島明)

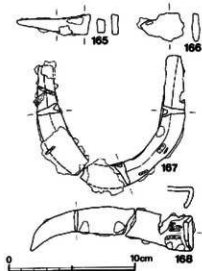


図31 鉄器 (1/3)

#### c 鉄製品 (図31)

鉄製品は第1トレンチの表土層から2点、住居址S B 1から2点の計4点が出土した。

165は第1トレンチ出土の刀子の茎と考えられるものである。残存長5.8cm、縦幅1.1cm、厚さ0.6cmを測る。断面の観察から2回の折り返しによって鍛造を行っていることが認められた。166は同じく第1トレンチ出土の鉄器片であるが、錆の著しい進行のため何の破片であるかは不明である。

167・168は共に住居址S B 1から出土した。167はU字形の鋏先で全長10.6cm、全幅11.7cm、刃部幅1.8cm、刃部厚さ0.3cmを測る。刃部には数カ所木質の付着が認

められる。断面の観察から1回の折り返しによって鍛造されたことが判るが、著しい錆の進行によってこの折り返しの面で二つに裂けている。168は曲刃鎌で全長12.8cm、刃部幅2.3cm、厚さ0.2cmを測る。木柄着装部は刃部に直角に折り返されており、折り返し部より1.8cmまでは刃がつけられていない。折り返し部には木質が付着する。1回の折り返しによって鍛造を行っているが、錆の進行によって折り返された面で二枚に割れている。(片岡)

#### d 土鍬・石製品 (図32)

土鍬は住居址SB2から出土した1点のみである(169)。焼成は良好で長さ3.6cm、直径2.1cm、重さ15.0gを測る。

管玉は第1トレンチの地山直上から1点が出土している(170)。蛇紋岩製で、全面に丁寧な研磨が施されており、長さ15.5mm、幅4.0mm、重さ0.3gを測る。(鈴木)

#### e 砥石 (図33)

調査によって3点の出土をみた。171は粘板岩製で、住居址SB2から出土した。図の右側と側面の一部を破損しているが、上面はよく使い込まれており滑らかである。172は頁岩製で、住居址SB1東壁の中央部付近から出土した。細かく破砕されており、火を受けた可能性が高い。図の右側面および表裏両側に使用の痕がみられるが、特に右側面をよく使い込んでいる。173は砂岩製の細片で、第1トレンチの表土層出土である。図の手前の面を使用しているが、171・172と比較してあまり使い込んでいない。

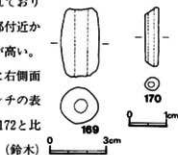


図32 土鍬 (1/2)、  
管玉 (1/1)

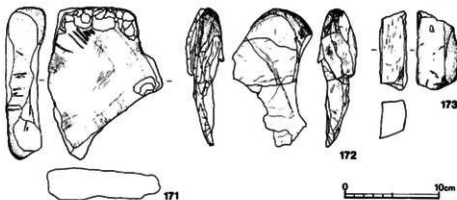


図33 砥石 (1/4)

## 四 若干の考察と結び

### 1 土 師 器

有熊遺跡の住居址SB1・SB2において比較的良好な状況で一括出土をみた土師器について、これらの住居址からの出土品を中心として若干の考察を加えるが、その対象は充分な量の保証のある甕A類、高坏A類、埴に限りたい。

#### a 甕A類 (図34・表6)

甕A類について口縁端部の分類を行った。基準は以下のようである。

- a類 口縁端部内面を折り返しによって肥厚させ、玉縁状にするもの。
- b類 口縁部を外反させ、端部に強い面取りを行うもの。
- c類 口縁部の内面を強くおさえ、内湾させて調整し、端面を内傾させるように面取りするもの。その結果口縁端部内面が肥厚することになる。
- d類 口縁端部内面にやや強い横ナデを加えながら口縁部をまっすぐ、あるいは外反させつつ引き延ばし、端部を内側に軽く押さえつけるように調整するもの。その結果端部内面が少し肥厚する特徴を持つが、これには口縁端部に面取りを持つd1類と、丸くおさめるd2類とがある。
- e類 口縁端部を普通におさめるもので、丸くおさめるe1類と、薄くとがらせ気味におさめるe2類とに分かれる。

以上の分類のうち、d2類とe1類、e1類とe2類の特徴を共有する個体がいくつかみられるが、これらはより多い特徴を持つ類に分類を行った。以上の各類のうちでa類からc類が布留式にみられる古い特徴であるのに対してe類は布留式以前にも以後にもみられる特徴である。有熊遺跡のSB1・SB2の二つの住居址における共伴を手がかりとし

| a                                                                                   | b                                                                                   | c                                                                                   | d                                                                                                                                                                       | e                                                                                                                                                                       |
|-------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  |  |  |   |   |
| 126                                                                                 | 156                                                                                 | 114                                                                                 | 125 70                                                                                                                                                                  | 124 131                                                                                                                                                                 |

図34 甕口縁の分類 (1/2)

表6 住居址出土土甕の残存個体数

|      | a    | b | c    | d    |      | e    |      | 合 計   |
|------|------|---|------|------|------|------|------|-------|
|      |      |   |      | 1    | 2    | 1    | 2    |       |
| SB 1 | 0    | 0 | 1.00 | 0    | 1.55 | 2.50 | 1.29 | 6.34  |
|      | 0    | 0 | 15.8 | 0    | 24.4 | 39.4 | 20.3 | 99.9  |
| SB 2 | 0.18 | 0 | 0    | 0.21 | 0.55 | 1.30 | 1.76 | 4.00  |
|      | 4.5  | 0 | 0    | 5.3  | 13.8 | 32.5 | 22.4 | 100.1 |

る特徴であるが、要素としてはa類よりも新しく、a・b両類の特徴が結び付いて成立したという考えも成り立つ。d 1類は、c類の特徴が弱まり内側への押し付けが緩くなったもの、d 2類は、古い段階からみられたe類にこうした特徴が取り入れられたものとみることもできる反面、d 2類の特徴がさらに弱まりe類の一部につながって行った可能性も高い。

そこで、SB 1とSB 2におけるこれらの類の出土状況をみると、共にb類の出土がない点があげられる(表6)。次にSB 2にみられるa類も口縁部のみの細片であり、流れ込みによる古いものの混入の可能性も否定できない。SB 2に確実に伴うと言えるのはd類以降であり、これによって二つの住居址を比較すれば、SB 1がSB 2よりもやや古い様相を示していると言えるだろう。

また甕の調整は、基本的に口縁部は内外面をナデ、胴部は外面はハケメののち一部をナデ消し、内面はケズリによるが、この内面のケズリの方向が、上述の口縁部の各類によってある程度異なりをみせるようである。すなわちc類、d類では確認できるもの全てが上から向かって右周りであるのに対して、e類では右周り、左周りの両方があり調整の方向に偏りがみられる。量的に多くはない資料のためこれ以上は言及を避けたいが、一応の傾向として確認しておきたい。

(武村・家根)

#### b 高坏(図35・表7)

坏部は以下のように分類した。

- a類 口縁端部内面を強くナデながら引き延ばし、端部を内側に丸めて肥厚させるようにおさめるもの。
- b類 a類と同様の手法を用いるが、a類と比較して端部の内側への押し込みがかかる、従って内面の肥厚も控え目になるもの。
- c類 口縁端部を強く外反させて引き延ばし、端面を内に押し込みながらつまみ上げて軽く肥厚させるもの。c類は1点しかみられないが、つぎのd類及びe 2類と共に他

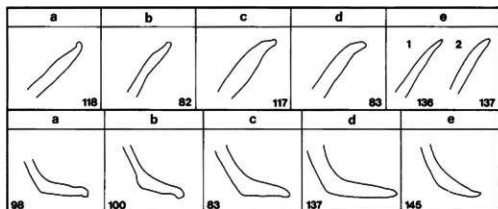


図35 高坏口縁・脚裾部の分類 (1/2)

の類と比較して器壁の厚いのが特徴である。

d類 口縁端部を強く押えて引き延ばし、外反させるもの。

e類 口縁端部をやや外反させておさめるもので、端部をとがらせ気味に細くおさめる

e1類と、少し丸みを持っておさめるe2類とがある。

脚裾部の分類は以下のようである。

a類 底端部に強い面取りを行い、下面を肥厚させるもの。

b類 底端部内面に強いナデを加えて引き延ばし、下側に丸めるように端面をおさめ、下面を肥厚させるもの。

c類 底端部を引き延ばしながら下側に軽く丸めるように押えを行い、端部下面を軽く肥厚させるもの。

d類 底端部を引き延ばし、そのまままっすぐにおさめるもの。

e類 底端部を引き延ばし、上方に少し反り返らせておさめるもの。

当遺跡出土資料のみを対象として型式学上の考察を行うとすれば、高坏の口縁部は比較的薄いつくりで内湾気味の口縁端部内面をつまみ上げによって肥厚させるa類からb類を経てe1類に至る組別と、厚手のつくりで外反する口縁端部外面をつまみ上げによって肥厚させるc類からd類に至る組別の二つの流れが看取できる。もちろん器壁の厚さ、口縁部形態の両者について中間的なものがみられ、こうした単純化した図式では全てを説明できないことは承知の上であるが、つまみ上げによる口縁端部内面の肥厚が消滅していく流れが一定程度看取できるため、このような整理を行った次第である。つぎに脚底部については、底部側面を面取りし、下面を肥厚させるa類から、側面の面取りが無くなり、下面

表7 住居址出土高坏の残存個体数 上:坏部 下:脚部

|      | a    | b    | c    | d    | e    |      | 合 計   |
|------|------|------|------|------|------|------|-------|
|      |      |      |      |      | 1    | 2    |       |
| SB 1 | 1.17 | 2.45 | 1.19 | 1.31 | 0.06 | 0.41 | 6.59  |
|      | 17.8 | 37.2 | 18.1 | 19.9 | 0.9  | 6.2  | 100.1 |
| SB 2 | 0.07 | 0.48 | 0    | 0.22 | 0.37 | 0.33 | 1.47  |
|      | 4.8  | 32.7 | 0    | 15.0 | 25.2 | 22.4 | 100.1 |
|      | a    | b    | c    | d    | e    |      | 合 計   |
| SB 1 | 1.00 | 0.38 | 3.04 | 2.06 | 0    |      | 6.48  |
|      | 15.4 | 5.9  | 46.9 | 31.8 | 0    |      | 100.0 |
| SB 2 | 0    | 0.10 | 0.69 | 0.75 | 0.56 |      | 2.10  |
|      | 0    | 4.8  | 32.9 | 35.7 | 26.7 |      | 100.1 |

これに対して、SB 2ではb類の32.7%とd類の15.0%はSB 1よりやや少ないものの近い値を示しているが、e類が1類、2類あわせて47.0%と半数近くを占め、a類が少なくc類が全くみられない点で大きく異なっている。またSB 2において最も多く出土したb類のうちで、直径の復元できたものが134の1例のみであり、他は細片であったことにも留意する必要があるだろう。脚底部については、SB 1ではc類が46.9%と最も多く半数近くにのぼり、ついでe類が31.8%とこの2類で全体の約8割を占める。またa類も15.4%と比較的多いのにに対してe類は全くみられない。いっぽうSB 2では、c類が32.9%、d類が35.7%とSB 1と比較して両者の比率が逆転し、さらに2類をあわせて68.6%とやや少ないながらもこれらが多い点は大きく異ならないが、a類がみられずe類が26.7%と比較的多い点で違いは明らかである。

以上の統計資料と先の型式学上の考察と勘案すれば、坏部、脚底部共にSB 2と比較して、SB 1に型式学的にみて古い要素の多いことが理解できる。

また、すでに述べたように、高坏は坏部と脚部の接合に関して少なくとも三通りの方法が確認できた。それらを仮に高坏の坏部と脚部の接合に関するA～C手法と呼称する。

A手法 上端を絞り込まずに管状にした脚軸部をもとに、その上面を粘土粒によって塞ぎ、坏部を作り足していったもの。

B手法 器壁の厚い脚軸部上端を絞り込んで穴を塞ぎ、軸部を上面を粘土を埋めるなどした後平滑に仕上げ、周りに柔らかな粘土を張り付けたうえで、坏部を作り足したもの。

の肥厚も次第に消滅するb類、c類、d類を経て底端面を上方に反り返らせるe類に至る流れが看取できる。e類については、確認できるものが高坏B類に限られるため、前述の系譜にのらないものである可能性もある。

つぎに住居址SB 1とSB 2における以上の各種の出土状況を見ると、坏部はSB 1ではb類が最も多く37.2%で、ついでa類、c類、d類がa類の半分程度の出土で伯仲しており、e類は少ない。

Ｃ手法 脚軸部上面に工具で放射状に溝を掘り、柔らかい粘土を押しつけてその上に坯部を作り足していったもの。

これらのうちＢ手法によるものはすべて３例、Ｃ手法によるものは１例のみであり、それらのいずれもが、接合部ではずれたものによって手法を実際に確認している。これに対して、Ａ手法についてはそうした例がなく確認できていないが、平城宮発掘調査報告Ⅹ（井上和人ほか 1980）では、後に鳴谷東１号墳に供献された土師器類に近い時期の資料において、Ｃ手法と共にＡ手法が坯部と脚部との接合部がはずれることによって実際に確認されており、Ａ手法が、脚部を作った後に坯部を作り足したものと理解されている。すなわち、Ａ・Ｂ両手法が脚軸部の周りに粘土を継ぎ足しながら坯部を作っていたのに対して、Ｃ手法はその上面から粘土を継ぎ足して坯部を作っていたという違いが認められる。Ａ・Ｂ両手法の違いは、Ｂ手法が上述のように中実の脚部を完成させた後に坯部を作り足していくのに対して、Ａ手法は軸部が中空のままの脚部に坯部を作り足して行く中で軸部の穴埋めを行う点にある。

つぎに、同じ加悦町において本学の和田晴吾氏が調査を行った、鳴谷東１号墳（図36-1～5）、同３号墳（図36-6～10）出土土師器高坯との比較によって、いまだ考察を行いたい。鳴谷東１号墳出土の土師器類は、正確には墳丘ではなくこれを作るために切断した尾根の裾部から出土したが、１号墳主体部の被葬者を埋葬した後に、供献されたと考えられる一群の土器で、一部に破損はみられるもののすべて完形に近い状態で出土している。

高坯には、大型（１）、中型（２）、小型（３）の３つの規格が認められる。大型のものがＡ類であるのに対して中型、小型はいずれもＢ類である。また中型のものはこの他に２点が出土している。すべて坯部内面はヨコハケメ、外面はタテハケメの後ナデによる調整を行い、大型の１は坯部底面をハケメ、中型の２、小型の３は坯部底面から脚軸部上半をハケメ調整によっている。大型と中型はさらに脚底部の内面をハケメ調整する。また脚軸部内面は、すべてケズリではなく縦方向のナデによっており、脚部には二つの透孔を持つ。坯部の口縁部は外反し、端面を外寄りの上方につまみ上げるようにして面取りを行い、脚底部端面にも強い面取りがみられるのが特徴である。坯部と脚部の接合はすべてＡ手法によっており、脚軸部に上から充填した粘土粒の中央に、棒状工具による刺突のようなものが認められる。

４は胴部外面の上半にハケメを施す小型丸底壺、５は複合口縁壺で胴部外面の下半をハケメ、内面を上からみて右周りにケズリによって調整する。すべて精良な胎土を用いてお

り、焼成が良好で堅緻であり、淡黄色を呈する。

7～10は鳴谷東3号墳出土の高坏A類である。摩滅のため外面の調整は判らないものの、脚軸部内面の調整は下からみて右周りのケズリであり、調整、形態共に有熊遺跡出土の高坏A類と共通する特徴を持っている。8のみが脚部に二つの透孔を持つ。坏部口縁の形態は7と9がb類。8はc類であるが外反が強い。脚底部は9がb類、10と7がc類、8がd類である。坏部と脚部の接合は7～9がA手法、10はB手法によっている。

胎土はすべて同古墳の埴輪と同様で粗く、大粒の砂粒を多く含み、黄土色を呈する。

6は直口甕で、外面はナデ、内面の胴部上半からみて右周り、下半を左周りにケズリ調整しており、高坏と同様の胎土で作られている。

有熊遺跡出土土器と比較すると、鳴谷東1号墳の供献土器はこれより1～2型式古く、同3号墳出土土器は同時期かこれよりやや古いと思われるが、つぎにこの問題をも含め、

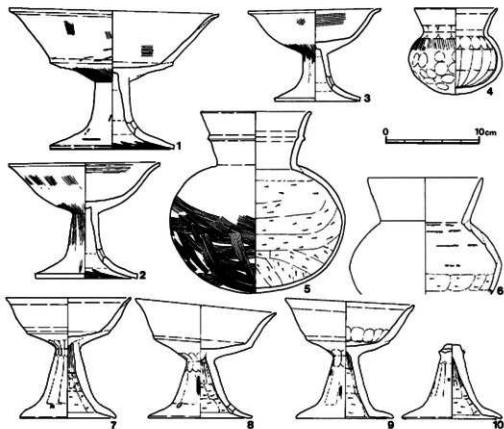


図36 鳴谷東1・3号墳供献土師器 (1/4)

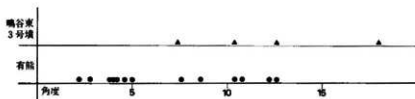
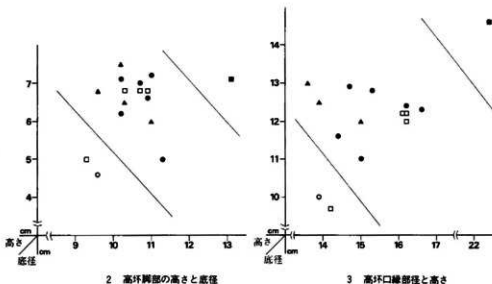
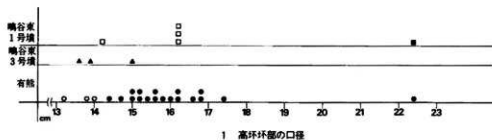
若干の統計操作を試みてみたい。

表8の1は高坏の坏部径の分布を示したものである。鳴谷東1号墳と有熊遺跡出土のそれぞれ1点ずつの大型のものが突出しており、中型、小型は出土数の多い有熊遺跡でみ限り連続した一群をなしているように見える。但し、ここで注意してよいのは鳴谷東1号墳では中型、小型の高坏が共にB類であるのに対して、有熊遺跡では中型はA類で小型がB類となっていることである。また、鳴谷東3号墳では中型、小型共にA類となっている。つぎにこれを脚部の高さで底面の径(表8-2)、高坏全体の高さと坏部の径(表8-3)の二つの関数によってみると、鳴谷東3号墳の小型は高さの点では中型の高坏と考えてもよいことになる。従ってこれらの資料のみに限って言えば、鳴谷東1号墳から鳴谷東3号墳に至る間に中型の高坏の器種がB類からA類に変化したことになる。1号墳と3号墳とは同時に造成され、1号墳の1回目の埋葬の後しばらくして3号墳への埋葬が行われたことが、調査を担当した和田晴吾氏によって推定されていることから、こうした器種の変化が短期間の内に起こったことが推測できる。また、鳴谷東1号墳の中型の高坏は大きさが極めて共通しており、細部の型式学的な特徴の点からみても大型、小型とも共通した特徴を持っている。つまり、有熊遺跡の高坏群とは異なり、規格性の高い製品を供給する製作者集団の同時製作になるものと考えられ、逆に言えば、有熊遺跡の高坏は複数の製作者集団からの供給品である可能性が高いことになる。また坏部と脚部の接合に関しては、1号墳出土高坏はA手法のみであるのに対して3号墳出土高坏にはA手法、B手法が存在し、この点で有熊遺跡と共通することも重要と思われる。

最後に、鳴谷東3号墳出土資料と有熊遺跡出土資料との時期差の可能性についてもう少し検討を加えたい。表8-4は両者の脚部の立ち上がりの角度を計測し、その分布を示したものである。これをみても判るように、有熊遺跡出土の高坏にはこの角度の非常に小さい一群がみられ、鳴谷東3号墳出土の高坏と重なる一群があるものの、両者の差異は明らかである。なお、この角度の非常に小さい一群は、2点を除き他はSB2出土のものであり、ここにもSB1とSB2との間に時間差が存在する可能性が示されている。鳴谷東3号墳に透孔を持つものがある点も、こうした例をみない有熊遺跡の出土土器が、前者と比較してやや新しい可能性を示唆している。但し、古墳に対する供献土器と集落出土の日用品との違いや出土数の僅少性、さらには有熊遺跡の住居址SB1の高坏にみられ、鳴谷東1号墳ではすべての高坏の特徴である脚底部のb類が、3号墳にはみられない点を考慮にいれて、断定は避けておきたい。

(鶴田・家根)

表 8 高環統計表



A 型 B 型  
 ■ □ 鳴谷東1号墳  
 ▲ △ 鳴谷東3号墳  
 ● ○ 有熊

c 境 (図37・表9)

境の口縁部は以下のように分類を行った。

- a 類 口縁部内面を強くおさえ、内湾させながら調整し、内向きに力を加えながら端部に軽い面取りを施すもの。従って端部内面に軽い肥厚がみられる。
- b 類 口縁部内面をおさえ、上方あるいはやや外側に引き延ばしながら調整し、そのまま丸みを持っておさめるもの。
- c 類 口縁端部を外反させながら引出し、細く尖らせておさめるもの。
- d 類 口縁端部を内湾気味に丸くおさめ、その後端部外面に段状の抉りを加えるもの。

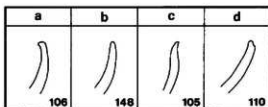


図37 境口縁の分類 (1/2)

以上のうちc類、d類はそれぞれ1点のみがSB1から出土しており比較は困難であるが、a類とb類の出土のあり方には大きな違いが認められる。すなわち、SB2では境はすべてb類であるが、SB1ではb類もみられるもののa類が78.2%と大半を占めてお

表9 住居址出土境の残存個体数

|     | a    | b    | c    | d    | 合計    |
|-----|------|------|------|------|-------|
| SB1 | 2.77 | 0.52 | 0.12 | 0.13 | 3.54  |
|     | 78.2 | 14.7 | 3.4  | 3.7  | 100.0 |
| SB2 | 0    | 1.52 | 0    | 0    | 1.52  |
|     | 0    | 100  | 0    | 0    | 100   |

り両者の違いが歴然としている。つぎに、a類とb類を調整によってみてみたい。境の調整は内面と外面の上半部はナデによっているが、下半部の調整には大別してユビオサエ、ユビナデによるA手法 (図版14-7)、ケズリ風ミガキによるB手法 (図版14-8)、ヘラケズリによるC手法 (図版14-9) の三つが識別できる。これを先の口縁部との対応によってみると、a類ではC手法は存在せず、B手法も認められるもののほとんどがA手法であるのに対して、b類では不明のものを除けば1点がA手法であるが他はすべてC手法であり、a類とA手法、b類とC手法という対応関係が看取できる。したがって境においても高坏と同様、二つの住居址間の土師器の差異がみてとれるのである。

(赤木・家根)

以上、出土量の比較的豊富な器種について若干の分析を行ってきた。その結果、丹後地方においてTK216ないしTK208の、比較的古い須恵器に伴う土師器の様相を、かなり明確にできたものと考えている。土器の製作技法に関する分析は、土師器を専門外とする筆者にとって重荷であり、明らかにできなかった点が多く残された。住居址SB1とSB

2 出土資料の微妙な差異についても、SB2がSB1に比べてやや新しい要素を備えているとは考えるものの、土師器一般に対する知識の不足からこれを時期差と断定する自信は持ち合わせていない。むしろ高坏や埴に認められる微妙な特徴の差異、胎土、器壁の厚さ、色調などの差異が単に時間の上のものではない可能性のあること、つまりこれらの土師器がこの集落でつくられたのかという問題を含め、器種構成、製作技法並びに技法の変遷を越えて、土器を通じてみた古墳時代の社会、土器製作集団のあり方、土師器の流通のあり方などに解明すべき様々な問題が存在することを垣間見ることができた。この遺跡の資料が、専門家のかたがたに些かなりとも役立つことがあれば幸いである。

最後に、有熊遺跡の性格について簡単なまとめをしておきたい。遺跡は発掘資料、および表面採集資料によれば、縄文時代を除けば、平安時代以降に再び居住が認められるものの、古墳時代では住居址の確認された中期を前後する短い期間のみにおいて居住が認められ、集落の小規模な点と相俟って、農耕を目的として新たに移住した集団の集落とは考えにくい。有熊遺跡ではわずかに1片の鉄滓が表土から発見されているのみであるが、遺跡の西側の谷を数百m南に入った通称「金掘」という所で鉄滓が多量に発見されており、時期は不明であるものの、この地がかつて製鉄が行われたことが確認されている。加悦奥において、後期の群集墳が数多く発見されているのに対して、それ以前の弥生時代、古墳時代の遺跡が極めて少ないことを考慮すれば、有熊遺跡にかつて居住した古墳時代中期の人々が、製鉄に従事した集団であった可能性はかなり高い。また本遺跡の北側の低地に加悦奥川に面して位置する有熊北遺跡は、正式な調査はなされていないものの、弥生時代を除けば古墳時代中期後半以降に始まることが知られており、有熊遺跡に居住した集団が製鉄の盛行によってその北側の低地へと居住を広げ、あるいは移し、さらに多くの製鉄を営む集団がこの狭隘な谷間へと移住した結果、多くの後期古墳の造営が行われたと推定できるのである。その可否は今後の調査の結果に委ねることとする。

本書を、和田晴吾教授、及び本書の製作に携わった学生諸君と共に、謹んで故三浦圭一先生の霊に捧げます。筆者は、生前の三浦先生にただ一度きりお会いできただけでしたが、先生とご一緒に立命館大学で教鞭を執れることを楽しみにしておりました。それがかなわぬばかりか本書を編集、執筆する多忙にかまけ、追悼論集にも拙稿を寄せることができませんでした。本書の献呈によって、そうした不徳を些かなりとも減ずることができれば幸いです。

本書を作成するにあたり、縄文土器については奈良大学文学部助教授泉拓良、京都大学大学院文学研究科博士後期課程二回生矢野健一、須恵器については京都市埋蔵文化財研究所の山本雅和、土師器については京都大学大学院文学研究科博士後期課程二回生次山淳、付編で述べた近世陶器については奈良市埋蔵文化財調査センターの立石堅志、石材の鑑定については京都大学理学部助教授森健、同助手平島崇男、加悦町所在の遺跡一般については加悦町教育委員会社会教育主事の佐藤晃一、古墳時代一般に関して本学文学部教授和田晴吾の各氏に大変お世話になった。また、和田晴吾氏には、鳴谷東1号墳、3号墳の第3次、第4次調査で出土した未発表の土師器資料の掲載を許可して頂いた。記してここに感謝の意を表する次第です。

(家根)

#### 参考文献

- 泉拓良ほか 1984 『栗津貝塚湖底遺跡』 滋賀県教育委員会・滋賀県文化財保護協会
- 井上和人ほか 1980 『平城宮発掘調査報告X 古墳時代I』 『奈良国立文化財研究所学報第39冊』
- 堅田直ほか 1983 『田辺市高山寺貝塚発掘調査概報』 帝塚山考古学研究所
- 田島明人・越城一也ほか 1986 『漆町遺跡I』 石川県立埋蔵文化財センター
- 田辺昭三 1966 『陶邑古窯址群』 I 平安学園考古学クラブ
- 田辺昭三 1981 『須恵器大成』 角川書店
- 寺沢薫ほか 1986 『矢部遺跡—国道24号線榑原バイパス建設に伴う遺跡調査報告(II)』 『奈良県史跡名勝天然記念物調査報告』 第49冊 奈良県立榑原考古学研究所
- 中村浩ほか 1976 『陶邑』 I 大阪府教育委員会
- 長谷川達 1981 『有熊遺跡の出土遺物』 『京都府埋蔵文化財情報』 第2号 京都府埋蔵文化財調査研究センター
- 長谷川達 1987 『京都府北部の縄文時代遺跡』 『京都府埋蔵文化財論集』 第1集
- 間壁志彦・間壁霞子 1971 『里木貝塚』 『倉敷考古館研究集報』 第7集
- 髙三郎・中村貞史 1969 『鷹島遺跡発掘調査報告書』 『熊野路考古』 第5号
- 和田晴吾ほか 1987 『立命館大学文学部学芸員課程研究報告』 第1冊
- 和田晴吾ほか 1989 『立命館大学文学部学芸員課程研究報告』 第2冊

## 付編 有熊遺跡の採集資料

今回の調査以前の採集資料の中から、図化できる資料をある程度選んで簡単な記述を試みた。なお、以前に長谷川達氏によって縄文時代の土面と紹介された資料は、近世ないし近代の所産である疑いが濃厚であるため、今回は省略させて頂いた。資料の掲載を快諾してくださった加悦町教育委員会、京都府教育委員会の長谷川達氏、土地所有者の小巻一美氏に対し、記してここに感謝の意を表します。

### 1 縄文時代

#### ● 土 器

有熊遺跡で採集された加悦町農村文化伝習センター所蔵の197点、小巻一美氏所蔵の16点、立命館大学が採集した1点の統計214点（早期33点、中期181点）からなる縄文土器のうちから、比較的破片の大きな40点（早期7点、中期33点）を選び、若干の説明を加える。

174～180は早期の押型文土器である。174～177は黄島式で、175は鋭角の山形文を表裏に施している。178、179は高山寺式で、178は格子目文、179は外面に楕円文、内面には左上から右下に条線を持つ。180は徳谷式で縦位に幅広の山形文を施す。

181は波状口縁で、外面の隆帯上に幅約10mmのC字爪形文を密に施し、内面には条に対して傾斜の強い節を持ち、節の中に繊維の確認できない縄文RLを横位に施す。器形に類例がみられないが、その特徴から鷹島式と推定した。182・183は波頂部となる突起の下側及び向かって右側の口縁部に続く部分に連続する刻み目を持つ。183は、波頂部の外面に刺突を施す。184～188も波状口縁をなす。184は外面に幅の狭い押し引き文、内面に縄文に似せた細かい刻み、185は外面に円形刺突文と歯状工具による沈線文、186は押し引きによる円形刺突文と歯状工具による沈線文、内面に条に対して傾斜の強い節を持つRLの縄文を横位に施文する。187は外面に素隆帯、188は細かな連続刺突文を持ち、内面に条に対して傾斜の強い節を持ち、節の中に繊維の確認できない縄文RLを施す。190・191は口縁部上面から、189・192・199はやや下がった位置に隆帯を添付する特徴を持つ一群である。189・190は二枚貝の殻頂部、191は横長の連続刺突と斜位の連続する刻み目、192はD字の連続刺突、199は深い円形の刺突をその上加え、191・199はさらにその下に歯状工具による沈線文を施す。190～192は内面に横位の縄文RLを施す。193は外面に円形刺突と歯状工具

による沈線文、内面に縄文RLを横位に施し、口縁端部に刻み目を施す。194～197は円形刺突文と櫛歯状工具による沈線文を持つが、195の櫛歯状工具による沈線文は口縁部直下にあって円形刺突文下半を潰されており、196の円形刺突文は押引きに近いものである。194・195は内面に横位の縄文RLを施し。194は口縁部に刻み目を持つ。198は外面に櫛歯状工具による沈線文、肥厚する口縁端部に竹管状工具による刺突文を持つ。200は口縁直下に円形刺突文、その下の突帯上に櫛歯状工具による斜行する沈線文を施す。201は、やはり低い突帯上に櫛歯状工具による斜行する沈線文を施し、内面に横位の縄文RLを持つ。202は波状口縁で内外面に横位の縄文RLを施し、外面の口縁直下に素隆帯を持つ。203は外面と口縁部に櫛歯状工具による沈線文を施した後、外面の口縁部直下に半截竹管状工具による押引きを加える。

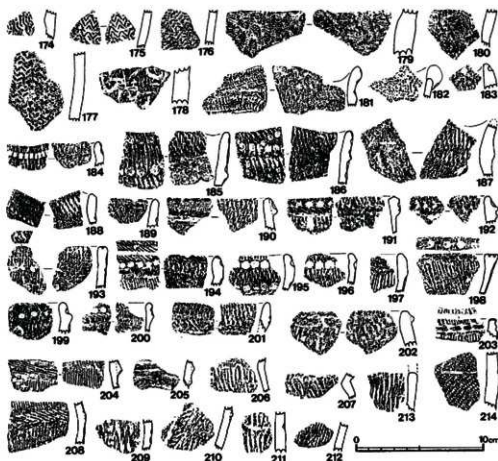


図38 縄文土器 (1/3)

204・205はいずれも頸部から口縁部にかけての破片と思われ、突帯上に櫛歯状工具による斜行する沈線文、地文として櫛歯状工具による沈線文を持ち、204は円形刺突文、205は押し引きによる円形刺突文を施す。206も頸部から口縁部にかけてと思われ、素隆帯を持つ。207・208は頸部であり押捺による可能性のある逆U字状の縄文RLを持つ。209～213は胴部である。209・210は縄文RLを施し、209は押し引き、210は突帯上にI字形範描文を加える。211・212は無節の燃糸文と思われ、212はさらに弧状の沈線文を持つ。

以上の土器は、211・212を除いて、概ね泉拓良氏の言う船元I式新段階から船元II式の古階段に及ぶものである。211・212については、里木II式の範喙で捉え得るものであるが、一条の弧状沈線文や、無節の燃糸文は従来の里木IIとはやや異なる特徴でもある。表面採集による資料自体の性格もあり、これ以上の判断は差し控えておきたい。

214は中期末、または後期の緑帯文初期の深鉢胴部の可能性を考えておく。(中野)

## b 石 器

縄文時代の石器類は、石鐮260点、石匙2点、石錐2点、切目石錘73点、礫石錘8点、小型磨製石斧1点が採集されている。この他に垂飾品が1点みられる。

石鐮は、形態分類に耐え得るもの195点中46点を図化し、基部と平面の形態によって分類を行った。基部形態に基づいて、I類凹基無基式、II類平基無基式、III類凸基無基式の3類に大別し、平面形態は、正三角形・二等辺三角形・五角形状のものをそれぞれA・B・Cとした。I類Aは、41点中9点(216～224)、I類Bは115点中23点(225～247)、I類Cは18点中7点(248～254)、II類Aはすべて(255～256)、II類Bは13点中4点(257～260)を図化した。III類は図化した1点のみであるが(261)、調整等からみて未製品の可能性がある。石材はチャート類が全体の8割を占めており、残りの大半はサヌカイトで、ごく少数の黒曜石が存在する。これら石鐮は、主として早期押型文期及び中期前半のものが混在すると考えられるが、それらを明確に分離することはできなかった。

石匙は完形品2点が存在する(262・263)。262は主要剥離面を表裏に残し、刃部には比較的細かい調整が施されている。263は裏面に主要剥離面を残し、全体を大まかに調整した後刃部の調整を行っている。

石錐は完形品が2点採集されており、そのうち1点を図化した(264)。全体に調整は粗く、錐部も大まかな数回の剥離で作り出されている。

切目石錘は73点が採集されており、そのうち21点を図化した(265～285)。粘板岩製が多数を占める。

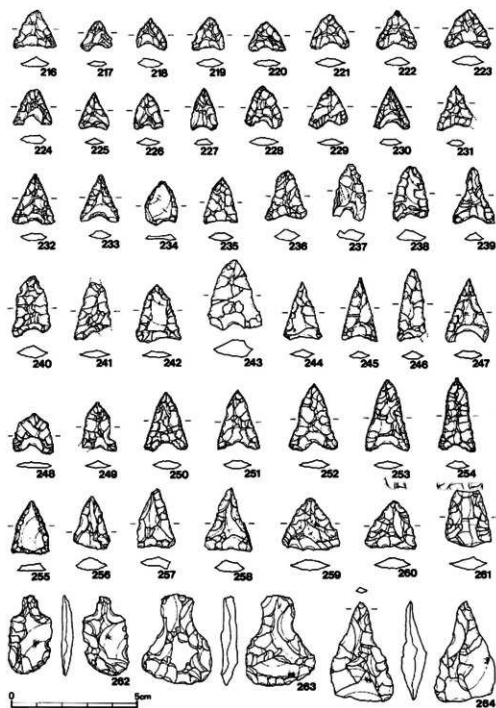


図39 石鏃・石匙・石錐 (2/3)

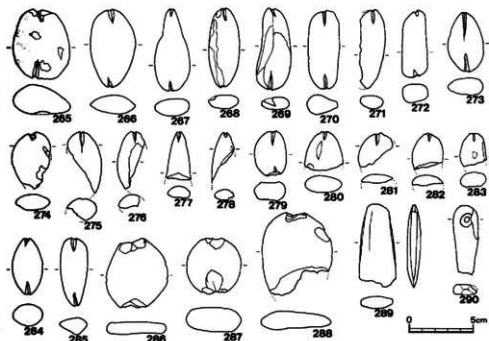


図40 石錘・小型磨製石斧・垂飾品 (1/3)

礫石錘は8点が採集されており、そのうち3点を図化した(286-288)。砂岩製が多数を占める。

磨製石斧は1点のみが採集されている(289)。かなり小型で流紋岩製と思われ、全面に丁寧な研磨が施されている。

今回の調査においても同様であったが、近畿地方において従来は中期末以降に出現すると考えられていた切目石錘が、包含層からの出土ではないとはいえ、1点を除いてすべて中期前葉以前に属する土器と共に大量に採集されていることは興味深い。(武谷)

## 2 古墳時代

### a 須恵器

表面採集による須恵器には、古墳時代のもの(291-300)と、平安時代のもの(301-307)がある。古墳時代の須恵器のうち、219・292は坏蓋、292-297は坏身であり、298は甕の口縁部と思われる。299・300はともに甕の口縁部である。300には波状文が施されている。坏身は293を除いて他はすべて口縁部を欠き、垢、變を含めて5世紀中葉-6世紀前葉のものであるという以上に、時期の同定に正確さを面することが難しい。

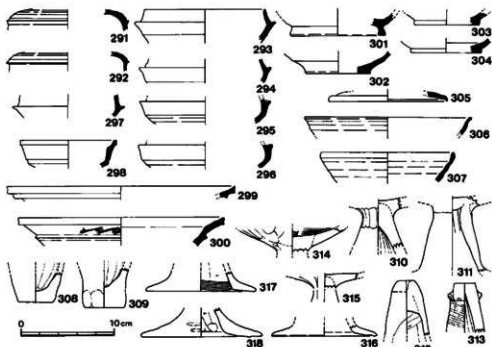


図41 須恵器・土師器 (1/4)

平安時代の須恵器のうち、305は蓋である。301は高台の形態からみて埴よりもむしろ壺であろう。302～304は埴の底部である。すべて糸切りの痕がみられる高台である。307は埴の口縁部、306は壺の口縁部である。これらのうち301は、唯一奈良時代末期から9世紀の所産である可能性があり、303～307はいずれも9世紀代のものであろう。また302は10～11世紀に属する可能性が高い。(角)

#### b 土師器

土師器は高坏 (310～318) と、小型の土器の底部 (308・309) 以外には掲載に耐え得るものがみられなかった。308・309は時期、器種共に推定の域をでないが、発掘調査で出土したミニチュア土器と同じ類で、やや大型のものであろうか。高坏のうち310は脚軸部内面に絞り込みの痕を顕著に残し、311は大振りの脚軸部に坏部側から大粒の粘土粒を充填している。312は脚軸部上端に小さな空洞を持ち、軸部内面には粘土を充填して篋による粗い押え込みを行っている。これは奈良県矢部遺跡の溝401下層出土土器、図97-34 (寺沢ほか1986) に類例をみる。313はA手法によるものである。315もA手法の可能性が高い。314もその可能性があるが、これはまた3つ程度の粘土盤を脚軸部の周辺に貼り合わせて坏部底面を作っていることを示す例である。脚軸部のうち317は内面にハケメ調整を施す。裾部端

圖は316がc類、317・318がd類である。

以上のうち、310～312は発掘資料に類例をみず、古墳時代でも発掘調査とはやや時期を異にする可能性があるが、脚裾部の形態は発掘資料の分類に収まっている。その中心は古墳時代中期にあるものと考えておきたい。

表面採集の資料として、この他に10世紀代と思われる若干の縁軸陶器、及び18世紀代と考えられる唐津、丹波、信楽等の近世陶器が出土しており、唐津の破片が半数近くを占めている。近世陶器の器種には播鉢、碗、盤、壺が確認できるが、いずれも小片であり全体形を知り得るものはない。

(中島和・家根)

#### c 石製品

勾玉 (319) かなり丁寧な研磨を施しており、孔は両側から穿孔されている。

有孔円盤 (320) 周囲に若干の欠損が認められる。両面にやや粗い研磨を施すが、片面は若干の剥離をみる。

垂飾品 (321) 下反が欠損しているため、全体形は把握できないが、表裏面とも丁寧な研磨が施されている。

以上はいずれも蛇紋岩製であるが、垂飾品のみやや石質が異なる。古墳時代のものであろう。

(鈴木)

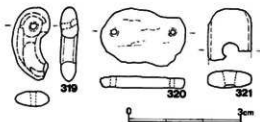


図42 勾玉・有孔円盤・垂飾品 (1/1)

出土遺物観察表

縄文土器観察表（トレンチ内出土）

（中野・福田）

| 図版<br>番号 | 部位          | 出土地点       | 縄文<br>外面<br>内面 | 文様・技法                            | 時 期          | 色 調<br>◇器壁   | 胎 土<br>混入鉱物    | 備 考<br>◎原径       |
|----------|-------------|------------|----------------|----------------------------------|--------------|--------------|----------------|------------------|
| 1        | 胴部          | T1SP2      | —              | 格子目押型文                           | 高山寺式         | 黄褐色<br>◇13.0 | 石英・長石          | ◎不明<br>焼成良好      |
| 2        | 胴部          | T1SP1      | —<br>—         | 縦位山形押型文<br>内面：二枚貝条痕              | 穂谷式          | 暗褐色<br>◇9.0  | 角閃石            | ◎10.5<br>焼成良好    |
| 3        | 胴部          | T1<br>SK10 | —<br>—         | 縦位山形押型文                          | 穂谷式          | 暗灰褐色<br>◇8.0 | 角閃石            | ◎不明<br>焼成良好      |
| 4        | 胴部          | T3 1層      | —              | 横位山形押型文                          | 黄島式          | 黄灰褐色<br>◇9.5 | 石英・長石          | ◎4.7<br>焼成良好     |
| 5        | 胴部          | T3 1層      | —              | 横位山形押型文                          | 黄島式          | 黄灰褐色<br>◇8.5 | 石英・長石          | ◎5.7<br>焼成良好     |
| 6        | 口縁部         | T3 1層      | —              | 折り返し口縁上刻み・押<br>し引き               | 早期水～<br>穂谷式？ | 暗褐色<br>◇7.5  | 石英・角閃石         | 焼成良好             |
| 7        | 口縁部         | T3<br>SX2  | RL<br>RL       | 隆帯上斜位刻み                          | 船元Ⅰ式         | 黄褐色<br>◇7.0  | 石英・長石・<br>チャート | 焼成良好             |
| 8        | 口縁部         | T3 1層      | —<br>RL        | 口唇部斜位刻み、I字形<br>波曲き文、円形刺突文        | 船元Ⅰ～<br>Ⅱ式   | 黄灰褐色<br>◇6.5 | 石英・長石          | 焼成堅緻             |
| 9        | 口縁部         | T3 1層      | —              | 隆帯上C字形爪形文                        | 船元Ⅰ～<br>Ⅱ式   | 暗灰褐色<br>◇5.5 | 石英・長石          | 内面スス付着、<br>焼成不良  |
| 10       | 口縁部         | SB1埋土      | RL<br>RL       | 隆帯上二枚貝圧痕                         | 船元Ⅰ～<br>Ⅱ式   | 黄灰褐色<br>◇7.0 | 石英・長石          | 焼成やや不良           |
| 11       | 口縁部         | T3 1層      | —              | 隆帯上二枚貝圧痕                         | 船元Ⅰ式         | 黄灰褐色<br>◇7.0 | 石英・長石・<br>チャート | 焼成不良             |
| 12       | 口縁部         | T3 2層      | —              | 口唇部刻み、竹管腹面に<br>よる半隆起線文           | 船元Ⅰ式         | 黄灰褐色<br>◇8.0 | チャート           | 焼成良好             |
| 13       | 口縁部<br>(波状) | SB1-D      | —<br>—         | 円形刺突文、歯面状工具<br>による波曲文、素隆帯        | 船元Ⅰ式         | 淡褐色<br>◇7.5  | 長石・チャ<br>ート    | 内面スス付着、<br>焼成堅緻  |
| 14       | 胴部          | T3<br>SK11 | —              | 板状工具による条痕、素<br>隆帯                | 中期前葉         | 暗褐色<br>◇6.5  | 石英・長石・<br>チャート | 焼成堅緻             |
| 15       | 胴部          | T3 1層      | RL<br>—        | 屈曲部ナデ、RL縄文圧<br>痕                 | 船元Ⅰ式         | 黄灰褐色<br>◇7.5 | 石英・長石          | L Rの圧痕、<br>焼成良好  |
| 16       | 胴部          | T3 1層      | —<br>—         | 竹管背面による連続押し<br>引き、歯面状工具による<br>波曲 | 船元Ⅰ式         | 暗灰褐色<br>◇5.0 | 石英・長石          | 焼成堅緻             |
| 17       | 胴部          | SB1埋土      | —              | 円形刺突文、素隆帯                        | 船元Ⅰ式         | 淡黄褐色<br>◇7.0 | 石英・長石・<br>チャート | 焼成良好             |
| 18       | 胴部          | T3 1層      | RL<br>—        | 押し引き風円形刺突文、<br>素隆帯               | 船元Ⅰ式         | 淡黄褐色<br>◇8.0 | 石英・長石          | 焼成良好             |
| 19       | 口縁部<br>(波状) | T3 1層      | —              | 円形刺突文、隆帯上刻み                      | 船元Ⅰ～<br>Ⅱ式   | 黄褐色<br>◇7.5  | 石英・長石          | 内外面スス付<br>着、焼成良好 |

| 調査<br>番号 | 部位          | 出土地点         | 縄文<br>外面<br>内面 | 文様・技法                                    | 時 期         | 色 調<br>◇器壁         | 胎 土<br>埋入鉱物    | 備 考<br>◎厚径    |
|----------|-------------|--------------|----------------|------------------------------------------|-------------|--------------------|----------------|---------------|
| 20       | 底部          | T 3 1層       | —<br>—         | 上げ底                                      | 中期前葉        | 黄灰褐色<br>◇7.5       | 石英・長石・<br>チャート | 焼成良好          |
| 21       | 口縁部         | T 4          | —<br>R L       | 押し引き風円形刺突文、<br>圧痕による円形刺突文、<br>I 字形寛幅き文   | 船元 I 式      | 黄灰褐色<br>◇6.5       | 石英・長石          | 焼成良好          |
| 22       | 胴部          | T 6 1層       | —<br>—         | 縦位山形押型文                                  | 黄島式         | 黄灰褐色<br>◇9.5       | 石英・長石          | ◎5.7<br>焼成良好  |
| 23       | 胴部          | T 6 1層       | —<br>—         | 縦位横円押型文                                  | 高山寺式        | 黄灰褐色<br>◇14.5      | 石英・長石          | ◎11.8<br>焼成良好 |
| 24       | 口縁部<br>(波状) | T 6 1層       | —<br>R L       | 口唇部刻み、Σ字状刻み、<br>口縁内面に段                   | 黄島式         | 黄灰褐色<br>◇5.5       | 石英・長石          | 焼成良好          |
| 25       | 口縁部<br>(波状) | T 6 1層       | —<br>R L       | 口唇部及び隆帯上刻み                               | 中期初頭<br>～前葉 | 暗灰褐色<br>◇6.5       | 石英・長石・<br>チャート | 焼成良好          |
| 26       | 口縁部         | T 6<br>SK 19 | —<br>—         | 口唇部平坦、浅い円形刺<br>突文、I 字形寛幅き文、<br>素隆帯       | 船元 I 式      | 黄灰褐色<br>◇5.5       | 石英・長石・<br>チャート | 焼成堅緻          |
| 27       | 口縁部         | T 6 1層       | —<br>—         | 口唇部斜位刻み、圧痕に<br>よる円形刺突文、I 字形<br>寛幅き文      | 船元 I 式      | 黄灰褐色<br>◇6.5       | 石英・長石・<br>チャート | 焼成良好          |
| 28       | 口縁部         | T 6<br>SK 19 | —<br>—         | 口唇部斜位刻み、圧痕に<br>よる円形刺突文、I 字形<br>寛幅き文      | 船元 I 式      | 黄灰褐色<br>◇6.5       | 石英・長石・<br>チャート | 焼成良好          |
| 29       | 口縁部         | T 6 1層       | —<br>—         | 口縁内外面二枚貝条痕、<br>口唇部刻み、二枚貝圧痕、<br>竹管腹面による洗線 | 船元 I 式      | 暗灰褐色<br>◇6.5       | 石英・長石・<br>チャート | 焼成良好<br>縦口縁   |
| 30       | 口縁部         | T 6 1層       | R L<br>R L     | 口唇部平坦                                    | 中期前葉        | 暗灰褐色<br>◇7.5       | 石英・長石・<br>チャート | 焼成堅緻          |
| 31       | 胴部          | T 6 1層       | —<br>—         | 円形刺突文、素隆帯、I<br>字形寛幅き文                    | 船元 I 式      | 黄灰褐色<br>◇5.5       | 石英・長石          | 焼成良好          |
| 32       | 胴部          | T 6 1層       | —<br>—         | 二枚貝条痕                                    | 中期前葉        | 黄灰褐色<br>◇5.5       | 石英・長石          | 焼成堅緻          |
| 33       | 胴部          | T 7 1層       | —<br>—         | 縦位横円押型文                                  | 高山寺式        | 暗黄灰褐<br>色<br>◇12.0 | 石英・長石          | ◎不明<br>焼成良好   |
| 34       | 底部<br>(尖底)  | T 7 1層       | —<br>—         | 無文                                       | 高山寺式        | 黄灰褐色<br>◇24.5      | 石英・長石          | 焼成良好          |
| 35       | 胴部          | T 7 1層       | —<br>—         | 無文                                       | 高山寺式        | 黄灰褐色<br>◇14.0      | 石英・長石          | 焼成良好          |
| 36       | 胴部          | T 7 1層       | —<br>—         | 縦位山形押型文                                  | 穂谷式         | 暗灰褐色<br>◇9.5       | 角閃石            | ◎不明<br>焼成良好   |
| 37       | 胴部          | T 7 1層       | —<br>—         | 素隆帯、竹管背面押し引<br>き、I 字形寛幅き文                | 船元 I 式      | 黄灰褐色<br>◇7.5       | 石英・長石          | 焼成不良          |

## 縄文時代石器 (トレンチ内出土)

(鈴木・武谷)

| 図版番号 | 器種   | 出土地点 | 形態分類 |    | 計測値    |        |        |        | 石材     | 備考       |
|------|------|------|------|----|--------|--------|--------|--------|--------|----------|
|      |      |      | 基部   | 平面 | 長さ(mm) | 幅(mm)  | 厚さ(mm) | 重さ(g)  |        |          |
| 38   | 石鏃   |      | I    | A  | 14.0   | 13.5   | 2.5    | 0.5    | 青色チャート |          |
| 39   | 石鏃   |      | I    | A  | 18.5   | 15.0   | 3.5    | 0.8    | 青色チャート |          |
| 40   | 石鏃   |      | I    | B  | (17.0) | 13.0   | 2.5    | (0.6)  | 青色チャート | 先端部欠損    |
| 41   | 石鏃   |      | I    | B  | (24.0) | (14.0) | 4.0    | (1.3)  | 青色チャート | 先端・片側部欠損 |
| 42   | 石鏃   |      | I    | B  | 29.0   | 15.0   | 4.5    | 1.6    | サヌカイト  | 未製品か?    |
| 43   | 尖頭器  |      | II   |    | (22.0) | (18.0) | (4.0)  | (1.5)  | 青色チャート | 基部欠損     |
| 45   | 尖頭器  |      |      |    | (32.0) | (31.5) | (5.5)  | (8.6)  | 青色チャート | 過半欠損     |
| 46   | 尖頭器  |      |      |    | (35.0) | (23.0) | (6.0)  | (4.8)  | 青色チャート | 基部欠損     |
| 44   | 石匙   |      |      |    | 23.0   | 19.0   | 4.0    | 1.6    | サヌカイト  | 未製品か?    |
| 47   | 切目石鏃 |      |      |    | (79.0) | (21.0) | (14.5) | (17.1) | 粘板岩    | 欠損あり     |
| 48   | 切目石鏃 |      |      |    | (51.0) | (16.0) | (4.0)  | (6.2)  | 粘板岩    | 過半欠損     |
| 49   | 切目石鏃 |      |      |    | (34.0) | (22.0) | (5.0)  | (4.4)  | 粘板岩    | 過半欠損     |

## 須恵器観察表

(角)

| 図版番号   | 器種      | 法量(cm)<br>A 口径<br>B 器高 | 調 整                                 | 色 調                             | 胎 土                | 備 考                                   |
|--------|---------|------------------------|-------------------------------------|---------------------------------|--------------------|---------------------------------------|
| 第1トレンチ |         |                        |                                     |                                 |                    |                                       |
| 50     |         | 復元最大径<br>14.8          | 外面: ヨコナデ、櫛<br>き波状文<br>内面: ヨコナデ      | 外面: 黄褐色<br>内面: 淡黄褐色<br>内部: 淡赤褐色 | 精良、2~3mmの<br>砂粒を含む | 外面に緑黄褐色の自然釉が<br>付着、内面に黒斑あり            |
| 第3トレンチ |         |                        |                                     |                                 |                    |                                       |
| 59     | 坏蓋      | A12.5<br>B4.0          | 外面: 回転ヘラズリ<br>ヨコナデ<br>内面: ヨコナデ、ナデ   | 淡青灰色                            | 4~5mmの砂粒を<br>含む    | 回転台は時計回り                              |
| 60     | 坏身      | A11.0<br>B5.2          | 外面: 回転ヘラズリ<br>ヨコナデ<br>内面: ヨコナデ、ナデ   | 灰色<br>底部: 淡黒灰色                  | 大粒の砂粒を多<br>く含む     | 内面にスガが付着<br>回転台は時計回り                  |
| 61     | 壺       | A9.8<br>B8.3           | 外面: ヨコナデ、ヘラ<br>ズリ<br>内面: ヨコナデ、ナデ    | 灰色(波状文以<br>上は黒灰色)               | 2~3の石英を小<br>量含む    | 把手付冠縁部、底部外面に<br>黒色の自然釉が付着<br>回転台は時計回り |
| 62     | 壺       | A27.0                  | 外面: ヨコナデ、頸部<br>に3本の沈線<br>内面: ヨコナデ   | 外面: 暗灰色<br>内面: 黄灰色              | 3~4mmの石英を<br>多量に含む |                                       |
| 63     | 壺       | 復元最大径<br>28.6          | 外面: 回転ナデ、タテ<br>キ目、櫛き波状文<br>内面: 回転ナデ | 淡灰色                             | 精良、極小の砂<br>粒を含む    | 外面に黄灰色の自然釉が付<br>着                     |
| 112    | 坏蓋      | A12.2<br>B4.4          | 外面: 回転ヘラズリ<br>ヨコナデ<br>内面: ヨコナデ      | 淡灰色                             | 3mm大の石英を<br>少量含む   | 外面に暗緑黄色の自然釉が<br>付着<br>回転台は反時計回り       |
| 第4トレンチ |         |                        |                                     |                                 |                    |                                       |
| 122    | 坏身      | 復元最大径<br>14.0          | 内外面: ヨコナデ                           | 淡黄灰色                            | 精良                 | 焼成不良のため土質劣化し<br>ている<br>回転台は反時計回り      |
| 第7トレンチ |         |                        |                                     |                                 |                    |                                       |
| 160    | 高坏<br>か | A12.6                  | 内外面: ヨコナデ                           | 淡黒灰色                            | 1~2mmの石英・<br>長石を含む |                                       |

土師器壺観察表

(鍋田)

| 図版<br>番号 | 法量 (cm)<br>A 口径<br>B 底径<br>C 器高 | 器<br>種 | 形態<br>口縁部 | 調 整       | 色 調                                                 | 胎 土              | 備 考                |
|----------|---------------------------------|--------|-----------|-----------|-----------------------------------------------------|------------------|--------------------|
| 第1トレンチ   |                                 |        |           |           |                                                     |                  |                    |
| 55       | A16.0                           | D      | —         | 口縁部       | 内外面：ハケメ                                             | 赤褐色              | 石英、長石、雲母多量の赤色粒     |
| 第2トレンチ   |                                 |        |           |           |                                                     |                  |                    |
| 64       | A9.8                            | A      | —         | 口縁部<br>体部 | 内外面：ヨコナデ<br>外面：ヨコナデ<br>内面：ハケメ                       | 外：淡黄褐色<br>内：淡黄色  | 1～3mmの石英、少量の黒色粒    |
| 65       | A13.8                           | B      | —         | 口縁部       | 内外面：ヨコナデ                                            | 淡茶褐色             | 長石、雲母、赤色粒          |
| 66       | A8.9                            | D      | —         | 口縁部       | 内外面：ヨコナデ                                            | 淡黄褐色             | 石英、長石、雲母、赤色粒       |
| 67       | —                               | A      | —         | 口縁部<br>体部 | 内外面：ヨコナデ<br>外面：ハケメ<br>内面：ユビオサエ、ヘラケズリ                | 外：橙褐色<br>内：茶褐色   | 1～2mmの石英、長石、雲母、赤色粒 |
| 68       | A10.0<br>C8.5                   | C      | —         | 口縁部<br>体部 | 内外面：ヨコナデ<br>外面：不明<br>内面：不明、底部にユビオサエ                 | 暗橙褐色<br>多量の砂粒、雲母 |                    |
| 115      | A7.5<br>C8.4                    | D      | —         | 口縁部<br>体部 | 内外面：ヨコナデ<br>外面：上半ヨコナデの後ハケメ<br>下半ナデの後ハケメ<br>内面：ユビオサエ | 黒灰褐色             | 石英、長石、雲母           |
| 116      | A7.5<br>B8.0                    | D      | —         | 口縁部<br>体部 | 内外面：ヨコナデ<br>外面：ナデ<br>内面：ユビナデ                        | 淡黄灰褐色            | 石英、長石、雲母           |
| 第7トレンチ   |                                 |        |           |           |                                                     |                  |                    |
| 162      | —                               | D      |           | 体部        | 外面：ハケメ<br>内面：ヨコナデ                                   | 淡黄灰褐色            | 1～2mmの石英、長石、雲母     |

土師器甕観察表

(鍋田)

| 図版<br>番号 | 法量 (cm)<br>A 口径<br>B 底径<br>C 器高 | 器<br>種 | 形態<br>口縁部 | 調 整       | 色 調                                                | 胎 土  | 備 考          |
|----------|---------------------------------|--------|-----------|-----------|----------------------------------------------------|------|--------------|
| 第1トレンチ   |                                 |        |           |           |                                                    |      |              |
| 51       | A11.0                           | A      | e 1       | 口縁部       | 外面：ヨコナデ<br>内面：一部ハケメの後ヨコナデ                          | 淡赤褐色 | 石英、長石、小粒の雲母  |
| 52       | A18.8                           | A      | d 2       | 口縁部       | 外面：ヨコナデ<br>内面：一部ハケメの後ヨコナデ                          | 淡黄褐色 | 1mm大の砂粒      |
| 53       | A12.9                           | A      | e 2       | 口縁部<br>体部 | 外面：ヨコナデ<br>内面：一部ハケメの後ヨコナデ<br>外面：ハケメ、ナデ<br>内面：ヘラケズリ | 淡黄褐色 | 石英、長石、雲母、黒色粒 |
| 54       | A16.4                           | A      | d 2       | 口縁部<br>体部 | 内外面：ヨコナデ<br>外面：ハケメ<br>内面：ヘラケズリ                     | 黄褐色  | 2～3mmの石英、長石  |

| 図版<br>番号 | 法量 (cm)<br>A 口径<br>B 底径<br>C 器高 | 器<br>種 | 形態<br>口縁部 | 調 整       | 色 調                                                                             | 胎 土               | 備 考                   |
|----------|---------------------------------|--------|-----------|-----------|---------------------------------------------------------------------------------|-------------------|-----------------------|
| 第3トレンチ   |                                 |        |           |           |                                                                                 |                   |                       |
| 58       | A27.0                           | —      | —         | 口縁部       | 内外面：板状工具によるナデ                                                                   | 淡赤褐色              | 石英、長石、小粒の雲母           |
| 69       | A16.3                           | A      | d 2       | 口縁部<br>底部 | 外面：ヨコナデの後一部ハケメ<br>内面：ハケメの後ヨコナデ<br>外面：ハケメ、①4～4.5mm<br>②2.5cm 内面：ヘラケズリ            | 淡黄褐色              | 1～4mmの石英・長石           |
| 70       | A15.4                           | A      | d 2       | 口縁部<br>底部 | 内外面：ヨコナデ<br>外面：不明（ハケメ？）<br>内面：右方向のヘラケズリ                                         | 赤褐色               | 石英、長石、雲母              |
| 71       | A18.6                           | A      | d 2       | 口縁部       | 内外面：ヨコナデ                                                                        | 淡褐色               | 1～2mmの石英、長石、黒色粒、多量の雲母 |
| 72       | A17.6                           | A      | e 1       | 口縁部<br>底部 | 内外面：ヨコナデ<br>外面：ハケメ<br>内面：ヘラケズリ                                                  | 淡黄褐色              | 1～2mmの石英、長石、黒色粒       |
| 73       | A12.6                           | A      | e 2       | 口縁部<br>底部 | 内外面：ヨコナデ<br>外面：ハケメ、①1.25mm<br>内面：左方向のヘラケズリ                                      | 淡黄褐色              | 1～2mmの石英、1mm大の長石、赤色粒  |
| 74       | A18.8                           | A      | e 1       | 口縁部<br>底部 | 外面：ヨコナデ<br>内面：ハケメの後ヨコナデ<br>①1.5mm<br>外面：ハケメ、①1mm②2.4cm<br>内面：縦方向のユビナデ、左方向のヘラケズリ | 淡黄灰褐色             | 多量の石英、2～3mmの長石        |
| 75       | A18.4                           | A      | e 1       | 口縁部<br>底部 | 外面：右方向のヨコナデ<br>内面：ヨコナデ、ナメナデ<br>外面：ハケメ、①3mm<br>②1.25～1.3cm<br>内面：左方向のヘラケズリ       | 淡黄褐色              | 1～2mmの石英・長石           |
| 76       | A16.4                           | A      | e 1       | 口縁部<br>底部 | 内外面：ヨコナデ<br>外面：ハケメ<br>内面：ヘラケズリ                                                  | 外：暗黄灰褐色<br>内：暗灰褐色 | 多量の石英・長石<br>極小の雲母、赤色粒 |
| 77       | A18.6                           | B      |           | 口縁部<br>底部 | 内外面：ヨコナデ<br>外面：ハケメ、①1.5mm<br>内面：ヘラケズリ                                           | 淡黄褐色              | 2～3mmの多量の石英、長石、黒色粒    |
| 78       | 頸部径<br>14.7                     | A      |           | 底部        | 外面：ハケメ、①3.5～4mm<br>内面：ハケメ                                                       | 淡黄灰褐色             | 2～4mmの多量の石英・長石        |
| 79       | A15.4                           | A      | e 1       | 口縁部<br>底部 | 内外面：ヨコナデ<br>外面：ハケメの後ナデ<br>内面：軽いヘラケズリ、頸部は指によるナデ上げ                                | 淡黄褐色～<br>灰褐色      | 1～4mmの石英・長石、黒色粒       |
| 114      | A19.9<br>C15.6                  | A      | b         | 口縁部<br>底部 | 外面：ハケメの後方向のヨコナデ<br>内面：ヨコナデ<br>外面：ハケメ<br>内面：ヘラケズリ                                | 淡褐色               | 少量の石英・長石・赤色粒、精良       |

| 断面<br>番号 | 法量 (cm)<br>A 口径<br>B 底径<br>C 部高 | 器<br>種 | 形態<br>口縁部 | 調 整       |                                                                  | 色 調          | 胎 上                                    | 備 考                  |
|----------|---------------------------------|--------|-----------|-----------|------------------------------------------------------------------|--------------|----------------------------------------|----------------------|
| 第4トレンチ   |                                 |        |           |           |                                                                  |              |                                        |                      |
| 123      | A13.0                           | A      | e 2       | 口縁部       | 内外面: ヨコナデ                                                        | 淡茶褐色         | 3~4mmの石英、<br>2mm大の長石、<br>少量の雲母、赤<br>色粒 |                      |
| 124      | A11.0                           | A      | e 1       | 口縁部       | 内外面: ヨコナデ                                                        | 淡黄褐色         | 石英、長石、雲<br>母                           |                      |
| 125      | A14.1                           | A      | d 1       | 口縁部<br>体部 | 内外面: ハケメの後ヨコナデ<br>外面: ナデ、ハケメ<br>内面: ハケメの後ナデ                      | 茶褐色          | 石英、長石、雲<br>母<br>角閃石?                   |                      |
| 126      | A19.4                           | A      | a         | 口縁部       | 内外面: ヨコナデ                                                        | 淡茶褐色<br>淡黄褐色 | 石英、長石、雲<br>母                           |                      |
| 127      | A16.8                           | A      | d 2       | 口縁部<br>体部 | 内外面: ヨコナデ<br>外面: ハケメ、①2mm<br>内面: ハケメ、ヘラケズリ                       | 淡黄褐色         | 1~3mmの多量<br>の石英、少量の<br>雲母・赤色粒          |                      |
| 128      | A18.4                           | A      | e 2       | 口縁部<br>体部 | 内外面: ヨコナデ<br>外面: ナデ、ハケメ、①1.5mm<br>②1.5cm 内面: ナデ、ヘラケズ<br>リ、ハケメ    | 淡黄褐色         | 1~4mmの石英、<br>少量の長石、極<br>小の雲母、赤色<br>粒   |                      |
| 129      | A15.6                           | A      | e 1       | 口縁部<br>体部 | 外面: ヨコナデ<br>内面: ハケメの後ヨコナデ<br>外面: ハケメ、①2mm<br>②2.1cm<br>内面: ヘラケズリ | 淡黄褐色         | 1~4mmの石英<br>・長石、雲母、<br>赤色粒             | 体部外面<br>中央部に<br>スス付着 |
| 130      | A19.6                           | A      | e 1       | 口縁部<br>体部 | 外面: ヨコナデ<br>内面: 不明<br>外面: ハケメ、①1.5mm<br>内面: ヘラケズリ                | 明黄褐色         | 2~4mmの多量<br>の石英、長石、<br>赤色粒<br>黒色粒      |                      |
| 131      | A17.0                           | A      | e 2       | 口縁部<br>体部 | 内外面: ヨコナデ<br>外面: ハケメ、①1.5mm<br>内面: ヘラケズリ、一部ハケメ、<br>ユビオサエ         | 明褐色          | 1~2mmの石英、<br>少量の長石、極<br>小の雲母、赤色<br>粒   |                      |
| 132      | A9.2                            | A      | e 2       | 口縁部<br>体部 | 外面: ヨコナデ<br>内面: ハケメの後ナデ<br>外面: ハケメ<br>内面: ヘラケズリ、ユビオサエ            | 淡褐色          | 1~2mmの石英<br>・長石、赤色粒                    |                      |
| 133      | A18.4                           | A      | d 2       | 口縁部       | 内外面: ヨコナデ                                                        | 淡黄色          | 2~3mmの石英、<br>1~2mmの長石、<br>雲母、赤色粒       |                      |
| 156      | A17.8                           | A      | c         | 口縁部       | 内外面: ヨコナデ                                                        | 淡黄褐色         | 石英、赤色粒、<br>黒色粒                         | 表土層                  |
| 第5トレンチ   |                                 |        |           |           |                                                                  |              |                                        |                      |
| 159      | A17.8                           | A      | e 1       | 口縁部<br>体部 | 内外面: ヨコナデ<br>外面: ナデ<br>内面: ヘラケズリ                                 | 淡黄褐色         | 1~2mmの石英、<br>長石、雲母、赤<br>色粒<br>黒色粒      |                      |

| 図版<br>番号 | 法量(cm)<br>A 口径<br>B 底径<br>C 器高 | 器<br>種 | 形態<br>口縁部 | 調 整           | 色 調              | 胎 土                 | 備 考 |
|----------|--------------------------------|--------|-----------|---------------|------------------|---------------------|-----|
| 第7トレンチ   |                                |        |           |               |                  |                     |     |
| 161      | A15.6                          | A      | c 1       | 口縁部 内外面: ヨコナデ | 外: 淡褐色<br>内: 灰褐色 | 石英、長石、雲母<br>角閃石、赤色粒 |     |

土師器高坏観察表 ※調整方向は坏部は上から見て、脚部は下から見てのものである。

(堀田)

| 図版<br>番号 | 法量(cm)<br>A 口径<br>B 底径<br>C 器高 | 器<br>種 | 形態<br>口縁部 | 調 整                                                                                                          | 色 調               | 胎 土                | 備 考 |
|----------|--------------------------------|--------|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|--------------------|-----|
| 第3トレンチ   |                                |        |           |                                                                                                              |                   |                    |     |
| 56       | A13.6                          | A      | d         | 口縁部 外面: ハケメの後ヨコナデ<br>内面: ヨコナデ                                                                                | 淡黄褐色              | 石英、長石、黒色粒          |     |
| 57       | —                              | —      | 体部        | 内外面: ナデ                                                                                                      | 外: 淡黄褐色<br>内: 淡褐色 | 石英、長石              |     |
| 80       | A14.7<br>B10.2<br>C12.9        | A      | b c       | 口縁部 内外面: 時計回りのヨコナデ<br>体部 外面: 粗いナデ<br>内面: 丁寧なナデ<br>脚柱部 外面: 一部ハケメの後ユビナデ<br>脚底部 内面: 時計回りのヘラケズリ<br>内外面: ナデ       | 黒灰褐色              | 1mm大の石英・長石、極小の雲母   |     |
| 81       | A14.4<br>B10.1<br>C11.6        | A      | b d       | 口縁部 外面: ハケメの後ヨコナデ<br>体部 内面: 不明<br>脚柱部 外面: 粗いナデ 内面: 不明<br>脚底部 内面: 時計回りのヘラケズリ<br>外面: 不明 内面: ナデ                 | 淡黄褐色              | 1~2mmの石英・長石        |     |
| 82       | A15.3<br>B11.0<br>C12.8        | A      | b d       | 口縁部 内外面: ハケメの後ヨコナデ<br>体部 外面: 粗いナデ<br>脚柱部 内面: ハケメの後ナデ<br>脚底部 外面: やや粗いナデ<br>内面: 時計回りのヘラケズリ<br>内外面: ナデ          | 淡黄褐色              | 1~2mmの石英・長石、雲母     |     |
| 83       | A16.2<br>B10.6<br>C12.4        | A      | d c       | 口縁部 外面: ヨコナデ 内面: 反時計回りのハケメ、ヨコナデ<br>体部 外面: 粗いナデ<br>脚柱部 内面: ハケメの後ナデ<br>脚底部 外面: ナデ<br>内面: 時計回りのヘラケズリ<br>内外面: ナデ | 褐色                | 1~2mmの石英・長石、雲母、黒色粒 |     |
| 84       | A16.8                          | A      | a         | 口縁部 外面: ヨコナデ<br>内面: ハケメの後ヨコナデ                                                                                | 外: 黄灰褐色<br>内: 淡褐色 | 石英、長石              |     |
| 85       | A16.0                          | A      | b         | 口縁部 内外面: ヨコナデ                                                                                                | 淡褐色               | 石英、長石、雲母           |     |
| 86       | A15.6                          | A      | b         | 口縁部 内外面: ヨコナデ                                                                                                | 淡黄褐色              | 石英、長石、赤色粒          |     |
| 87       | A15.0                          | A      | d         | 口縁部 内外面: ハケメの後ヨコナデ                                                                                           | 灰褐色               | 石英、長石、雲母           |     |

| 図版<br>番号 | 法量(cm)<br>A 口径<br>B 底径<br>C 器高 | 器<br>種 | 形態<br>口縁部 | 調 整                                                                                                    | 色 調  | 胎 土                | 備 考                  |
|----------|--------------------------------|--------|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|--------------------|----------------------|
| 88       | A15.2                          | A      | b         | 口縁部 内外面：不明                                                                                             | 淡黄色  | 1mm大の石英・長石、黒色粒     |                      |
| 89       | A15.6                          | A      | e 2       | 口縁部 内外面：ヨコナデ                                                                                           | 淡黄褐色 | 1～2mmの石英・長石、雲母、黒色粒 |                      |
| 90       | A15.2                          | A      | d         | 口縁部 外面：ヨコナデ<br>体部 外面：粗いナデ<br>内面：ナデ                                                                     | 淡黄褐色 | 2～3mmの石英、長石、極小の雲母  |                      |
| 91       | A22.4                          | A      | c         | 口縁部 内外面：ヨコナデ                                                                                           | 橙褐色  | 石英、長石              |                      |
| 92       | A14.0                          | B      | —         | 口縁部 内外面：ヨコナデ                                                                                           | 淡黄褐色 | 1～2mmの石英・長石        | 坏部が内<br>側する          |
| 93       | A13.2                          | B      | —         | 坏部 外面：上半ヨコナデ、下半ナデ<br>脚部 内面：不明<br>内外面：ナデ                                                                | 淡黄褐色 | 1～2mmの石英・長石        | 坏部が内<br>側する          |
| 94       | —                              | —      | —         | 体部 外面：ユビナデ<br>内面：不明                                                                                    | 黄褐色  | 多量の石英・長石           |                      |
| 95       | —                              | —      | —         | 体部 外面：不明<br>内面：ナデ                                                                                      | 淡黄褐色 | 少量の石英・長石           |                      |
| 96       | —                              | —      | —         | 脚部 外面：ユビナデ<br>内面：時計回りのヘラケズリ                                                                            | 淡黄褐色 | 少量の石英・長石           |                      |
| 97       | —                              | —      | —         | 体部 内外面：不明                                                                                              | 淡黄褐色 | 1mm大の石英・長石         |                      |
| 98       | B10.4                          | —      | a         | 脚柱部 外面：不明<br>脚部 内面：時計回りのナデ<br>内外面：ナデ                                                                   | 淡黄褐色 | 少量の石英・雲母、長石        | 端部を面<br>取りする<br>黒斑あり |
| 99       | B14.6                          | —      | a         | 脚部 内外面：ナデ                                                                                              | 灰褐色  | 石英、長石、雲母、黒色粒       | 端部を面<br>取りする         |
| 100      | B11.2                          | —      | b         | 脚柱部 外面：ナデ<br>脚部 内面：時計回りのヘラケズリ<br>内外面：ナデ                                                                | 黄灰褐色 | 少量の石英、長石、雲母        |                      |
| 101      | B9.0                           | —      | c         | 脚柱部 内面：ケズリ<br>脚部 内外面：ナデ                                                                                | 淡黄褐色 | 石英、長石、雲母、赤色粒       |                      |
| 102      | B9.8                           | —      | c         | 脚部 内外面：ナデ                                                                                              | 黄褐色  | 石英、長石              |                      |
| 103      | B10.8<br>(推定)                  | —      | —         | 脚柱部 外面：やや粗いナデ<br>脚部 内面：時計回りのヘラケズリ<br>内外面：ナデ                                                            | 淡黄褐色 | 少量の石英・長石・雲母        |                      |
| 117      | A15.8                          | A      | c         | 口縁部 内外面：ヨコナデ<br>体部 外面：粗いナデ<br>内面：ナデ                                                                    | 暗橙褐色 | 長石、細かい雲母           |                      |
| 118      | A16.6<br>B10.9<br>C12.3        | A      | a<br>c    | 口縁部 外面：ヨコナデ<br>体部 内面：ハケメの後ヨコナデ<br>脚部 外面：粗いナデ 内面：ナデ<br>脚柱部 外面：ナデ、ハケメ<br>内面：下部をナデした後時計回りのヘラケズリ<br>内外面：ナデ | 黄褐色  | 石英、長石、多量の細かい雲母     | 全体的に<br>黒斑あり         |

| 図版<br>番号 | 法量(cm)<br>A 口径<br>B 底径<br>C 器高 | 器<br>種 | 形態<br>口縁部 | 調 整                                                               | 色 調                      | 胎 土                         | 備 考                                 |
|----------|--------------------------------|--------|-----------|-------------------------------------------------------------------|--------------------------|-----------------------------|-------------------------------------|
| 121      | A15.6                          | A      | e 1       | 口縁部<br>体部<br>内外面：ヨコナデ<br>外面：ヨコナデ<br>内面：不明                         | 淡黄色                      | 1～2mmの石英、<br>長石、赤色粒、<br>黒色粒 |                                     |
| 第4 トレンチ  |                                |        |           |                                                                   |                          |                             |                                     |
| 134      | A16.2                          | A      | b         | 口縁部<br>内外面：ヨコナデ                                                   | 外：茶褐色<br>内：黄褐色           | 石英、長石                       |                                     |
| 135      | A16.6                          | A      | e 2       | 口縁部<br>内外面：不明                                                     | 淡黄褐色                     | 1～2mmの多量の<br>石英・長石、<br>赤色粒  |                                     |
| 136      | A17.4                          | A      | e 1       | 口縁部<br>体部<br>内外面：不明<br>外面：粗いナデ 内面：ナデ                              | 淡黄褐色                     | 1～2mmの石英・<br>長石、赤色粒         | 坯部との<br>接合部が<br>完存                  |
| 137      | A15.0<br>B11.3                 | A      | e 2<br>d  | 坯部<br>脚部<br>内外面：不明<br>内外面：不明                                      | 橙褐色                      | 石英、長石、雲<br>母                |                                     |
| 138      | —                              | —      | —         | 体部<br>内外面：不明                                                      | 淡橙褐色                     | 1～3mmの石英、<br>長石、雲母、赤<br>色粒  | 接合部を<br>中空円棒<br>で刺突                 |
| 139      | —                              | —      | —         | 体部<br>内外面：ナデ                                                      | 淡黄褐色                     | 石英、長石、雲<br>母、赤色粒            |                                     |
| 140      | —                              | —      | —         | 体部<br>内外面：ナデ                                                      | 黄褐色                      | 2mm大の石英・<br>長石、雲母           |                                     |
| 141      | B10.7                          | —      | b         | 胴柱部<br>脚部<br>外面：ナデ<br>内面：時計回りの棒状工具によ<br>るケズリ<br>内外面：ナデ            | 橙褐色                      | 石英、長石、1<br>～2mmの赤色粒         |                                     |
| 142      | —                              | —      | —         | 胴柱部<br>外面：ナデの後ハケメ<br>内面：ナデ                                        | 淡黄褐色                     | 石英、長石、雲<br>母、赤色粒、黒色粒        |                                     |
| 143      | —                              | —      | —         | 胴柱部<br>内外面：不明                                                     | 橙褐色                      | 極小の石英・長<br>石、雲母・赤色粒         | 粘土細外<br>傾3段で<br>成形                  |
| 144      | B11.5                          | —      | d         | 胴柱部<br>脚部<br>内面：ナデ<br>内外面：ナデ                                      | 黄褐色                      | 石英、長石、赤<br>色粒               |                                     |
| 145      | A13.8<br>B9.6<br>C9.9          | B      | —<br>e    | 口縁部<br>体部<br>脚部<br>内外面：ヨコナデ<br>内外面：不明<br>外面：不明 内面：ケズリ<br>内外面：ヨコナデ | 淡黄色                      | 2～3mmの石英、<br>長石、雲母、赤<br>色粒  | 坯部と脚<br>部の接合<br>面に放射<br>状の溝を<br>有する |
| 158      | B11.7                          | —      | c         | 胴柱部<br>脚部<br>外面：不明<br>内面：ケズリ<br>内外面：ナデ                            | 淡黄褐色                     | 多量の石英・長<br>石                |                                     |
| 第7 トレンチ  |                                |        |           |                                                                   |                          |                             |                                     |
| 163      | —                              | —      | —         | 体部<br>外面：ナデ 内面：ハケメ                                                | 明橙褐色                     | 石英、長石、雲母                    |                                     |
| 164      | A20.6                          | A      | e 2       | 口縁部<br>内外面：ヨコナデ                                                   | 外：暗橙褐<br>色<br>内：黒灰褐<br>色 | 石英、長石、雲<br>母、角閃石？           |                                     |

土師器鉢観察表

(鍋田)

| 図版<br>番号 | 法量(cm)<br>A 口径<br>B 底径<br>C 器高 | 器<br>種 | 形態<br>口縁部 | 調 整                                                                  | 色 調  | 胎 土                | 備 考          |
|----------|--------------------------------|--------|-----------|----------------------------------------------------------------------|------|--------------------|--------------|
| 第 3 トレンチ |                                |        |           |                                                                      |      |                    |              |
| 104      | A13.3<br>B5.6<br>C6.6          | —      | —         | 外面<br>内面<br>上半：粗いハケメ風のナデ<br>下半：ナデ<br>上半：粗いハケメ風のヨコナデ<br>下半：ナデ、一部ヘラケズリ | 黄灰褐色 | 1～2mmの少量<br>の石英・長石 | 木葉底          |
| 146      | A10.9<br>C6.9                  | B      | b         | 外面<br>内面<br>上半：ヨコナデ<br>下半：ユビオサエ、ユビナデ<br>ナデ                           | 黄灰褐色 | 1～2mmの石英、<br>長石、雲母 | 台状の底<br>部をもつ |

土師器埴観察表

(鍋田)

| 図版<br>番号 | 法量(cm)<br>A 口径<br>B 底径<br>C 器高 | 器<br>種 | 形態<br>口縁部 | 調 整                                                         | 色 調                      | 胎 土                             | 備 考          |
|----------|--------------------------------|--------|-----------|-------------------------------------------------------------|--------------------------|---------------------------------|--------------|
| 第 3 トレンチ |                                |        |           |                                                             |                          |                                 |              |
| 105      | A14.0                          |        | c         | 外面<br>内面<br>上半：回転ナデ<br>下半：ケズリ風ミガキ<br>上半：回転ナデ<br>下半：ナデ、一部ハケメ | 外：橙褐色<br>内：橙灰褐<br>色      | 1mm大の赤色粒<br>子が細かく混<br>入 石が少ない   |              |
| 106      | A12.3                          |        | a         | 外面<br>内面<br>上半：回転ナデ<br>下半：ナデかユビオサエ<br>回転ナデ                  | 外：暗橙褐<br>色<br>内：暗灰褐<br>色 | 石英、長石                           | 内外面に<br>スス付着 |
| 107      | A12.2<br>C4.3                  |        | a         | 外面<br>内面<br>上半：回転ナデ<br>下半：ケズリ風ミガキ<br>上半：回転ナデ<br>下半：ナデ       | 橙褐色                      | 1～2mmの石英、<br>多量の長石、雲<br>母       |              |
| 108      | A13.3                          |        | b         | 外面<br>内面<br>上半：回転ナデ<br>下半：ナデかユビオサエ<br>回転ナデ                  | 橙褐色                      | 石英、多量の長<br>石                    | 外面に黒<br>斑あり  |
| 109      | A12.1<br>C5.4                  |        | a         | 外面<br>内面<br>上半：ヨコナデ<br>下半：軽いユビオサエ<br>ヨコナデ                   | 暗黄灰褐色                    | 1mm大の石英・<br>少量の長石               |              |
| 110      | A14.3                          |        | d         | 外面<br>内面<br>上半：回転ナデ、口縁部をつ<br>まみ出し気味にナデ<br>下半：ユビオサエ<br>回転ナデ  | 淡橙褐色                     | 1mm大の赤色粒、<br>粒子が細かく混<br>入 石が少ない |              |
| 113      | A12.6<br>C5.2                  |        | a         | 外面<br>内面<br>上半：ヨコナデ<br>下半：ユビオサエ<br>ヨコナデ                     | 暗橙褐色                     | 石英、長石                           |              |
| 119      | A12.8                          |        | b         | 外面<br>内面<br>上半：ナデ 下半：ケズリ<br>ナデ                              | 淡黄褐色                     | 1～3mmの石英、<br>長石                 | 外面に黒<br>斑あり  |
| 第 4 トレンチ |                                |        |           |                                                             |                          |                                 |              |
| 147      | A12.6<br>C4.1                  |        | b         | 外面<br>内面<br>上半：ヨコナデ<br>下半：ヘラケズリ<br>ナデ                       | 淡黄褐色                     | 1～3mmの多量<br>の石英、長石、<br>赤色粒      |              |

| 図版<br>番号 | 法量 (cm)<br>A 口径<br>B 底径<br>C 器高 | 器<br>種 | 形態<br>口縁部 | 調 整                             | 色 調            | 胎 土               | 備 考     |
|----------|---------------------------------|--------|-----------|---------------------------------|----------------|-------------------|---------|
| 148      | A13.5<br>C4.4                   |        | b         | 外面 上半：ヨコナデ<br>下半：ヘラケズリ<br>内面 ナデ | 外：黄褐色<br>内：橙褐色 | 石英、長石、雲母          | 外面に黒斑あり |
| 149      | A15.5<br>C5.9                   |        | b         | 外面 上半：ヨコナデ 下半：不明<br>内面 不明 (ナデか) | 橙褐色            | 1mm大の石英、<br>多量の長石 |         |

土師器ミニチュア土器観察表

(鶴田)

| 図版<br>番号 | 法量 (cm)<br>A 口径<br>B 底径<br>C 器高 | 器<br>種 | 形態<br>口縁部 | 調 整 | 色 調                      | 胎 土  | 備 考                 |
|----------|---------------------------------|--------|-----------|-----|--------------------------|------|---------------------|
| 第3トレンチ   |                                 |        |           |     |                          |      |                     |
| 111      | —                               | —      | —         | 体部  | 内外面：ユビオサエ                | 黒灰色  | 2～5mmの石英            |
| 第4トレンチ   |                                 |        |           |     |                          |      |                     |
| 150      | —                               | —      | —         | 体部  | 外面：ナデか<br>内面：ナデかユビオサエ    | 淡黄褐色 | 石英、長石<br>外面に黒斑あり    |
| 151      | —                               | —      | —         | 体部  | 外面：不明 (ナデか)<br>内面：ユビオサエ  | 淡黄褐色 | 石英、長石、雲母<br>底部に黒斑あり |
| 152      | —                               | —      | —         | 体部  | 外面：ナデ<br>内面：ユビナデ、ユビオサエ   | 淡茶褐色 | 石英、長石<br>外面に黒斑あり    |
| 153      | B3.2                            | —      | —         | 体部  | 外面：ナデ、ハケノ<br>内面：ナデ、ユビオサエ | 淡黄褐色 | 1～3mmの石英、<br>長石、雲母  |
| 154      | B2.6                            | —      | —         | 体部  | 内外面：ナデか                  | 淡黄褐色 | 多量の石英、長石<br>雲母      |
| 155      | B2.4                            | —      | —         | 体部  | 外面：ナデか<br>内面：ユビオサエ       | 淡黄褐色 | 石英、長石               |
| 157      | —                               | —      | —         | 体部  | 外面：不明 (ナデか)<br>内面：ユビナデ   | 淡黄褐色 | 少量の石英、長石            |

古墳時代石器・土器・石製品 (トレンチ内出土)

(鈴木・武谷)

| 図版<br>番号 | 器種 | 出土地点  | 計測値     |           |         |         |         | 石材  | 備考   |
|----------|----|-------|---------|-----------|---------|---------|---------|-----|------|
|          |    |       | 長さ (mm) | 幅/直径 (mm) | 厚さ (mm) | 穴径 (mm) | 重さ (mg) |     |      |
| 171      | 砥石 | T4    | 157.5   | 120.0     | 33.0    |         |         | 粘板岩 |      |
| 172      | 砥石 | SB1   | (145.0) | (82.0)    | (40.0)  |         |         | 粘板岩 | 過半欠損 |
| 173      | 砥石 | T1 1層 | (82.0)  | (29.0)    | (41.0)  |         |         | 砂岩  | 過半欠損 |
| 169      | 土鏡 | SB2   | 36.0    | 21.0      |         | 7.0     | 15.0    |     |      |
| 170      | 碧玉 | T1 8層 | 15.5    | 4.0       |         | 1.2     | 0.3     | 蛇紋岩 |      |

遺物観察表

土器観察表 (表採)

(中野・福田)

| 調査<br>番号 | 部位          | 縄文<br>外面<br>内面 | 文様・技法                                                  | 時期          | 色調<br>◇器壁(mm) | 胎上<br>混入鉱物          | 備考<br>◎単位直径(mm)  |
|----------|-------------|----------------|--------------------------------------------------------|-------------|---------------|---------------------|------------------|
| 174      | 胴部          | —<br>—         | 山形押型文                                                  | 黄島式         | 黄褐色<br>◇7.5   | 石英・長石               | ◎不明<br>焼成良好      |
| 175      | 胴部          | —<br>—         | 山形押型文                                                  | 黄島式         | 暗黄褐色<br>◇7.5  | 石英・長石               | ◎5.0<br>焼成良好     |
| 176      | 胴部          | —<br>—         | 山形押型文                                                  | 黄島式         | 暗黄褐色<br>◇7.0  | 石英・長石               | ◎5.0<br>焼成良好     |
| 177      | 胴部          | —<br>—         | 横位山形押型文                                                | 黄島式         | 黄灰褐色<br>◇7.5  | 石英・長石               | ◎5.0<br>焼成良好     |
| 178      | 胴部          | —<br>—         | 格子目押型文                                                 | 高山寺式        | 黄灰褐色<br>◇13.5 | 石英・長石・<br>雲母        | ◎不明<br>焼成良好      |
| 179      | 胴部          | —<br>—         | 縦位横内押型文                                                | 高山寺式        | 灰褐色<br>◇13.5  | 石英・長石・<br>角閃石       | ◎不明<br>焼成良好      |
| 180      | 胴部          | —<br>—         | 山形押型文                                                  | 穂谷式         | 暗褐色<br>◇8.0   | 長石・チャー<br>ート        | ◎不明<br>焼成良好      |
| 181      | 口縁部<br>(波状) | —<br>R L       | 隆帯上密なC字形彫文                                             | 中期初頭<br>～前葉 | 暗黄褐色<br>◇5.0  | 石英・長石               | 焼成やや不良           |
| 182      | 口縁部<br>(波状) | —<br>—         | 波頂部肥厚、削み                                               | 中期前葉        | 黄褐色<br>◇6.0   | 石英・長石・<br>赤色鉱物      | 焼成良好             |
| 183      | 口縁部<br>(波状) | —<br>—         | 深い円形刺突                                                 | 中期前葉        | 灰褐色<br>◇11.0  | 長石                  | 内面スス付着、<br>焼成堅緻  |
| 184      | 口縁部<br>(波状) | R L<br>—       | 口唇部平坦、押引き風円形刺突文、内<br>面：角棒状工具による縦位刻み                    | 船元Ⅰ式        | 黄灰褐色<br>◇6.0  | 石英・長石               | 内面スス付着、<br>焼成堅緻  |
| 185      | 口縁部<br>(波状) | —<br>R L       | 円形刺突文、I字形彫描き文                                          | 船元Ⅰ～<br>Ⅱ式  | 灰褐色<br>◇7.0   | 石英・長石               | 内外面スス付<br>着、焼成良好 |
| 186      | 口縁部<br>(波状) | —<br>R L       | 口唇部平坦、押引き風円形刺突文、円<br>形刺突文、隆帯上彫状工具による押引<br>き風削み、I字形彫描き文 | 船元Ⅰ～<br>Ⅱ式  | 黄灰褐色<br>◇7.0  | 石英・長石               | 焼成良好             |
| 187      | 口縁部<br>(波状) | —<br>R L       | 縦位素隆帯                                                  | 船元Ⅱ式        | 淡黄褐色<br>◇9.0  | 石英・長石・<br>チャー<br>ート | 焼成良好             |
| 188      | 口縁部<br>(波状) | —<br>R L       | 小さく浅い円形刺突文                                             | 船元Ⅰ式        | 黄灰褐色<br>◇7.5  | 石英・長石・<br>チャー<br>ート | 焼成堅緻             |
| 189      | 口縁部         | —<br>—         | 隆帯上二枚貝圧痕                                               | 船元Ⅱ式        | 暗黄褐色<br>◇7.0  | 石英・長石               | 焼成堅緻             |
| 190      | 口縁部         | —<br>R L       | 隆帯上二枚貝圧痕                                               | 船元Ⅱ式        | 黄灰褐色<br>◇6.0  | 石英・長石               | 焼成良好             |
| 191      | 口縁部         | —<br>R L       | 口唇部平坦、隆帯上円形刺突文・斜位<br>刻み、I字形彫描き文                        | 船元Ⅰ～<br>Ⅱ式  | 黄灰褐色<br>◇5.0  | 石英・長石               | 焼成良好             |
| 192      | 口縁部         | —<br>R L       | 押引き風円形刺突文、素隆帯                                          | 船元Ⅰ～<br>Ⅱ式  | 淡黄褐色<br>◇7.5  | 石英・長石               | 焼成良好             |

| 図版<br>番号 | 部位        | 縄文<br>外面<br>内面 | 文様・技法                                         | 時 期         | 色 調<br>◇器壁(μ) | 胎 土<br>流入鉱物    | 備 考<br>◎厚径直徑(mm) |
|----------|-----------|----------------|-----------------------------------------------|-------------|---------------|----------------|------------------|
| 193      | 口縁部       | —<br>R L       | 円形刺突文、I字形寛幅き文                                 | 船元I式        | 黄灰褐色<br>◇8.0  | 石英・長石          | 焼成良好             |
| 194      | 口縁部       | —<br>R L       | 口縁部から外面にかけ斜位刻み、竹管<br>腹面による押引き、隆帯上刻み           | 船元I～<br>II式 | 黄灰褐色<br>◇6.0  | 石英・長石          | 焼成良好             |
| 195      | 口縁部       | R L<br>—       | 刻み、円形刺突文                                      | 船元I式        | 暗黄褐色<br>◇7.5  | 石英・長石          | 焼成良好             |
| 196      | 口縁部       | —<br>—         | 押引き風円形刺突文、I字形寛幅き文                             | 中期前葉        | 黄灰褐色<br>◇5.5  | 長石・チャート        | 焼成良好             |
| 197      | 口縁部       | —<br>—         | I字形寛幅き文                                       | 船元I式        | 黄灰褐色<br>◇7.0  | 石英・長石          | 焼成良好             |
| 198      | 口縁部       | —<br>—         | 口唇部平面上竹管文                                     | 不明          | 黄灰褐色<br>◇4.5  | 石英・長石・<br>チャート | 焼成良好             |
| 199      | 口縁部       | —<br>—         | 深い円形刺突文、I字形寛幅き文、素<br>隆帯、竹管文                   | 船元I式        | 暗黄褐色<br>◇8.0  | 石英・長石          | 焼成良好             |
| 200      | 口縁部       | —<br>—         | 隆帯上斜位刻み                                       | 船元I～<br>II式 | 黄灰褐色<br>◇7.0  | 石英・長石          | 焼成良好             |
| 201      | 口縁部       | —<br>R L       | 斜位刻み                                          | 船元I～<br>II式 | 暗黄褐色<br>◇9.0  | 石英・長石          | 焼成堅緻             |
| 202      | 口縁部       | R L<br>R L     | 素隆帯                                           | 船元I～<br>II式 | 灰褐色<br>◇11.0  | 石英・長石          | 焼成良好             |
| 203      | 口縁部       | —<br>R L       | 口唇部より口縁外面にかけ刻み、竹管<br>腹面による押引き、I字形寛幅き文         | 船元I式        | 黄灰褐色<br>◇7.0  | 石英・長石          | 焼成良好             |
| 204      | 口縁部<br>付近 | —<br>—         | 隆帯上斜位刻み、円形刺突文、I字形<br>寛幅き文、内面：細い彫刻状工具によ<br>る施文 | 船元I～<br>II式 | 淡黄褐色<br>◇6.5  | 石英・長石・<br>チャート | 焼成堅緻             |
| 205      | 肩部付<br>近  | —<br>—         | 素隆帯                                           | 船元II式       | 灰褐色<br>◇7.0   | 石英・長石・<br>赤色鉱物 | 焼成良好             |
| 206      | 肩部        | —<br>—         | L R縄文圧痕                                       | 船元I式        | 黄灰褐色<br>◇6.0  | 石英・長石          | L Rの圧痕、<br>焼成良好  |
| 207      | 肩部        | —<br>—         | L R縄文圧痕                                       | 船元I式        | 黄灰褐色<br>◇7.0  | 石英・長石          | L Rの圧痕、<br>焼成良好  |
| 208      | 胴部        | —<br>—         | 隆帯上斜位刻み、I字形寛幅き文                               | 船元I～<br>II式 | 黄灰褐色<br>◇5.0  | 石英・長石          | 焼成堅緻             |
| 209      | 胴部        | R L<br>—       | 竹管腹面による押引き                                    | 中期前葉        | 黄灰褐色<br>◇6.0  | 石英・長石          | 焼成良好             |
| 210      | 胴部        | R L<br>—       | 隆帯上斜位刻み                                       | 船元I～<br>II式 | 淡黄褐色<br>◇5.0  | 石英・長石          | 焼成良好             |
| 211      | 胴部        | —<br>—         | 無節の燃糸文?                                       | 中期前葉        | 淡黄褐色<br>◇7.5  | 石英・長石          | 焼成良好             |
| 212      | 胴部        | —<br>—         | 無節の燃糸文?                                       | 中期前葉        | 淡黄褐色<br>◇6.0  | 石英・長石          | 焼成良好             |
| 213      | 胴部        | —<br>—         | 無節の燃糸文?                                       | 中期前葉        | 淡黄褐色<br>◇7.5  | 石英・長石          | 焼成良好             |

| 部位 | 縄文<br>外面<br>内面 | 文様・技法 | 時 期        | 色 調<br>◇器壁(m) | 胎 土<br>混入鉱物  | 備 考<br>◇器体直径(m)        |
|----|----------------|-------|------------|---------------|--------------|------------------------|
| 胴部 | R.L.<br>一      | 沈線    | 中期末～<br>後期 | 暗灰褐色<br>◇9.0  | 石英・長石・<br>雲母 | 節の整った縄<br>文、焼成やや<br>不良 |

古時代石器（表採） 1

（鈴木・武谷）

| 器<br>名<br>番<br>号 | 器<br>種 | 形整分類 |    | 計測値    |        |        |        | 石 材    | 備 考             |
|------------------|--------|------|----|--------|--------|--------|--------|--------|-----------------|
|                  |        | 基部   | 平面 | 長さ(mm) | 幅(mm)  | 厚さ(mm) | 重さ(mg) |        |                 |
| 218              | 石鏃     | I    | A  | 15.0   | 16.0   | 4.5    | 0.8    | 青色チャート | 先端部欠損？<br>左右非対称 |
| 217              | 石鏃     | I    | A  | (11.5) | 14.0   | 2.5    | (0.4)  | サヌカイト  |                 |
| 218              | 石鏃     | I    | A  | 12.5   | 12.0   | 4.0    | 0.4    | 青色チャート | 先端・片脚部欠損？       |
| 219              | 石鏃     | I    | A  | (13.0) | (13.0) | (3.5)  | (0.5)  | 青色チャート |                 |
| 220              | 石鏃     | I    | A  | 11.0   | 11.5   | 2.5    | 0.5    | サヌカイト  | 先端部欠損？          |
| 221              | 石鏃     | I    | A  | 14.0   | 15.0   | 3.5    | 0.6    | 青色チャート |                 |
| 222              | 石鏃     | I    | A  | 15.0   | 15.0   | 3.5    | 0.6    | 青色チャート | 先端部欠損？          |
| 223              | 石鏃     | I    | A  | 15.5   | 17.0   | 3.5    | 0.9    | 青色チャート |                 |
| 224              | 石鏃     | I    | A  | (13.5) | 15.0   | 4.0    | (0.7)  | 青色チャート | 先端部欠損？          |
| 225              | 石鏃     | I    | B  | 15.0   | 11.5   | 2.5    | 0.4    | サヌカイト  |                 |
| 226              | 石鏃     | I    | B  | 14.0   | 11.5   | 2.5    | 0.4    | サヌカイト  | 片脚部欠損           |
| 227              | 石鏃     | I    | B  | 16.5   | 10.5   | 2.5    | 0.4    | 赤色チャート |                 |
| 228              | 石鏃     | I    | B  | 16.0   | 14.0   | 3.5    | 0.8    | 青色チャート | 片脚部欠損？          |
| 229              | 石鏃     | I    | B  | 16.0   | 14.5   | 2.5    | 0.6    | 青色チャート |                 |
| 230              | 石鏃     | I    | B  | 18.0   | 14.0   | 3.0    | 0.7    | 赤色チャート | 片脚部欠損           |
| 231              | 石鏃     | I    | B  | 17.5   | (13.5) | 3.5    | (0.6)  | 青色チャート |                 |
| 232              | 石鏃     | I    | B  | 20.0   | (16.0) | 3.0    | (1.0)  | 赤色チャート | 片脚部欠損           |
| 233              | 石鏃     | I    | B  | 19.0   | 15.5   | 4.0    | 0.8    | 青色チャート |                 |
| 234              | 石鏃     | I    | B  | 17.0   | 12.5   | 2.5    | 0.6    | 青色チャート | 片脚部欠損           |
| 235              | 石鏃     | I    | H  | 18.0   | 13.0   | 4.5    | 0.8    | 青色チャート |                 |
| 236              | 石鏃     | I    | H  | 20.0   | 15.5   | 4.5    | 0.9    | 青色チャート | 片脚部欠損？          |
| 237              | 石鏃     | I    | B  | 20.2   | (13.0) | 4.0    | (1.0)  | 黒曜石    |                 |
| 238              | 石鏃     | I    | B  | 21.0   | (13.0) | 3.5    | (1.2)  | 青色チャート | 片脚部欠損？          |
| 239              | 石鏃     | I    | B  | 22.0   | 16.5   | 3.5    | 0.8    | 青色チャート |                 |
| 240              | 石鏃     | I    | B  | 24.5   | (13.5) | 4.5    | (1.4)  | 青色チャート | 片脚部欠損？          |
| 241              | 石鏃     | I    | B  | (22.0) | (14.0) | 4.0    | (1.1)  | 青色チャート |                 |
| 242              | 石鏃     | I    | B  | 22.0   | 17.0   | 3.5    | 1.6    | 青色チャート | 先端・片脚部欠損        |
| 243              | 石鏃     | I    | B  | 26.5   | 21.0   | 6.5    | 2.9    | 青色チャート |                 |
| 244              | 石鏃     | I    | B  | 22.5   | (15.0) | 2.5    | (0.8)  | サヌカイト  | 片脚部欠損？          |
| 245              | 石鏃     | I    | B  | 25.5   | (14.0) | 3.5    | (0.9)  | 青色チャート |                 |
| 246              | 石鏃     | I    | B  | 29.5   | (11.5) | 3.5    | (1.0)  | 青色チャート | 片脚部欠損           |
| 247              | 石鏃     | I    | B  | 25.0   | 16.5   | 2.5    | 0.9    | サヌカイト  |                 |
| 248              | 石鏃     | I    | C  | 15.5   | 15.5   | 2.5    | 0.8    | 青色チャート | 片脚部欠損           |
| 249              | 石鏃     | I    | C  | 19.0   | (14.0) | 3.0    | (0.8)  | 青色チャート |                 |
| 250              | 石鏃     | I    | C  | 22.5   | 17.0   | 3.0    | 1.2    | 赤色チャート | 片脚部欠損           |
| 251              | 石鏃     | I    | C  | 24.5   | 16.0   | 3.0    | 1.1    | サヌカイト  |                 |
| 252              | 石鏃     | I    | C  | 25.5   | 18.5   | 3.5    | 1.4    | 青色チャート | 片脚部欠損           |
| 253              | 石鏃     | I    | C  | 28.0   | 17.0   | 3.0    | 1.4    | 赤色チャート |                 |
| 254              | 石鏃     | I    | C  | 29.0   | 13.5   | 3.5    | 1.3    | 青色チャート | 片脚部欠損           |
| 255              | 石鏃     | II   |    | 21.5   | 14.5   | 2.5    | 1.0    | 赤色チャート |                 |
| 256              | 石鏃     | II   |    | 20.5   | 13.5   | 5.0    | 1.6    | 青色チャート | 片脚部欠損           |
| 257              | 石鏃     | II   |    | 23.5   | 15.0   | 4.5    | 1.8    | 青色チャート |                 |

| 図版<br>番号 | 器種 | 形態分類 | 計測値 |    |         |        | 石 材 | 備 考   |         |         |
|----------|----|------|-----|----|---------|--------|-----|-------|---------|---------|
|          |    |      | 基部  | 平面 | 長さ (mm) | 幅 (mm) |     |       | 厚さ (mm) | 重さ (mg) |
| 258      | 石鐮 | II   |     |    | 24.5    | 18.5   | 4.5 | 2.0   | 青色チャート  | 先端部欠損   |
| 259      | 石鐮 | II   |     |    | 20.5    | 22.0   | 4.0 | 1.7   | サヌカイト   |         |
| 260      | 石鐮 | II   |     |    | 19.5    | 19.5   | 5.0 | 1.6   | 青色チャート  |         |
| 261      | 石鐮 | III  |     |    | (21.5)  | 17.5   | 4.5 | (2.1) | 青色チャート  |         |
| 262      | 石匙 |      |     |    | 31.0    | 17.0   | 4.5 | 2.5   | サヌカイト   |         |
| 263      | 石匙 |      |     |    | 35.0    | 27.0   | 6.0 | 6.6   | サヌカイト   |         |
| 264      | 石鐮 |      |     |    | 39.5    | 25.0   | 8.0 | 6.5   | 赤色チャート  |         |

縄文時代石器・石製品 (表採) 2

(鈴木・武谷)

| 図版<br>番号 | 器 種  | 計測値    |        |        |        |        | 石 材 | 備 考   |
|----------|------|--------|--------|--------|--------|--------|-----|-------|
|          |      | 長さ(mm) | 幅(mm)  | 厚さ(mm) | 穴径(mm) | 重さ(g)  |     |       |
| 265      | 切目石鐮 | 55.0   | 46.0   | 23.0   |        | (46.0) | 砂岩  | 欠損あり  |
| 266      | 切目石鐮 | 61.5   | 35.0   | 14.5   |        | 41.0   | 粘板岩 | 完存    |
| 267      | 切目石鐮 | 65.0   | 27.5   | 13.0   |        | (26.4) | 粘板岩 | 欠損あり  |
| 268      | 切目石鐮 | 63.0   | 24.0   | 11.0   |        | (21.2) | 粘板岩 | 欠損あり  |
| 269      | 切目石鐮 | 65.0   | 27.0   | 10.0   |        | (20.8) | 粘板岩 | 欠損あり  |
| 270      | 切目石鐮 | 62.0   | 24.5   | 15.0   |        | (31.5) | 粘板岩 | 欠損あり  |
| 271      | 切目石鐮 | (62.0) | (20.0) | (10.5) |        | (11.3) | 粘板岩 | 過半欠損  |
| 272      | 切目石鐮 | 53.0   | 20.0   | 14.5   |        | (25.8) | 粘板岩 | 欠損あり  |
| 273      | 切目石鐮 | 47.0   | 28.0   | 13.0   |        | 22.1   | 粘板岩 | 完存    |
| 274      | 切目石鐮 | (45.0) | (31.0) | (12.0) |        | (17.8) | 蛇紋岩 | 欠損あり  |
| 275      | 切目石鐮 | (49.0) | (27.0) | (17.0) |        | (15.2) | 粘板岩 | 過半欠損  |
| 276      | 切目石鐮 | (45.0) | (21.0) | (11.0) |        | (9.7)  | 粘板岩 | 過半欠損  |
| 277      | 切目石鐮 | (38.0) | (19.5) | (9.0)  |        | (7.5)  | 粘板岩 | 過半欠損  |
| 278      | 切目石鐮 | (39.0) | (17.5) | (8.0)  |        | (4.4)  | 粘板岩 | 過半欠損  |
| 279      | 切目石鐮 | (36.0) | 25.0   | 15.5   |        | (22.6) | 泥岩  | 欠損あり  |
| 280      | 切目石鐮 | (31.0) | (29.5) | 13.0   |        | (13.6) | 砂岩  | 過半欠損  |
| 281      | 切目石鐮 | (26.5) | (26.5) | (7.5)  |        | (4.3)  | 粘板岩 | 過半欠損  |
| 282      | 切目石鐮 | (29.0) | (24.0) | (8.5)  |        | (6.2)  | 粘板岩 | 過半欠損  |
| 283      | 切目石鐮 | (26.0) | (21.0) | (11.0) |        | (6.1)  | 蛇紋岩 | 過半欠損  |
| 284      | 切目石鐮 | 44.5   | 24.5   | 17.0   |        | 22.7   | 安山岩 | 完存    |
| 285      | 切目石鐮 | 54.0   | 21.0   | 12.5   |        | 18.0   | 粘板岩 | 完存    |
| 286      | 礫石鐮  | 54.5   | 48.0   | 9.5    |        | 35.8   | 砂岩  | 完存    |
| 287      | 礫石鐮  | 44.0   | 43.0   | 19.0   |        | 41.4   | 凝灰岩 | 完存    |
| 288      | 礫石鐮  | (65.0) | 55.0   | 15.0   |        | (55.9) | 砂岩  | 過半欠損  |
| 289      | 磨製石斧 | (66.0) | 29.0   | 9.5    |        | (32.1) | 蛇紋岩 | 先端部欠損 |
| 290      | 磨製品  | (54.0) | 21.0   | 7.0    | 1.0    | (11.3) | 泥岩? | 欠損あり  |

## 圖 版



1 遺跡遠景（東より）



2 調査前の状況（北より）



1 第1トレンチ(東より)



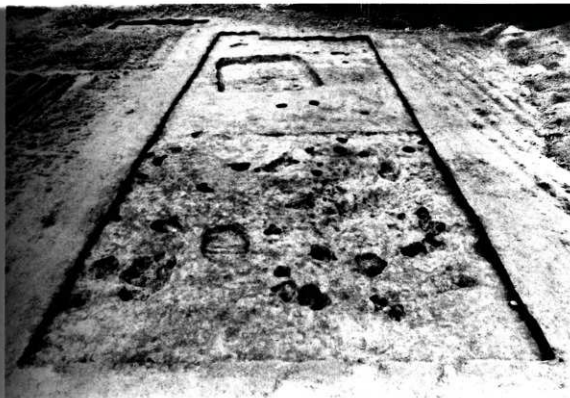
2 第2トレンチ(西より)



3 第3トレンチ(東より)



4 第6トレンチ(東より)



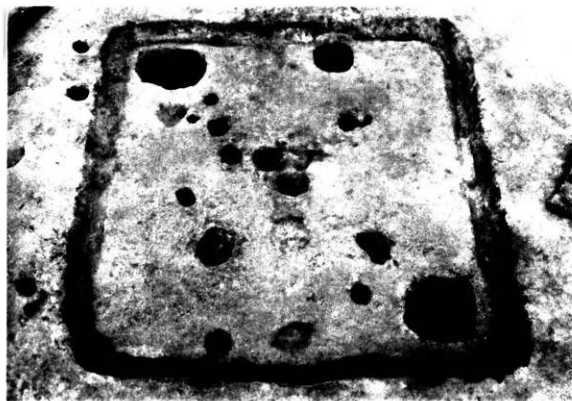
1 第4トレンチ(西より)



2 第3トレンチ配石S X 1(北より)



1 住居址SB1遺物出土状況(東より)



2 住居址SB1完掘状況(東より)

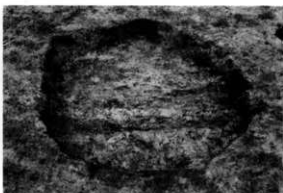
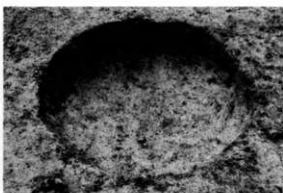


1 (上) SB1、B区遺物出土状況 (西南より)

2 (下) SB1、D区遺物出土状況 (東南より)

3 (上) SB1、焼土塊中の遺物出土状況 (東より)

4 (下) SB1、土壌SK5遺物出土状況

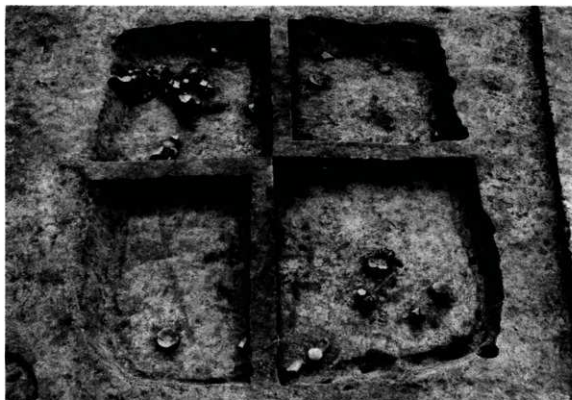


5 (上) SB1下部の土壌SK13 (東より)

6 (下) 土壌SK14遺物出土状況 (西より)

7 (上) 焼土塊SX3 (北より)

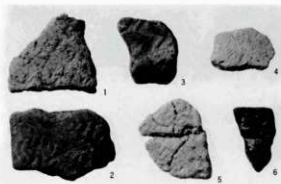
8 (下) 焼土塊SX4 (西より)



1 住居址 S B 2 遺物出土状況（東より）



2 住居址 S B 2 完掘状況（東より）



1 早期押型文土器 第1トレンチ(1~3)  
第3トレンチ(4~6)



2 同左内面



3 中期の土器 第3トレンチ(7~20)  
第4トレンチ(21)



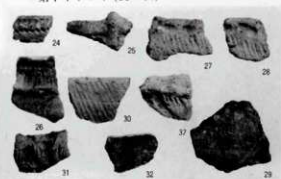
4 同左内面



5 早期押型文土器 第6トレンチ(22・23)  
第7トレンチ(33~36)



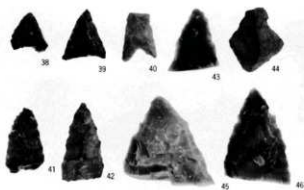
6 同左内面



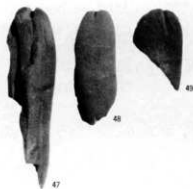
7 中期の土器 第6トレンチ(24~32)  
第7トレンチ(37)



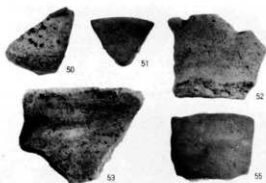
8 同左内面



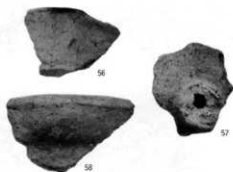
1 石鏃・尖頭器・石匙



2 石錘



3 第1トレンチ出土土師器・須恵器



4 第3トレンチ包含層出土土師器

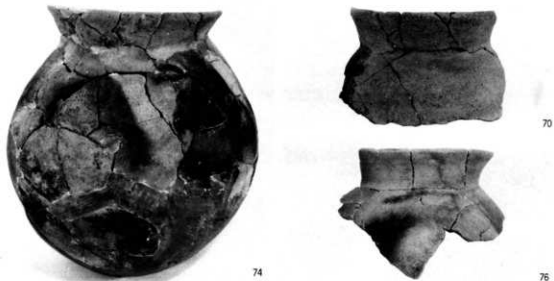


5 住居址SB1出土須恵器



62

63



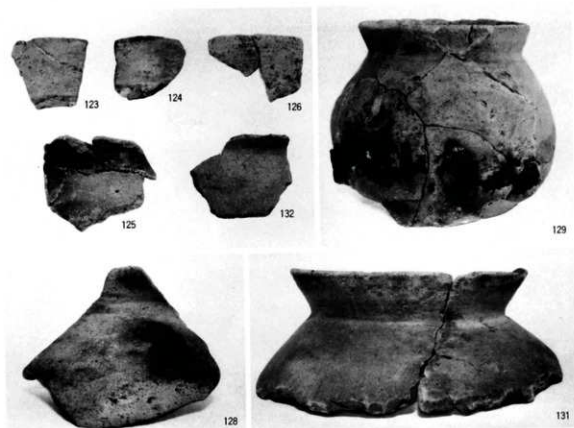
1 住居址SB1出土土師器 (1)



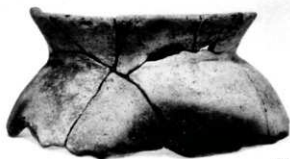
1 住居址SB1出土土師器(2)



1 住居址SB1内土壙SK5出土土師器・須惠器



2 住居址SB2出土土師器(1)



127



135



136



130



137



145



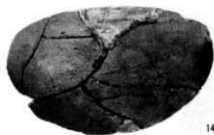
147



145



142



148



152



153



155



150



151

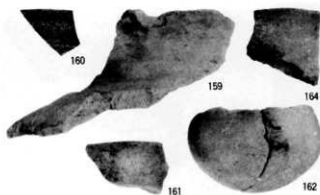


154



146

1. 住居址SB2出土土師器(2)



2 第4トレンチSK14出土土師器

1 第4・6・7トレンチ出土土師器



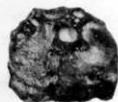
3 第7トレンチ出土土師器



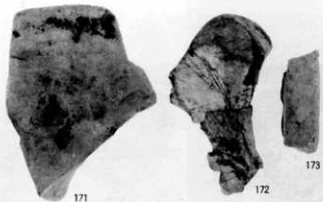
4 ミニチュア土器 5 土鍾 6 管玉



8 構造物の壁体



7 鉄滓



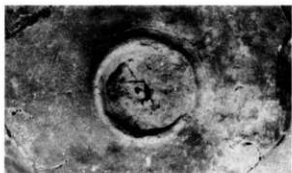
9 砥石



10 鉄製品



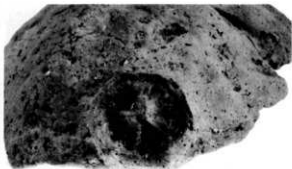
1 船元Ⅰ式の施文順序



4 高坏B手法坏部 (117)



2 高坏B手法坏部 (83)



5 高坏C手法坏部 (145)



3 高坏B手法脚部 (83)



6 高坏C手法脚部 (145)



7 埴A手法 (113)



8 埴B手法 (107)



9 埴C手法 (147)

1991年3月25日 印刷

1991年3月30日 発行

# 立命館大学文学部学芸員課程研究報告 第3冊

——有熊遺跡第1・2次発掘調査概報——

編集 立命館大学文学部学芸員課程

〒603 京都市北区雪持院北町56番地の1

電話 075 (465) 1111

印刷 有限会社 真 陽 社

〒600 京都市下京区油小路仏光寺上ル

電話 075 (351) 6034